

〈 取付設置説明書 〉

システムキッチン

株式会社 ウッドワン フリーダイヤル
お客様相談室 0120-641-265
(キッチン専用フリーダイヤル)
受付時間【平日・土日祝】9時～18時 ※年末年始・夏期休暇を除く
●土日・祝日は受付のみ。対応は翌営業日以降となります。
●電話または訪問にて状況をおうかがいした後、改めて修理訪問させていただく場合がございます。
●ご不明な点は、お気軽にご相談ください。

- 取付設置開始前に必ずお読みください。
- 取付業者の安全と使用者の安全確保のために、この取付設置説明書をよくお読みになり、安全で正しい取付設置を行ってください。
- 配管工事は、すべて「水道法」「建築基準法」「各都市の条例、規定」に準じて行ってください。
- 電気配線工事は、「電気設備技術基準」や「内線規定」に従って確実に行ってください。
配線工事は、電気工事士の資格が必要です。
- 梱包材や残材は、「廃棄物処理法」に従って適切に処理してください。
- 取扱説明書、保証書は、必ずお客様にお渡しください。
(取付設置完了後、使いかたを説明してください。)

もくじ

安全上のご注意	2	P型キッチンの取り付け	34
工事区分 ガイドライン	4	Lシンクの取り付け	43
各部のなまえ	5	排水部品の取り付け	44
部品の確認	6	シンク下収納パーツの取り付けと取り外し	47
取付設置をする前に	7	開き扉の取り外しと取り付け・調整方法	48
ウォールキャビネットと天井幕板の取り付け	11	引出しの取り外しと取り付け	49
ウォールキャビネットとパネルの取り付け	14	引出し扉の脱着【ベアリングレールタイプ】	50
レンジフードと天井幕板の取り付け	15	引出し扉の脱着【ローラーレールタイプ】	51
ベースキャビネットの配管について	16	引出し扉の調整	52
キャビネットの梱包用補強板について	18	小引出しの脱着・調整	53
加熱機器スパーサー(金属)について	19	オープンロック機構について	54
ベースキャビネットの取り付け	20	コーキング処理	55
カウンター(ワークトップ)の取り付け	23	扉の調整・清掃・検査	56
タイル下地カウンターについて	24	養生	57
カウンター(ワークトップ)の取り付け	25	メモ	58
バックガードの取り付け	32	取付設置後の検査	60
パネルの取り付け	33		

安全上のご注意 (必ずお守りください)

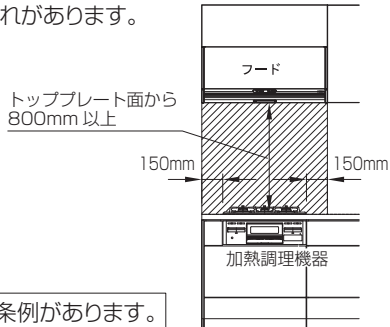
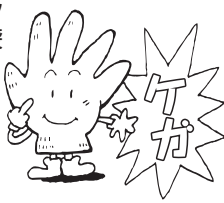
取付・設置される人への危害を未然に防止するためと、お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するために、取付・設置においては、必ずお守りいただくことを次に説明しています。

●表示内容を見逃して誤った取り付けをした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

 警告	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は「障害を負う可能性または物理的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

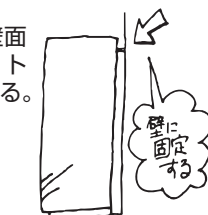
●お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は絵表示の一例です。)

	この絵表示は、してはいけない「 禁止 」内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただく「 強制 」内容です。
	この絵表示は、気をつけていただきたい「 注意喚起 」内容です。

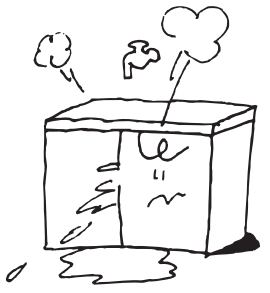
 警告	
 分解禁止	 必ずおこなう 取付時はヘルメット、安全靴などを着用する。 着用しないと、キャビネットの角で頭を打ったり、落下物による打撲などの事故の原因となります。
 禁止 レンジフード横には一般ウォールキャビネットを設置しない。(不燃ウォールキャビネットを使用してください。) 不燃ウォールキャビネットであっても斜線部分にかかってはいけません。 火災のおそれがあります。  火災予防条例があります。 熱源との離隔距離は、機種や地域により異なる場合があります。詳しくは消防署等にお問い合わせください。	 必ずおこなう 電気工事、ガス工事、水道工事は、関連する法令・規定にしたがって、必ず「有資格者」が行う。  接続や固定が不安定な場合は、火災、ガス漏れ、水漏れの原因になります。  必ずおこなう ウォールキャビネットの設置は、建築壁の構造を確かめて、取付・設置説明書通りに確実に進行。  設置に不備があると、ウォールキャビネットが落下して、けがをします。
 必ずおこなう ステンレス製ワークトップやシンクは、必ず手袋をして取り扱う。  手袋をしないで切断面にさわると、けがをします。	 必ずおこなう キャビネットの固定には、必ず指定のねじ(ビス)を使用する。 使用しないと、キャビネットが落下して、けがの原因になります。  必ずおこなう 下地材の材料仕様は住宅(建築物)との兼ね合いがあるので、現場監督・建築士などと相談のうえ、仕様決定する。 不適切な材料を使用すると十分な強度が得られず、落下し、事故の原因となります。

安全上のご注意 (必ずお守りください)

警告

必ずおこなう	取付・設置完了後は、扉のかたむき・ガタつきや 丁番のゆるみがないことを必ず確認する。  扉の取り付けに異常があると、使用中に扉が落下して、けがをすることがあります。	必ずおこなう キッチンに組み込まれる電気製品・調理機器・レンジフード・その他機器については、それぞれの取付・設置説明書、製品本体の表示事項を守り、正しく設置する。  設置を誤ると、思わぬ事故や故障の原因になります。
必ずおこなう	ツールキャビネットは必ず壁面固定を行う。 ベースキャビネットは必ず壁面に固定する。対面レイアウトキャビネットは必ず床固定する。  固定を行わないと、キャビネットが転倒してけがをすることがあります。	必ずおこなう 取り付け・仕上げに使われる溶剤・洗剤・接着剤・その他薬品類は、それぞれの注意表示にしたがって、正しく使う。  誤った使い方をすると、人体に影響が出たり、使用部材の損傷や劣化の原因となります。

注意

禁止	扉や取っ手にぶら下がったり、扉を大きく開けすぎない。 扉や取っ手が外れて、けがをするおそれがあります。	必ずおこなう ゴミ収納本体ナットの締付けは、説明書にしたがって確実に行う。  締付けが不十分な場合は、水がもれ床を腐らせることがあります。
禁止	ウォールキャビネットの扉を開けたまま作業しない。 頭を打ったり、収納物が落下して、けがをするおそれがあります。	必ずおこなう 水栓の接続は、確実にシールを行う。  接続が不完全な場合は、水がもれ床などを腐らせることがあります。
禁止	排水ホースはU字型に曲げたり、折り曲げて取り付けない。また、長いまま排水管に差し込み、横管に当たる状態で取り付けない。(管工事)  排水能力が低下して、シンクから水があふれ、周囲を汚損するおそれがあります。	必ずおこなう 取付設置で使用するねじを固定する場合は、必ずドライバーで行い、締めすぎによるねじの空回り、折れ、頭(スリワリ)つぶれのないようにする。 固定用ねじがきかないと、キャビネットなどが落下してけがの原因となります。
必ずおこなう	排水管の接続部は確実に締め付ける 接続が不完全な場合、水漏れし、不快な臭い、かびの発生、腐食の原因となります	必ずおこなう カウンターと壁、エンドパネルの合わせ部はシール剤で必ずシールする。 シールが不完全な場合、水こぼれでエンドパネル、壁および床を痛めるおそれがあります。
必ずおこなう	排水管キャップと排水管の接続は、必ずシールをする。(管工事) シールが不完全な場合、臭気が発生したり、湯気が上がりキャビネットやキャビネット内の収納物を破損するおそれがあります。	必ずおこなう ガラス扉は強化ガラス(熱処理ガラス)を採用していますが、破損した場合、破片に注意する。 注意しないと、破片によりけがをすることがあります。

工事区分 ガイドライン

●システムキッチンの工事区分

本説明書は、キッチンの本体組立・設置と関連工事（建設工事）である大工事、電気工事、ガス配管工事、管工事（給排水）、建具工事などと区別して説明しています。

建設工事は関連する法令・規定に従って法的有資格者による工事に必要になります。

流通店様からの発注で下請けとして本体の「取付・設置」を行う場合は、建設工事部分とキッチン本体「取付・設置」を区別して行ってください。

設置前工事、設置後工事の一部でも含む場合は、建設工事になります。

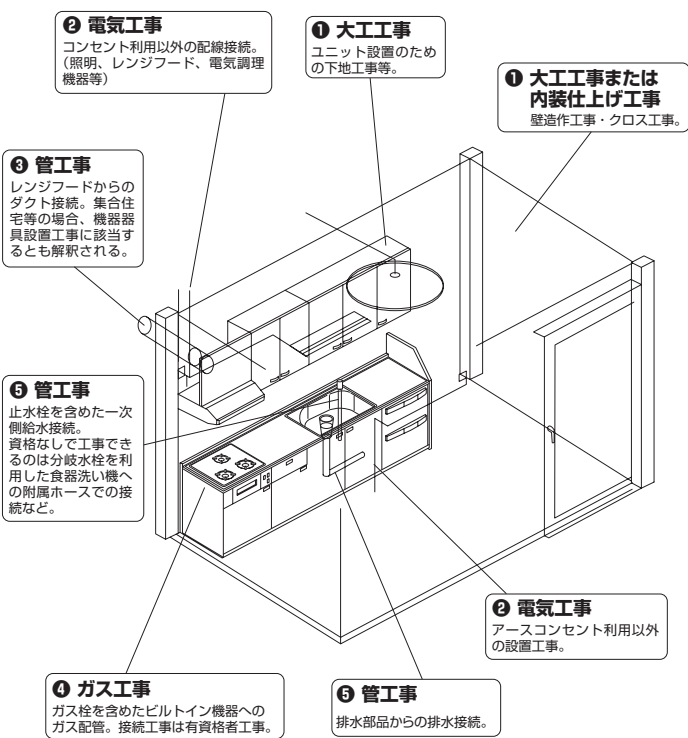
●システムキッチンの「取付・設置」と工事区分



●システムキッチンの工事部分〈例示〉

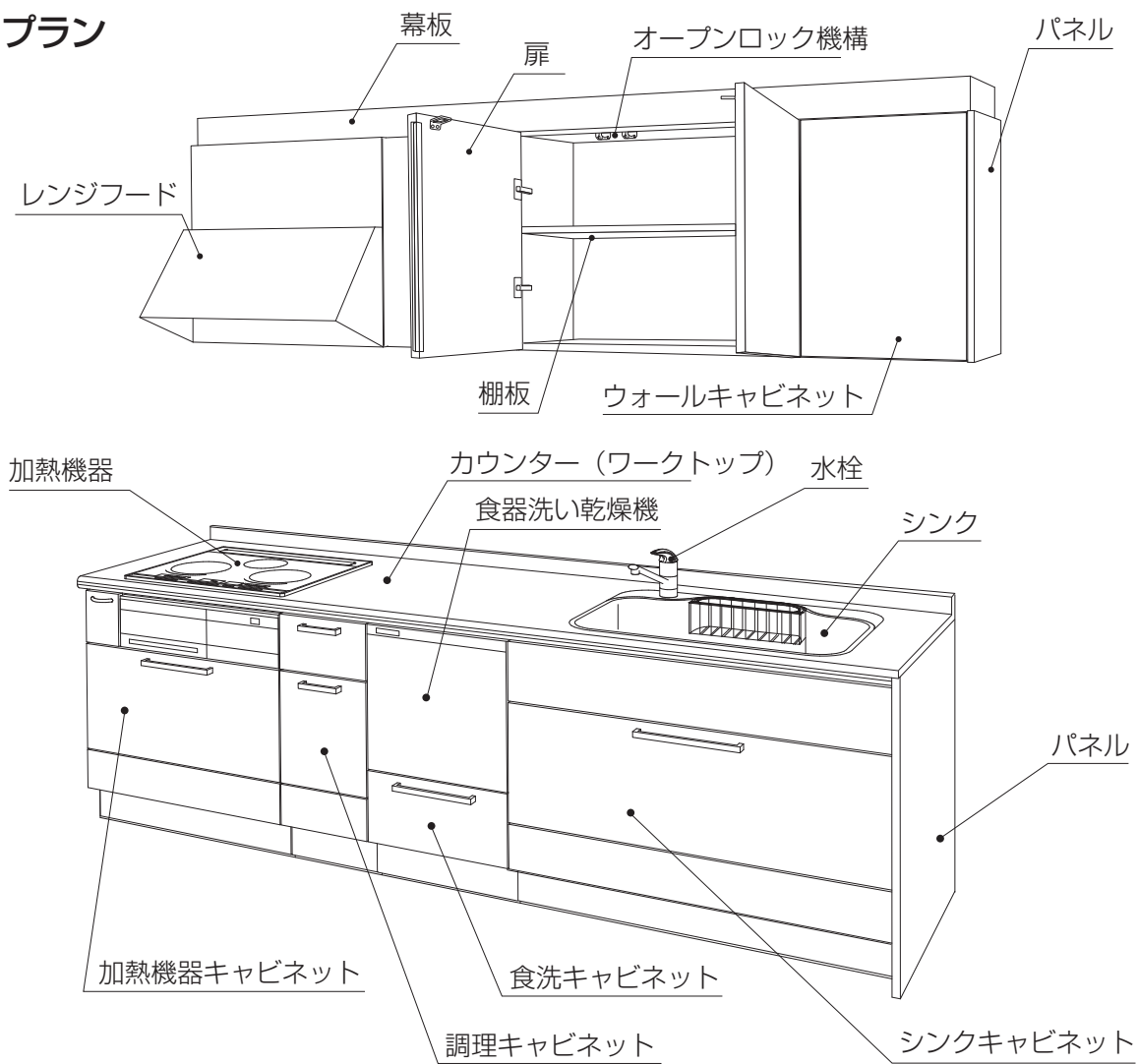
キッチン 工事区分	部位 (図)	区分	作業名称(区分)	建設工事					作業内容
				大 工 事	管 工 事	電 気 工 事	ガ ス 機 器 設 置	キ ッチン 取 付	
設置前工事	①	大工	外壁の開口工事	○	○				レンジフードのダクト用建築壁の穴あけ工事
			建築壁の下地処理工事	○					ウォールユニット等の取り付けのための壁下地処理工事
			幕板取付壁下地処理	○					天井・壁等の幕板取り付けのための下地処理
			アンカー、吊ボルト工事	○					ウォールユニット、レンジフード等のアンカー、吊ボルト工事
			排気ダクトの関連工事		○	○			建築物の事前ダクト配管等の工事
			キッチンパネル下地処理工事	○					キッチンパネルを貼るための建築壁の下地処理工事
	②	電気	レンジフードの電気工事			○			建築の屋内配線と配線器具（コンセント）工事
			IH調理機器の電気工事			○			IH調理器専用200Vの事前電気工事
			ウォールユニット部分の電気工事			○			照明等の電気工事
			電動昇降ウォールユニットの電気工事			○			電動昇降ウォールユニットの専用電源・アース工事
	③	管	排水配管の立ち上げ工事		○				キッチン排水用の所定位置排水管立ち上げ工事
			給水・給湯配管立ち上げ工事		○				キッチン専用の所定位置配管立ち上げ工事
	④	ガス	食器洗い機給排水配管工事		○				食器洗い機用の専用給水・給湯排水事前工事
			ガス調理機器のガス配管工事						ガス機器用の事前ガス配管工事
キッチン 本体取付設置		建設工事 外区分	キッチンパネル取付					○	製品を加工して建築下地へ取り付け
			製品間のシリコン充填					○	製品間の隙間を仕上げる処理作業
			レンジフード取付					○	本体及び化粧パネルを取り付ける作業
			ウォールユニット取付					○	ウォールユニットを取り付ける作業
			電動昇降ウォールユニット取付					○	電動昇降ウォールユニットを取り付ける作業
			フロアーユニット・ワークトップの取付					○	フロアーユニット・ワークトップの組立・調整して設置する作業
			排水部品の組立					○	排水部品とシンクの組立
			水栓の組立・ワークトップへの取付					○	水栓、浄水器同梱部材の組立（ワークトップへの取付）
			ビルトイン機器の取付					○	ビルトイン機器のキッチン本体への組込作業
			試運転、完成品検査（注記1）					○	完成後の試運転、性能確認検査
設置後工事	②	電気	ウォールユニット照明器具工事			○			事前配線の電源線と照明器具の接続、検査
			電気配線器具の取付			○			スイッチ、コンセント等の電気配線工事
			レンジフードとダクト接続工事		○				建築ダクトとレンジフードの接続、検査
	④	ガス	その他電化機器の工事			○			電化機器と電源線、アースの接続工事
			ガス調理機器のガス配管接続				○		ガス機器とガス栓との接続（資格要）
	⑤	管	給水・給湯配管と水栓の接続		○				給水・給湯の一次側と水栓の接続、検査
			給水・給湯配管とオプション機器の接続		○				オプション機器と一次側給排水の接続、検査
			建築側排水管への接続工事		○				キッチン排水管と建築排水管の接続、検査

注記1) 製品の完成品検査、試運転は、工事完成後行う場合が多い。

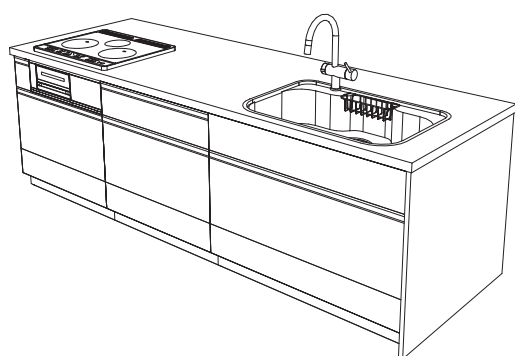
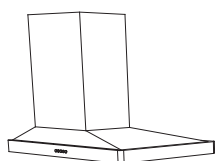


各部のなまえ

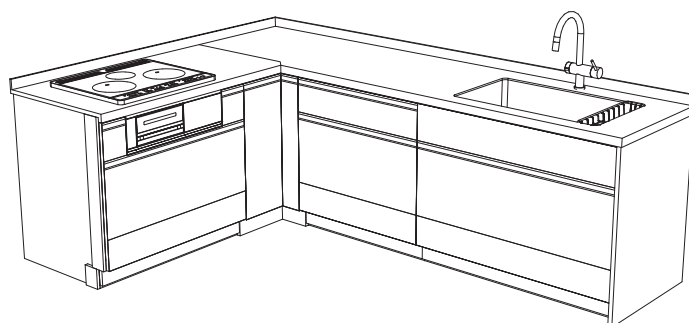
●I型プラン



●P型プラン

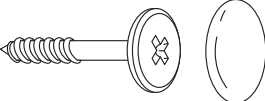


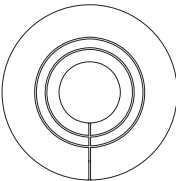
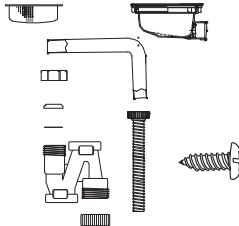
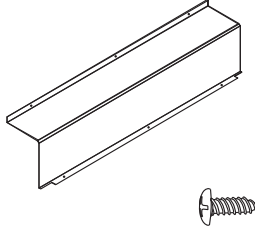
●L型プラン

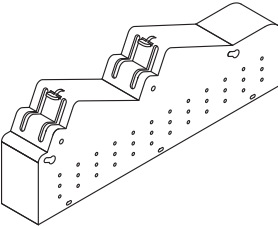
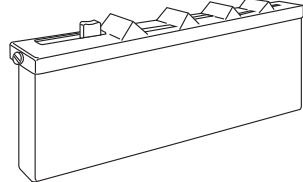
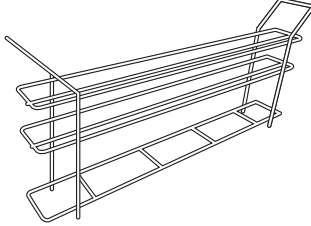
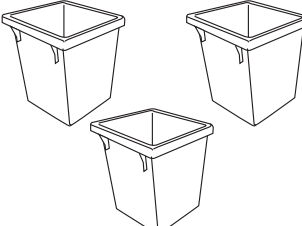


部品の確認

各カウンター・キャビネット内に、基本セットの取り付けに必要な部品を同梱しています。
取り付けを始める前に必ず確認してください。

キャビネット・パネル連結ビス	キャビネット壁面固定ビス	棚受けダボ
		
寸法：ジョイントスクリュー 4×28 (化粧キャップ付)	寸法：皿コースレッド 4.5×65 (化粧キャップ・ワッシャー付)	
ベースキャビネット	ベースキャビネット	
ウォール・アップーキャビネット	ウォール・アップーキャビネット	数量：4 個／棚板1枚につき

シーリングプレート	部品箱(ワークトップに同梱)	配管カバー
	各シンク用 排水トラップ部品 	
	カウンター固定ビス トラスタッピング 4×12	配管カバー本体・取り付けビス 寸法：トラスタッピング 4×12
	排水トラップ一式	キャビネット間口 600 以上 6 本
1 個	1 箱	キャビネット間口 600 未満 4 本

引出し用			
包丁差し	包丁差し	まな板・トレースタンド	小物ポケット
			
仕様によりセット内容が異なります。			
1 個	1 個	1 個	3 個

取付設置をする前に

部材の確認

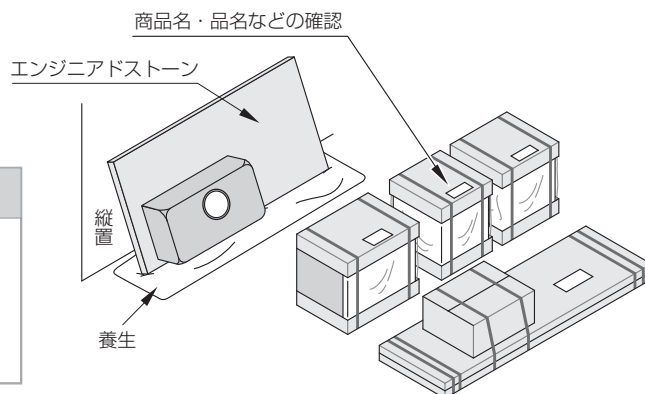
- 注文した商品の品番・数量を確認する。
- 開梱前に包装材など外観に破損がないか確認する。
- 開梱後は商品に傷・破損がないか確認する。

⚠ 注意



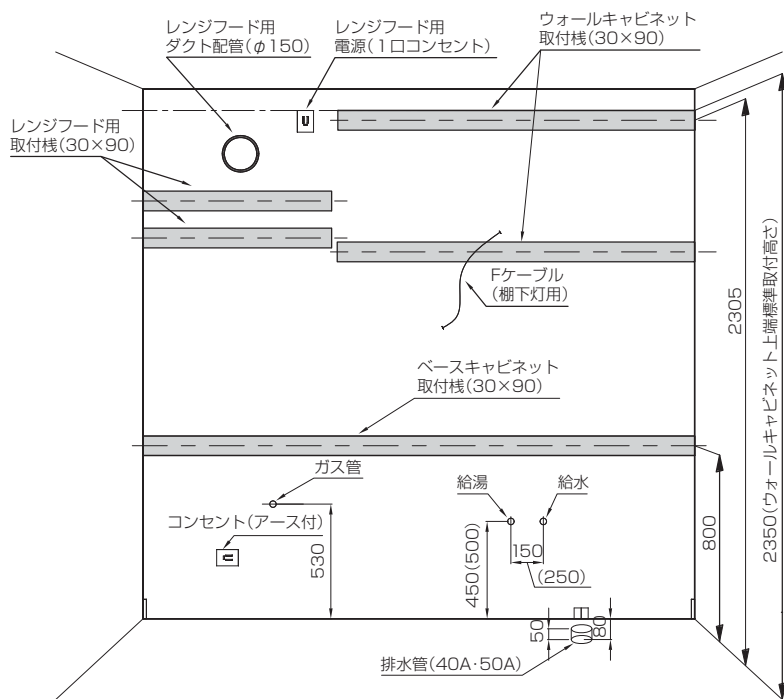
禁止

エンジニアドストーンカウンターは平置きしない
仮置きや保管をする場合は、不陸のない場所にキズが付かないよう養生をして縦置きしてください。
平置きは絶対にしないでください。



設置場所の確認

- 取付設置図面通りに、下地・木さん・給排水管・コンセント・電源線・ガス管・ダクトなどの工事が完了していることを確認する。
- ※修正が必要なものは、修正工事依頼をすること。



(例) I型キッチン (シンク右配列 / ワークトップ高さ 850mm / ウォールキャビネット上端取付高さ 2350mm)

調理器具・レンジフード・レンジフード用ダクトは取り付け面の不燃指定や可燃物との離隔距離が火災予防条例で定められています。
※詳しくは所轄の消防署で確認してください。

【壁面取り付け枠位置の確認】

⚠ 警告



必ずおこなう

- 壁面に木下地が強固に固定されていることを確認する。
 - 木下地はくさりのない木材をご使用ください。(大工事)
- 木下地の取り付けが不完全な場合、ウォールキャビネットが落下してけがをします。

【建築壁について】

- 同梱の壁固定ねじは、吊戸棚本体と木下地の間に 12.5 mmの不燃材を想定しています。
建築壁には、かならず下地枠 (厚さ 30 mm以上) を取り付けてください。(大工事)
- 建築壁には代表的なものとして以下の種類があります。

木 質 壁

軽量鉄骨壁

A L C 壁

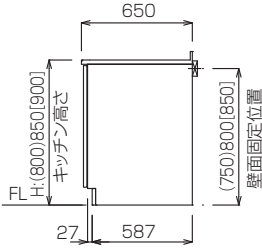
R C 壁

取付設置をする前に

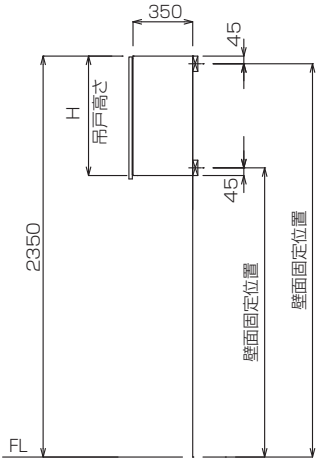
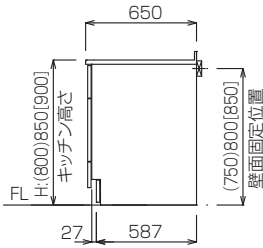
【下地棧の取り付け寸法と取り付け要領】

●キッチン

アンダーストッカーなし
キャビネット

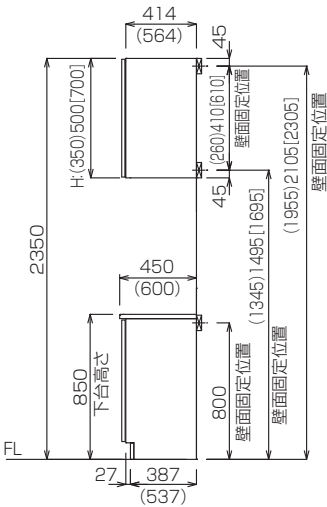


アンダーストッカー付
キャビネット

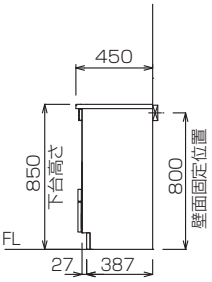


●収納庫

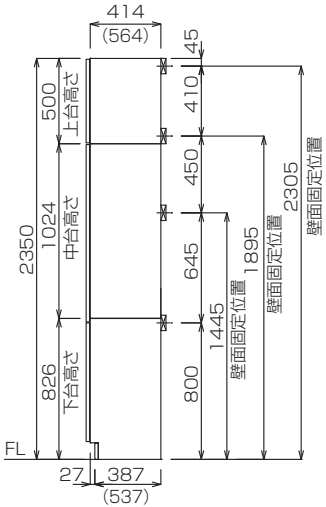
カウンタープラン



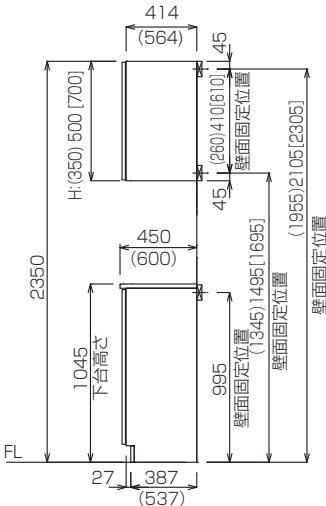
カウンタープラン
(家電収納庫)



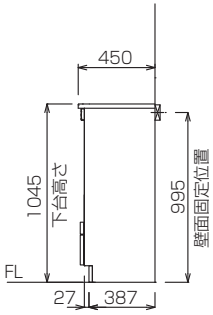
トールプラン



ハイカウンタープラン



ハイカウンタープラン
(家電収納庫)

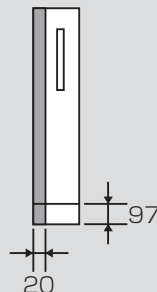


取付設置をする前に

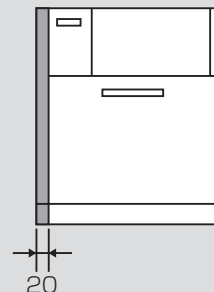
- 設置場所の寸法(間口・高さ)および床の仕上がりを確認する。
※壁一壁間に設置する場合は、キッチン寸法+10mm以上あること。
※床は仕上がっていること。
- ドア枠・窓枠・巾木が引出しや扉等と干渉しないことを確認する。

横壁ありプラン用に、見切対応キャビネットを品揃えしています。

【調理キャビネット】



【加熱機器キャビネット】



図で商品を確認し、ドア枠や巾木と干渉しないことを確認してください。

扉・引出しの取り外し

扉および引出しを傷つけないように、開梱後すぐに取り外し、直射日光の当たらない所に来るだけ1ヶ所にまとめて保管してください。

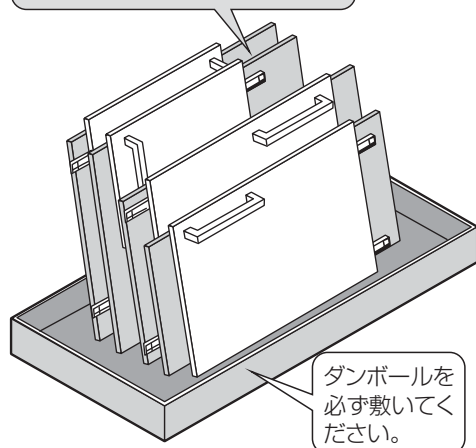
【扉・引出し・キャビネットの養生方法】

〈扉の場合〉

立掛けて保管するときは、必ず取っ手を上にしてください。

ポイント!

扉と扉の間にダンボールを挟む

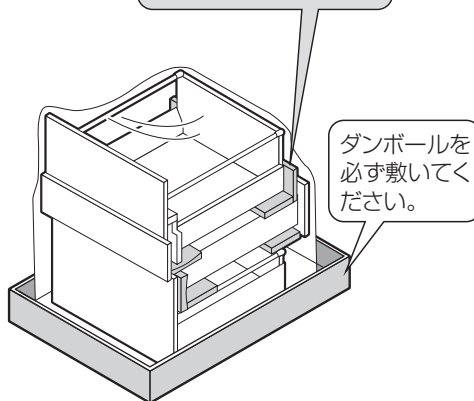


〈引出しの場合〉

積み重ねて保管するときは、互い違いにしてください。

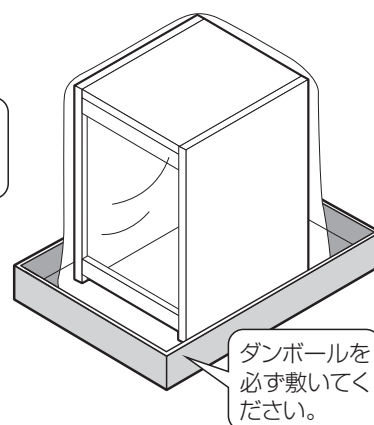
ポイント!

間にダンボールを挟む



〈キャビネットの場合〉

ウォールキャビネットの底面を床に直接置かないでください。



【扉・引出しの取り外し方法】

参照:P42~P46

取付設置をする前に

下準備と確認

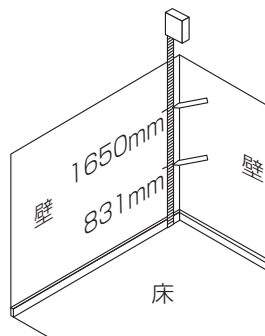
床・壁面・天井の直角と水平・垂直を確認してください。

- 水平・垂直基準の精度がでていないと、最終仕上がりが悪くなり安全性にも影響します。
正確に基準線を設定してください。

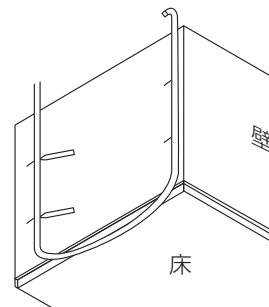
① 水平基準の設定

水盛り管・水準器などを用いて、各壁面にウォールキャビネットの下端面、ベースキャビネットの上面の基準点を2～3ヶ所取り、各基準点間に墨壺を用いて水平基準線を引いてください。

※床の一番高い所を基準としてください。



レイアウト図を参考に床面からキャビネットの下端の基準寸法を出す。

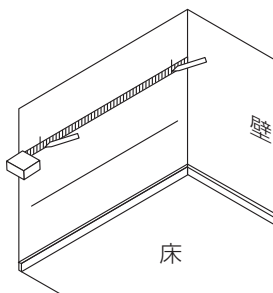


水盛り管・水準器を用いて基準点を出す。

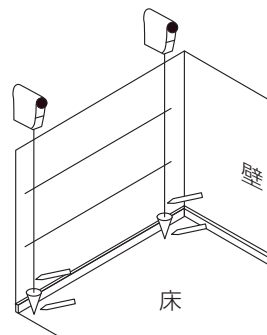
※上記基準寸法はカウンター高さ850およびウォールキャビネット高さ700の場合。

② 垂直基準線の設定

下げ振りをを用いて壁面の角部と、取り付けキャビネット左右端の上下に基準点を取り、基準点間に墨壺を用いて垂直基準線を引いてください。



レイアウト図を参考に角部からキャビネットの左右の基準寸法を出す。



下げ振りをを用いて壁・床面への基準点を出す。

キッチンパネルの取り付け

キッチンパネルがある場合は、キャビネットの取付前にキッチンパネルを取り付けてください。
取り付け方法はキッチンパネル用接着キットに付属の組立・設置説明書を参考にしてください。

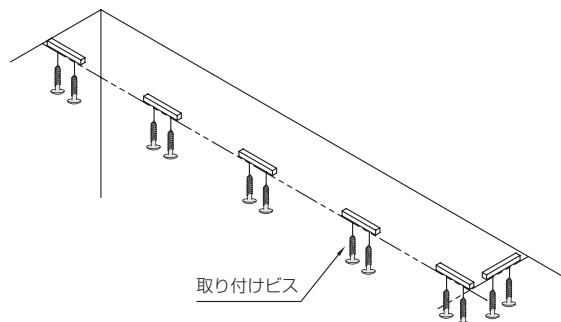
ウォールキャビネットと天井幕板の取り付け

天井幕板固定棧の取り付け (天井幕板を取り付ける場合)

※天井幕板のつかないレイアウトもあります。

天井面に天井幕板固定棧をビスで取り付けてください。
(固定棧および取り付けビスは現場調達)

キャビネット壁固定前に取り付けてください。



レンジフードの取り付け



注意

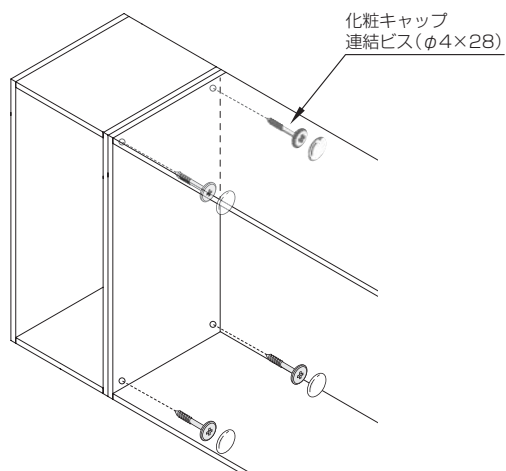


必ずおこなう

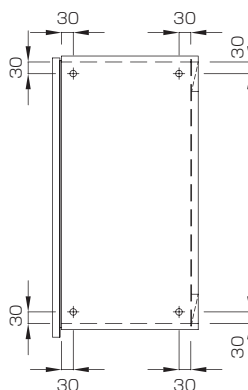
機器に付属の取付・設置説明書・本体の注意表示を必ず確認し、正しい取り付けを行う。
取り付け方法を誤ると、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

ウォールキャビネットの取り付け

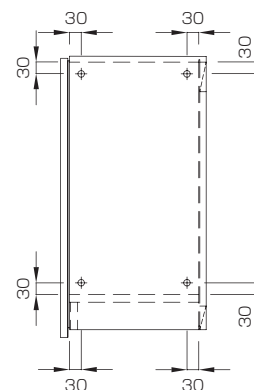
キャビネットの連結について



(側板前面より) (天板内面より) (裏板内面より) (側板前面より) (天板内面より) (裏板内面より)



(底板内面より)

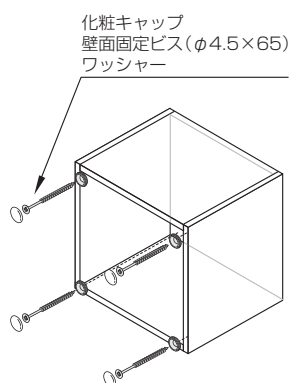


(底板内面より)

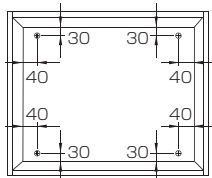
棚下灯用

キャビネットの壁面固定について

●片開きの場合

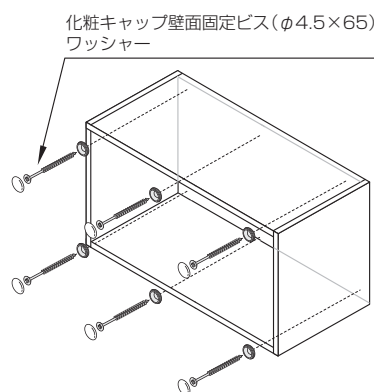


〈正面〉

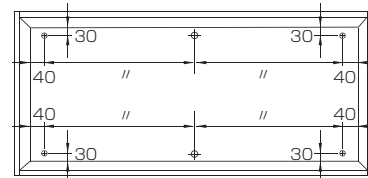


※4か所固定します。

●両開きの場合



〈正面〉

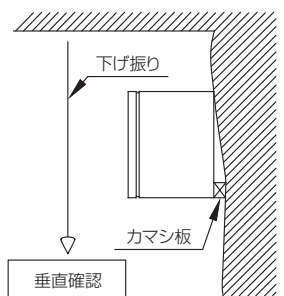


※6か所固定します。

ウォールキャビネットと天井幕板の取り付け

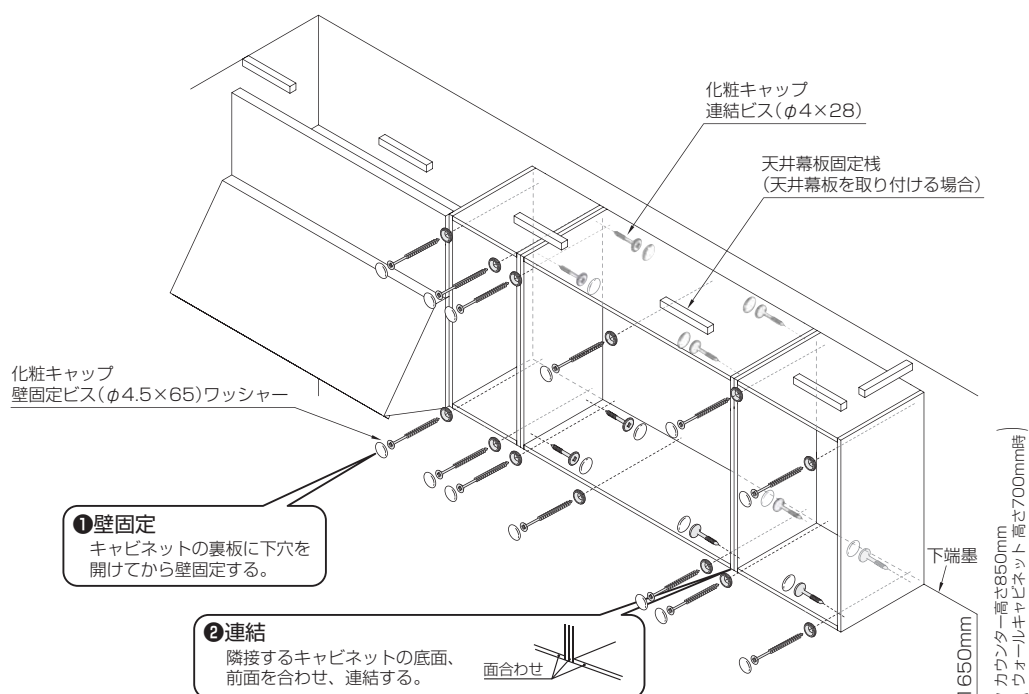
取り付け上のご注意

ウォールキャビネットを取り付ける壁面に凹凸がある場合は扉に段違いが生じますので、下図のように下げ振りなどで垂直確認を行い、カマシ板（現場調達）などで調整を行ってください。



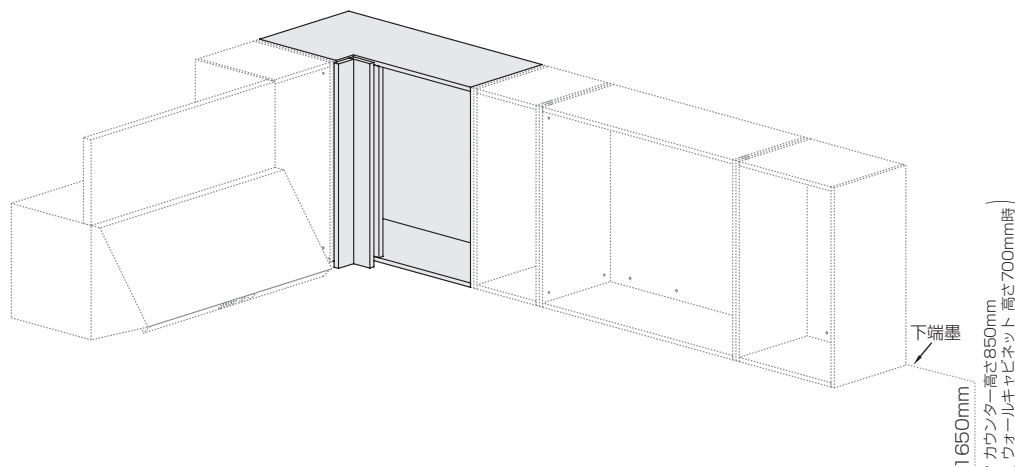
ウォールキャビネットの取り付け

キャビネット下端墨に合わせて、次の要領にて取り付けてください。



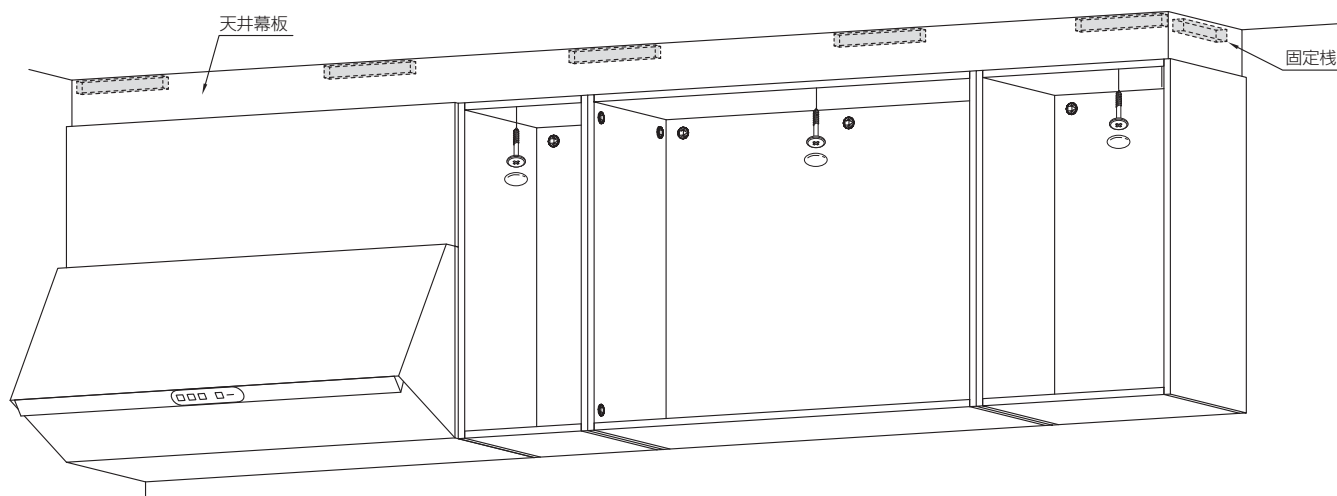
【L型レイアウトの場合】

コーナー部より取り付けてください。



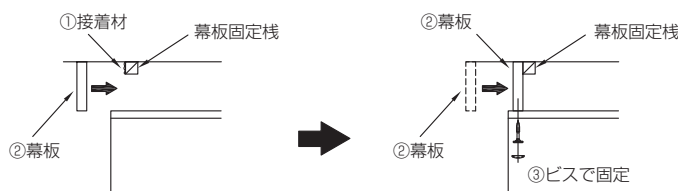
ウォールキャビネットと天井幕板の取り付け

天井幕板のカットと取り付け

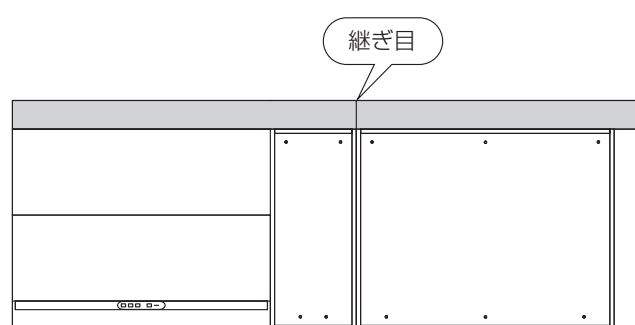
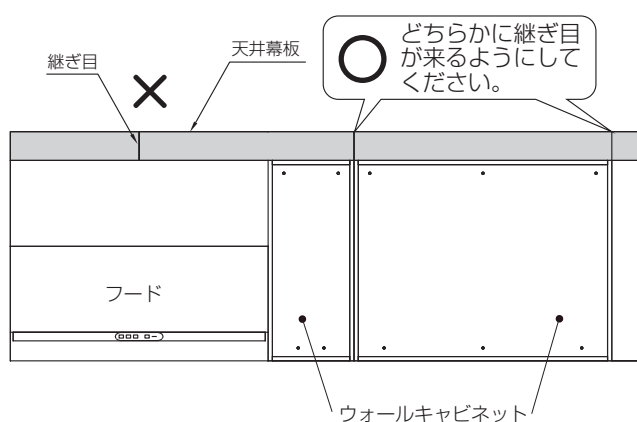


〈幕板の取り付け方法〉

- ①幕板固定枠の幕板取り付け側に接着剤を塗る。
- ②幕板がウォールキャビネットの上に垂直にのるようにして、上部を幕板固定枠に貼り合わせる。
- ③ウォールキャビネットの天板内面より、ビスで固定する。
(取り付けビスは現場調達)



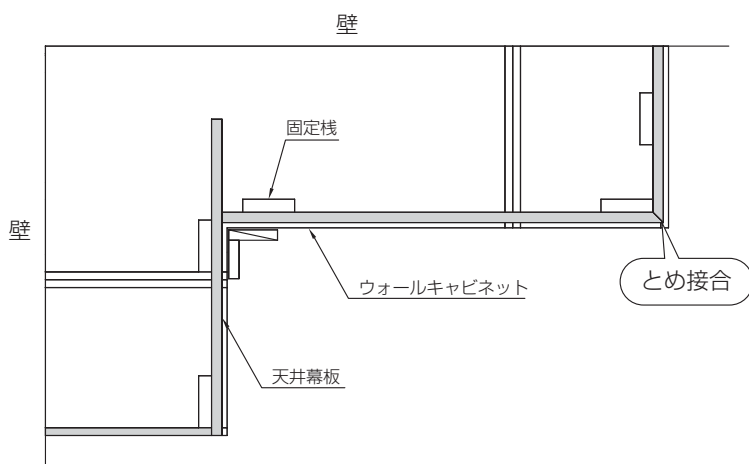
※フードからは、天井幕板に固定できないため、天井幕板の継ぎ目がフードの上に来ないようにしてください。



※天井幕板の継ぎ目はウォールの扉に合わせると、きれいに仕上がります。

天井幕板コーナー部および端面部の処理

端面部は下図の突き合わせ接合または、とめ接合で仕上げてください。



⚠ 注意



必ずおこなう

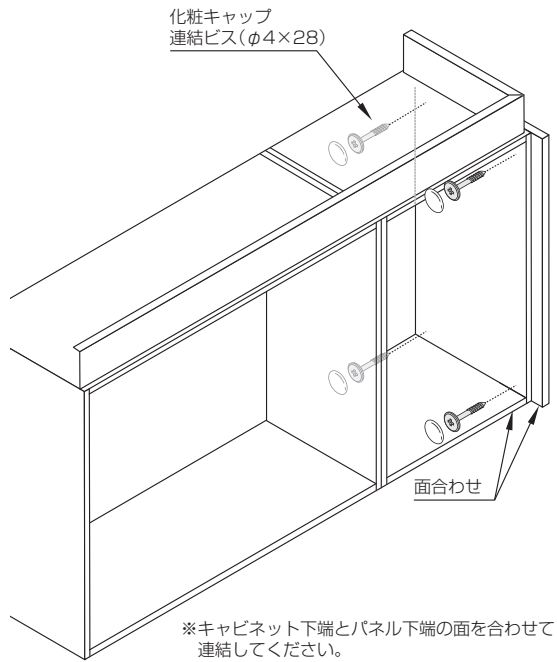
天井面への固定枠取り付けおよび固定枠への天井幕板取り付けは確実に取り付ける

確実な取り付けを誤ると天井幕板が落下してけがをするおそれがあります。

ウォールキャビネットとパネルの取り付け

パネルの取り付け

- ①下図取り合いに合わせ、エンドパネルの位置を合わせてください。
- ②取り付けはキャビネット内側より連結ビスで止めてください。



レンジフードと天井幕板の取り付け

レンジフードのみ（ウォールキャビネットなし）の場合

①角材の取り付け

天井面に角材（垂木材、現場調達）を取り付けてください。

※野縁にビス止め。

必ずレンジフード設置前に取り付けが必要です。

②天井幕板の取り付け

天井幕板を取り付けビスと接着剤で取り付けてください。

（取り付けビスおよび接着剤は現場調達）

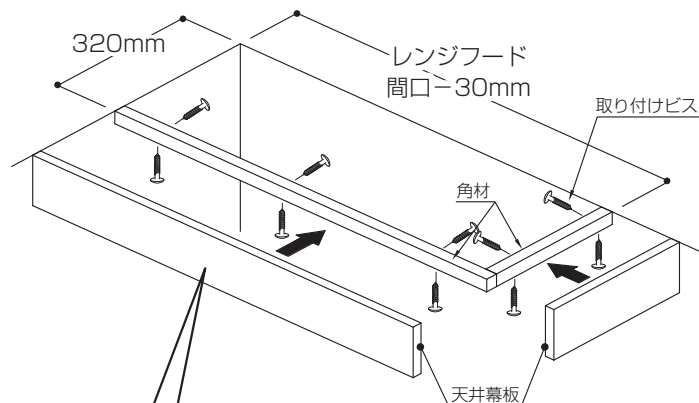
⚠ 注意



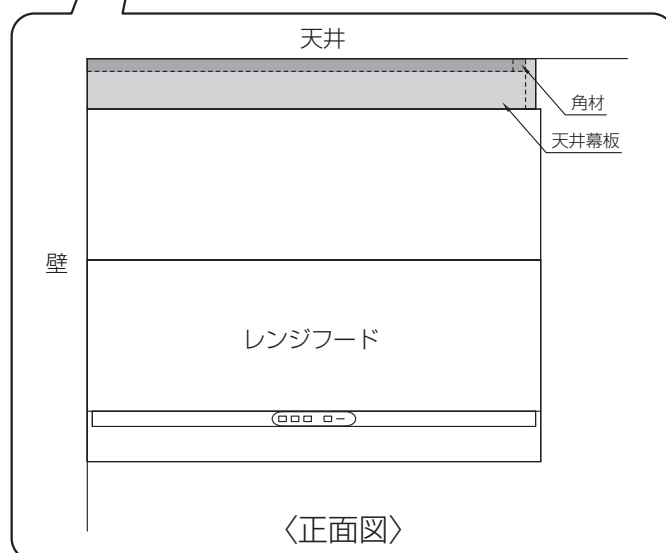
必ずおこなう

天井面への角材取り付けおよび
角材への天井幕板取り付けは確
実に取り付ける

確実な取り付けを誤ると天井幕板が落下し
てけがをするおそれがあります。



※図はレンジフード左側が壁の場合



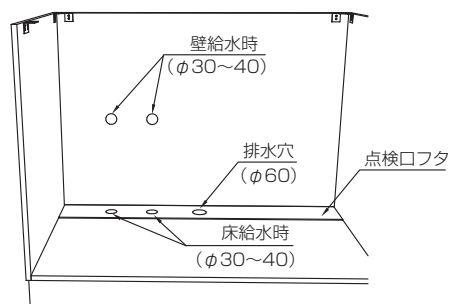
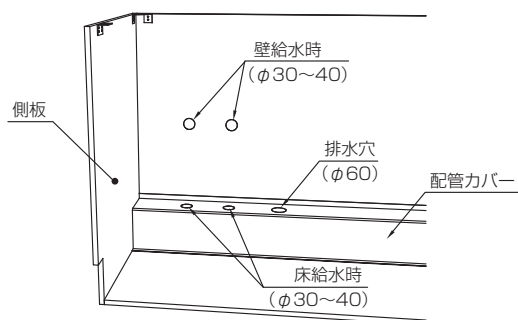
ベースキャビネットの配管について

配管用穴あけおよび側板切り欠き

①シンク用キャビネットの穴加工

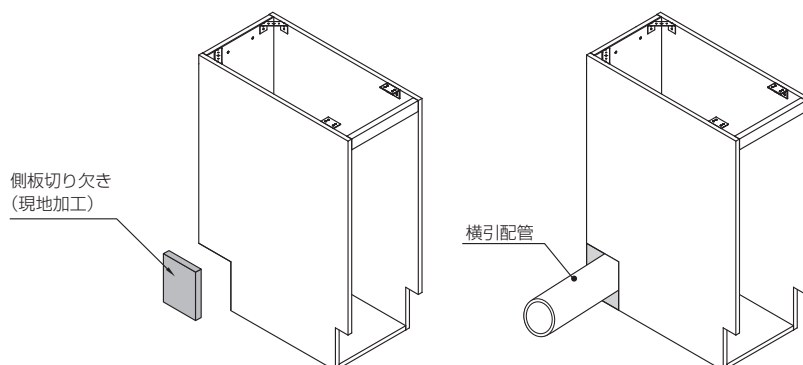
位置は現物合わせをして決めてください。

【配管カバー付きシンク用キャビネット】 【点検口フタ付きシンク用キャビネット】



②側板の切り欠き

横引配管の場合は、配管が通るキャビネットの側板を切り欠いてください。



③加熱機器用キャビネットの穴加工

加熱機器用キャビネットにガス配管用・電気配線用の穴加工をしてください。

※配管・配線位置については、取付設置図および設置場所を確認してください。

※IHなどの調理機器についてはキッチン取り付け後、2極接地コンセントを取り付けてください。(電気工事)

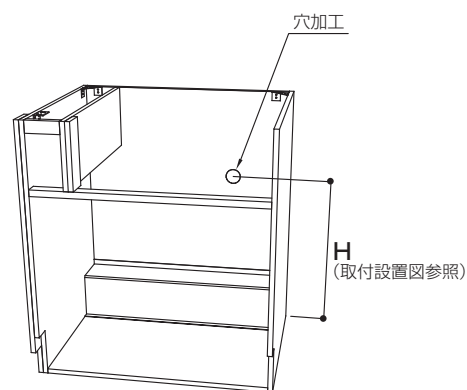


注意



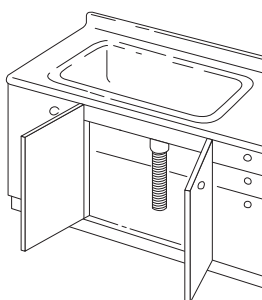
必ずおこなう

機器に付属の取付・設置説明書および本体の注意表示を確認し、穴加工をしてください。

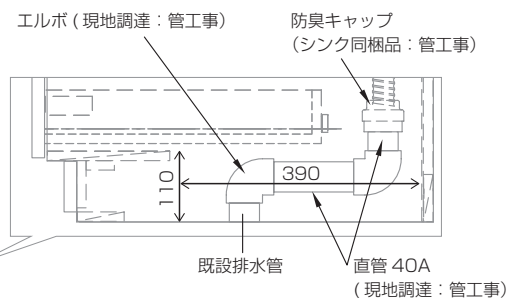
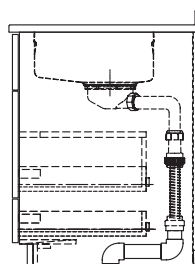
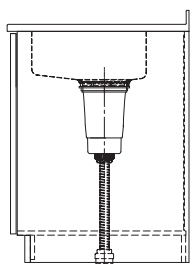


既設配管用キャビネットの配管について

開きキャビネット等でシンクの真下に排水管が立ち上がっている既存の配管を利用して、引出しキャビネットに対応できる商品
既設配管用キャビネットは下段引出の下に配管スペースがあり、既設配管や横引き配管など、さまざまな制約に対応しています。



例)リフォーム前の排水管納まり



例)既設配管用キャビネットの排水管納まり

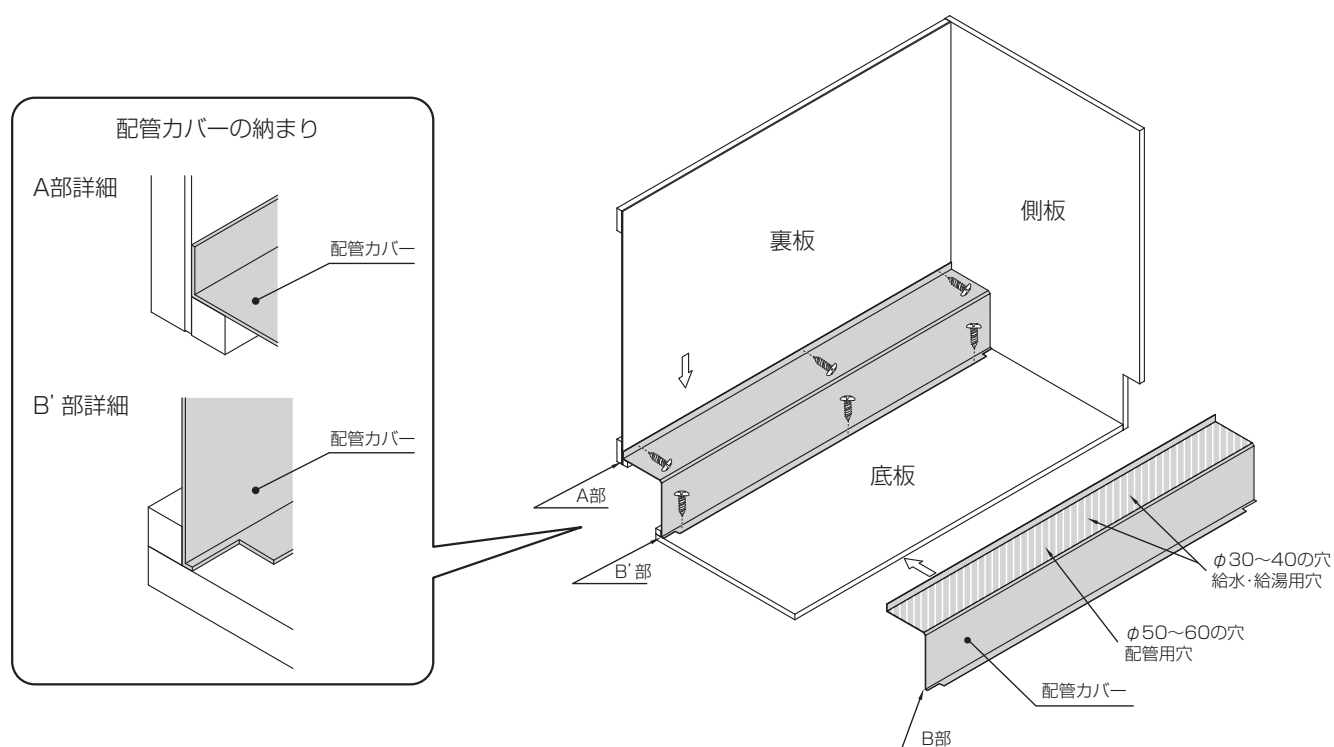
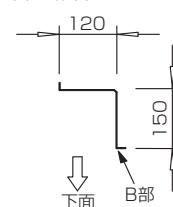
ベースキャビネットの配管について

配管カバー・点検口フタの取り付け

【配管カバー付きキャビネット】

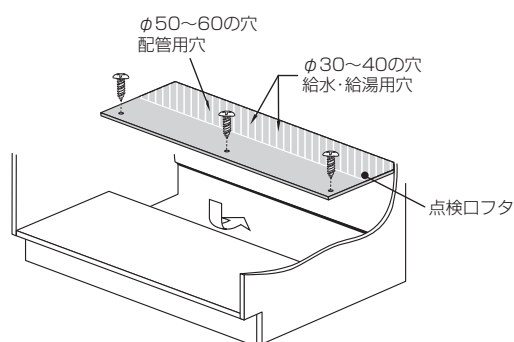
- ① 配管カバーに給水給湯配管および、排水管の引き込み位置に現物合わせで配管穴をあける。
- ② 同梱のビスと配管カバーを準備し、配管カバーをキャビネットにセットする。
このとき、寸法を確認して上下が正規の位置にくるようにする。(図1)
- ③ A部の補強枠に配管カバー上部が乗っていることを確認する。
配管カバーB部とキャビネット側のB'部の角が合うように手前からスライドさせ密着させる。
- ④ ビスで配管カバーをとめる。

図1. 配管カバー



【点検口フタ付きキャビネット】

- ① 点検口フタに給水給湯配管および、排水管の引き込み位置に現物合わせで配管穴をあける。
- ② 同梱のビスと点検口フタを準備し、点検口フタをキャビネットにセットする。
- ③ ビスで点検口フタをとめる。

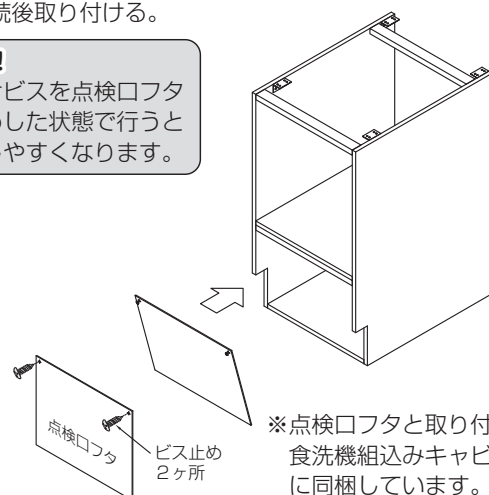


【食器洗い乾燥機組込みキャビネット】

※食洗機組込みキャビネットには点検口が同梱されていますので配管接続後に取り付ける。

ポイント!

取り付けビスを点検口フタに仮止めした状態で行うと作業がしやすくなります。



キャビネットの梱包用補強板について

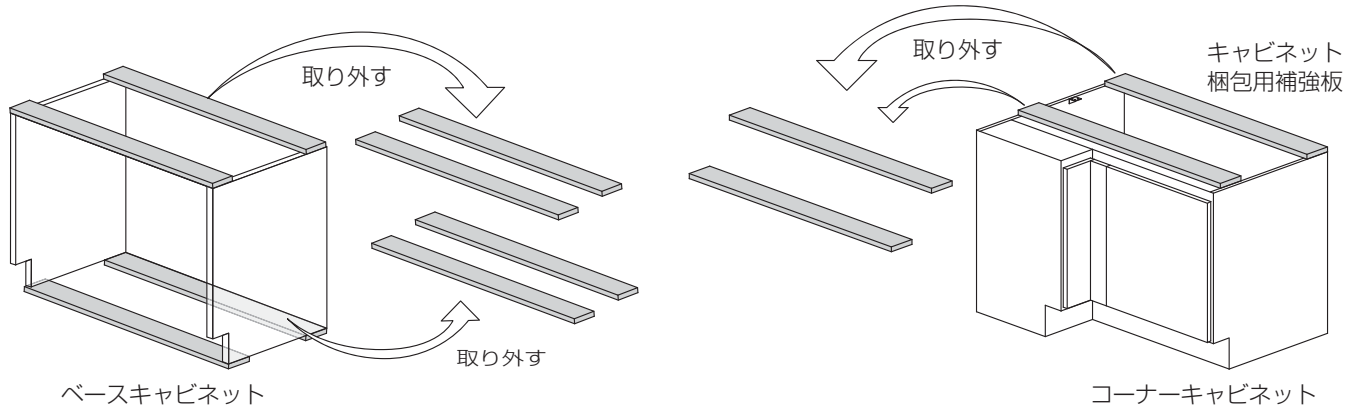
【梱包用補強板を取り外す】

キャビネットには梱包用補強板が上部に2枚固定されていますので、取り外してください。
下部に2枚固定されているキャビネットもありますので、取り外してください。



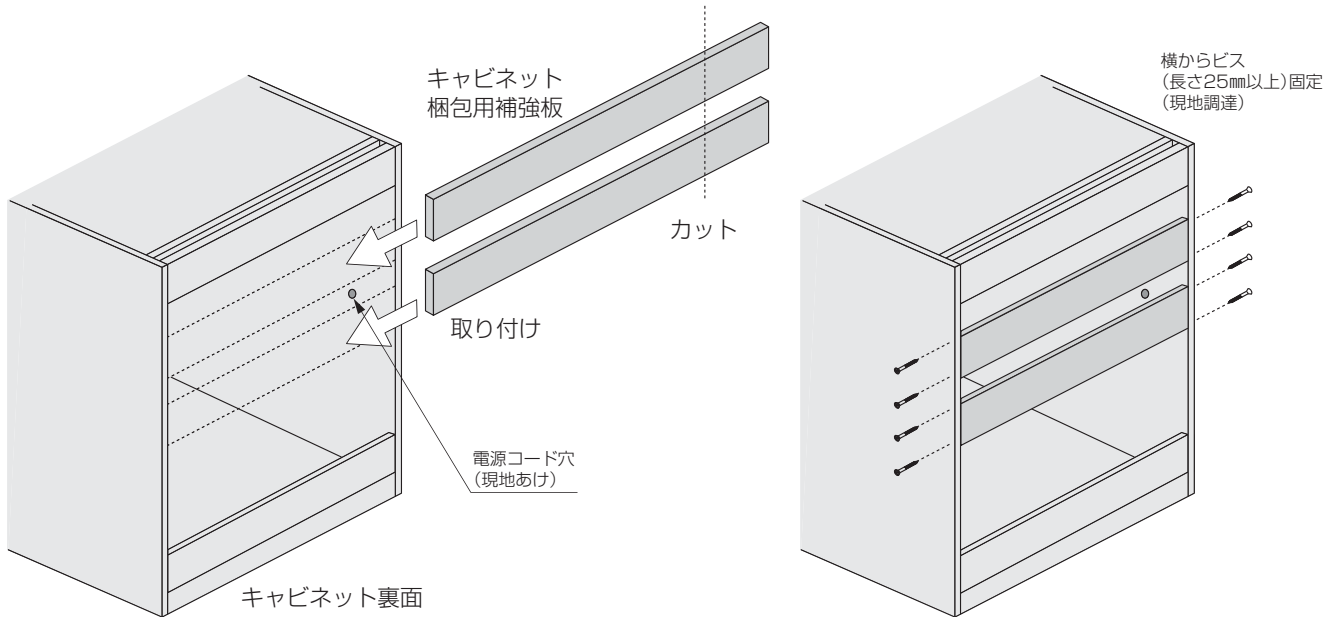
注意

キャビネット梱包用補強板の
金属片を取り除いてください。



【梱包用補強板を再利用する】

●コンセントや止水栓などの補強板に使用する。



●L型キッチンのカウンター支え棧に使用する。



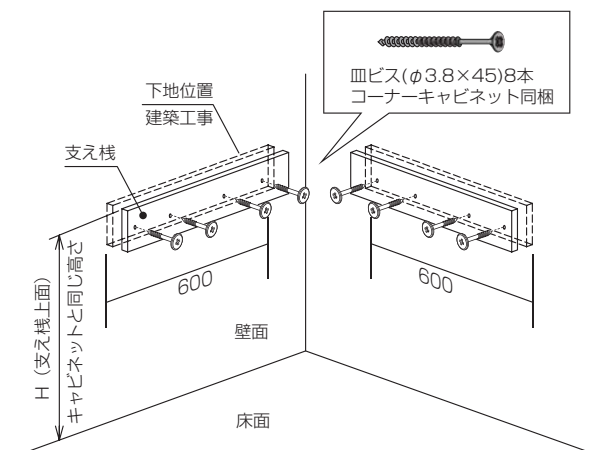
注意

支え棧を取り付けるための、壁面の
下地を確認してください。

棧の取り付け高さ

カウンター 高さ	H 寸法
800	776
850	826
900	876

(mm)

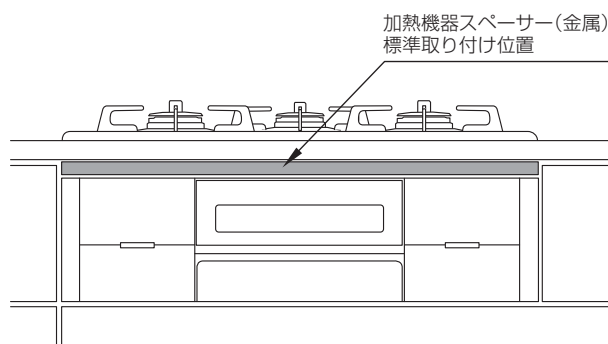


加熱機器スペーサー(金属)について

- カウンターと加熱機器の間に金属のスペーサーが付きます。

※ プランによって設定のない場合があります。

※ タイル下地カウンターの場合は加熱機器下に付け変えてください。

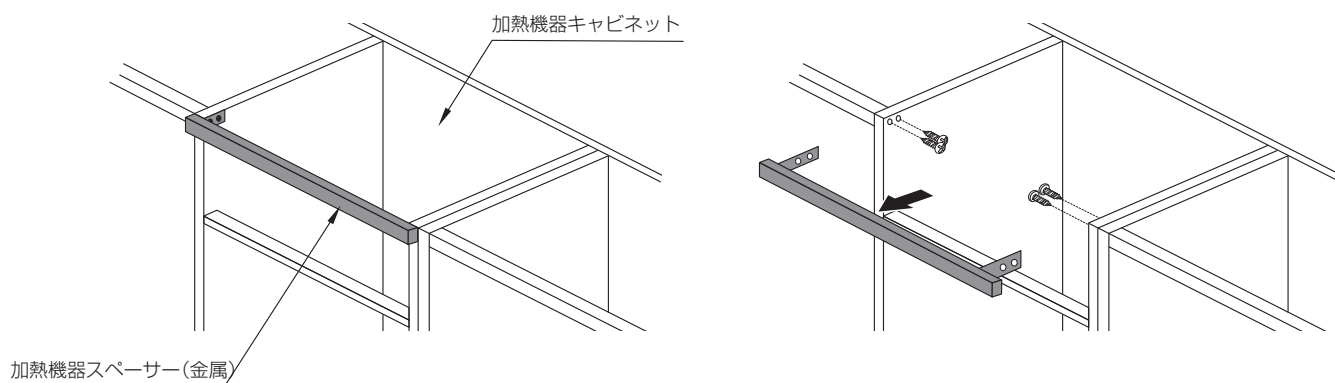


加熱機器スペーサー(金属)の付け替え

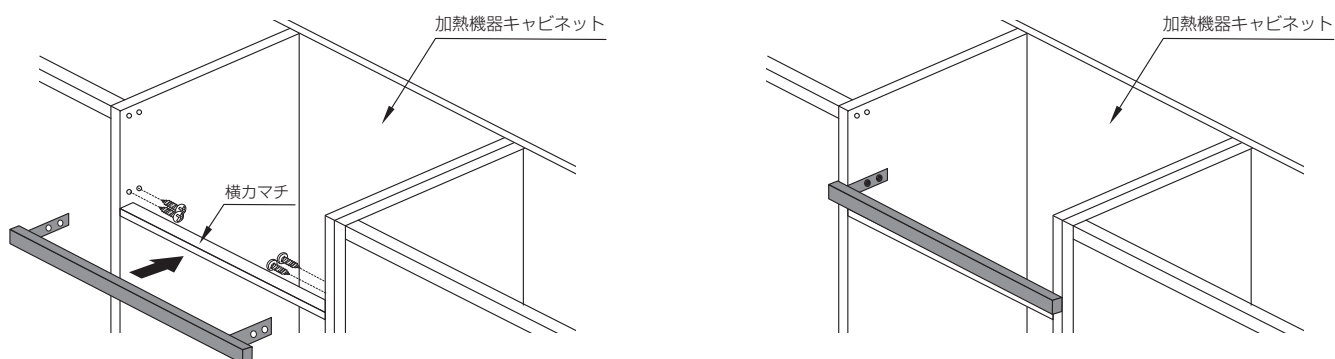
- タイル下地カウンターの場合はスペーサー(金属)の取り付け位置を変更します。

金属スペーサーが上部についている状態では加熱機器の組み込みができません。

- ①ビスを外してスペーサー(金属)を外します。



- ②横力マチの上にスペーサー(金属)を取り付けます。



I型・P型キッチン ベースキャビネットの取り付け

ベースキャビネットの連結

【I型・P型の場合】

注意

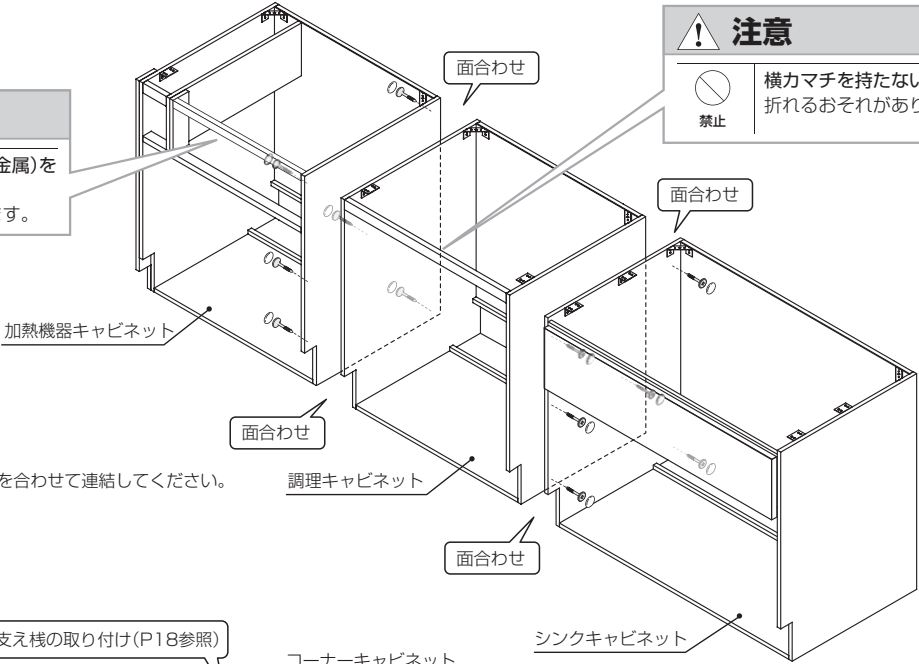
禁止

加熱機器スペーサー(金属)を持たない。
折れるおそれがあります。

注意

禁止

横力マチを持たない。
折れるおそれがあります。



※キャビネット同士の面を合わせて連結してください。

【L型の場合】

注意

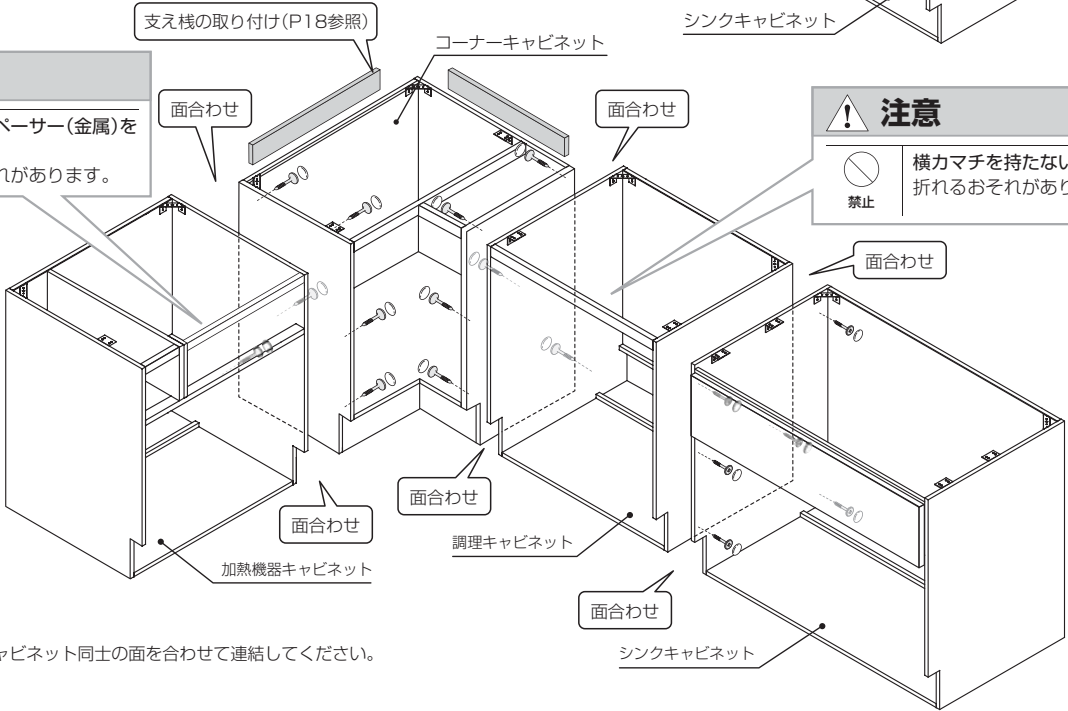
禁止

加熱機器スペーサー(金属)を持たない。
折れるおそれがあります。

注意

禁止

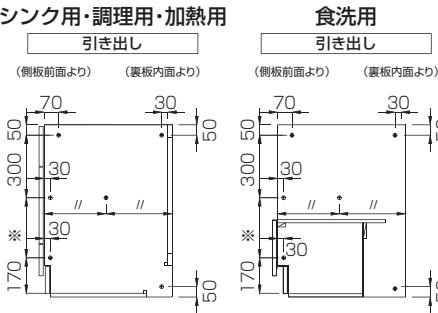
横力マチを持たない。
折れるおそれがあります。



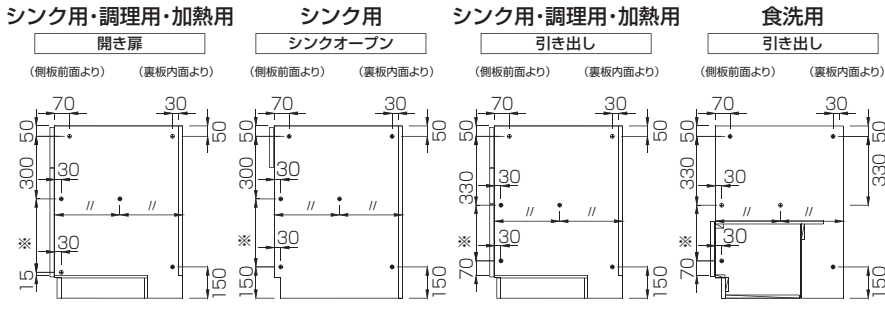
※キャビネット同士の面を合わせて連結してください。

【連結ビス位置】

■アンダーストッカーつき



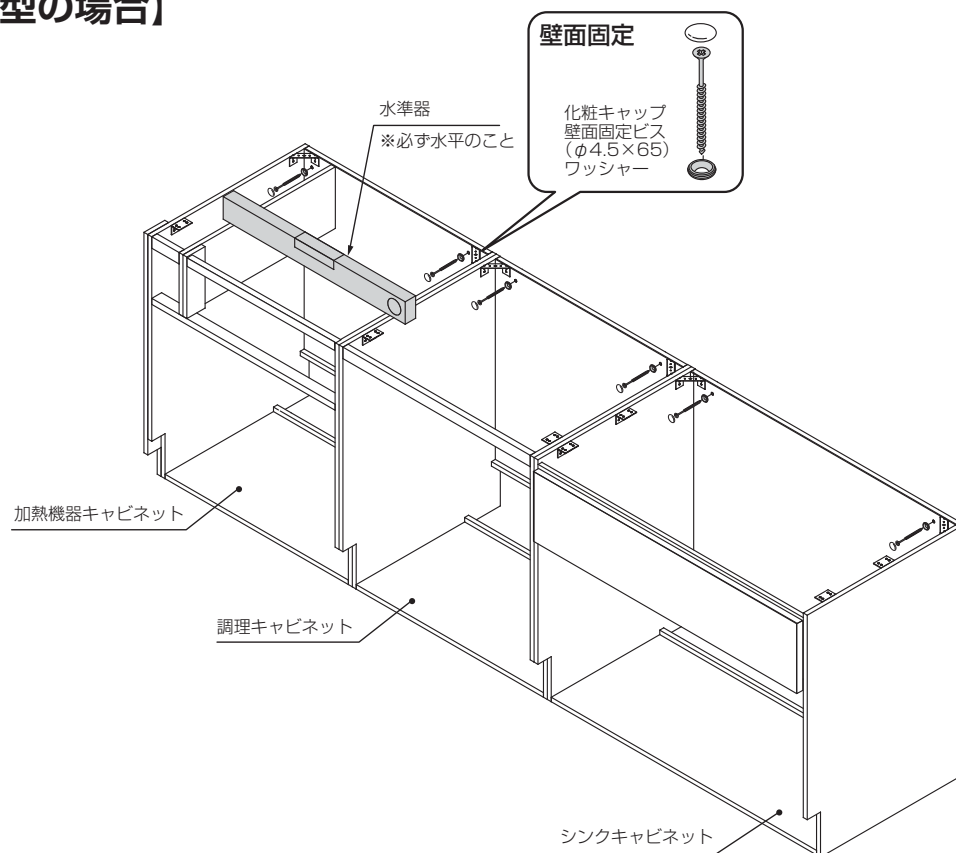
■アンダーストッカーなし



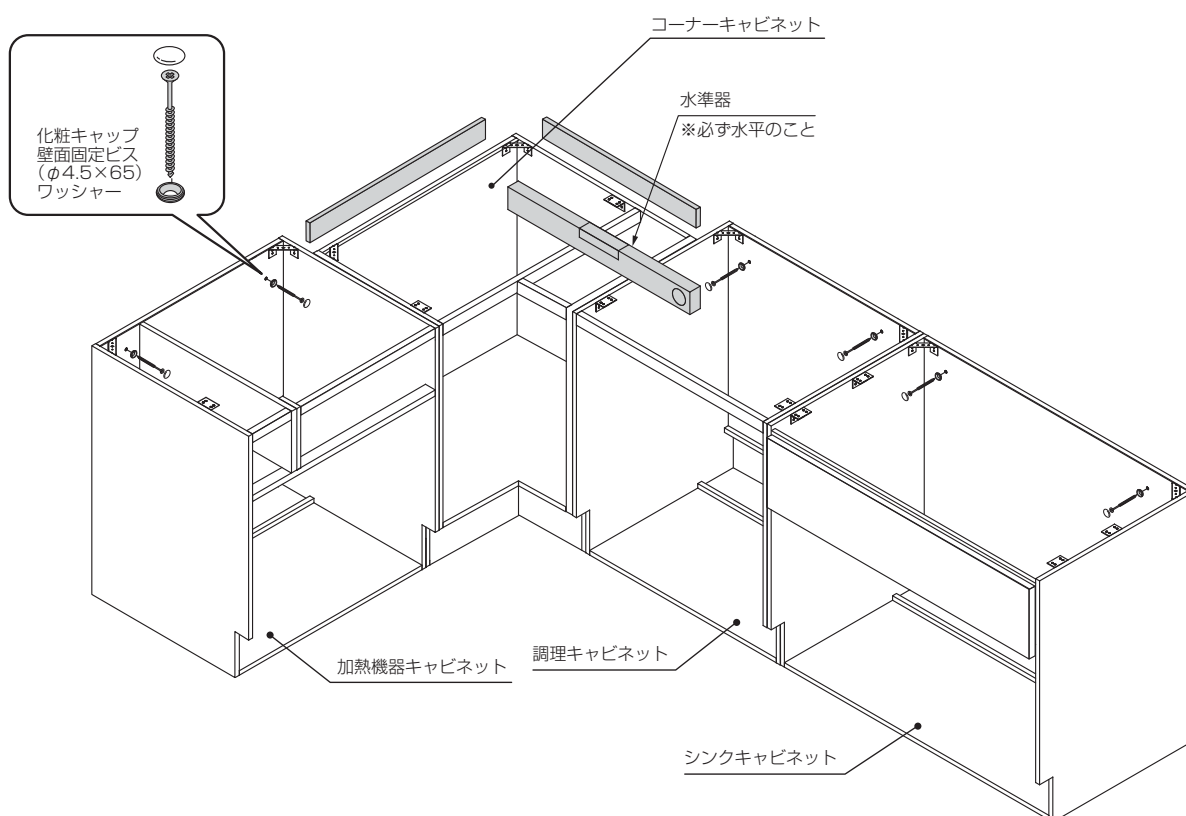
I型・L型・P型キッチン ベースキャビネットの取り付け

ベースキャビネットの壁面固定

【I型・P型の場合】



【L型の場合】



I型・L型・P型キッチン ベースキャビネットの取り付け

L型金具の付け替え

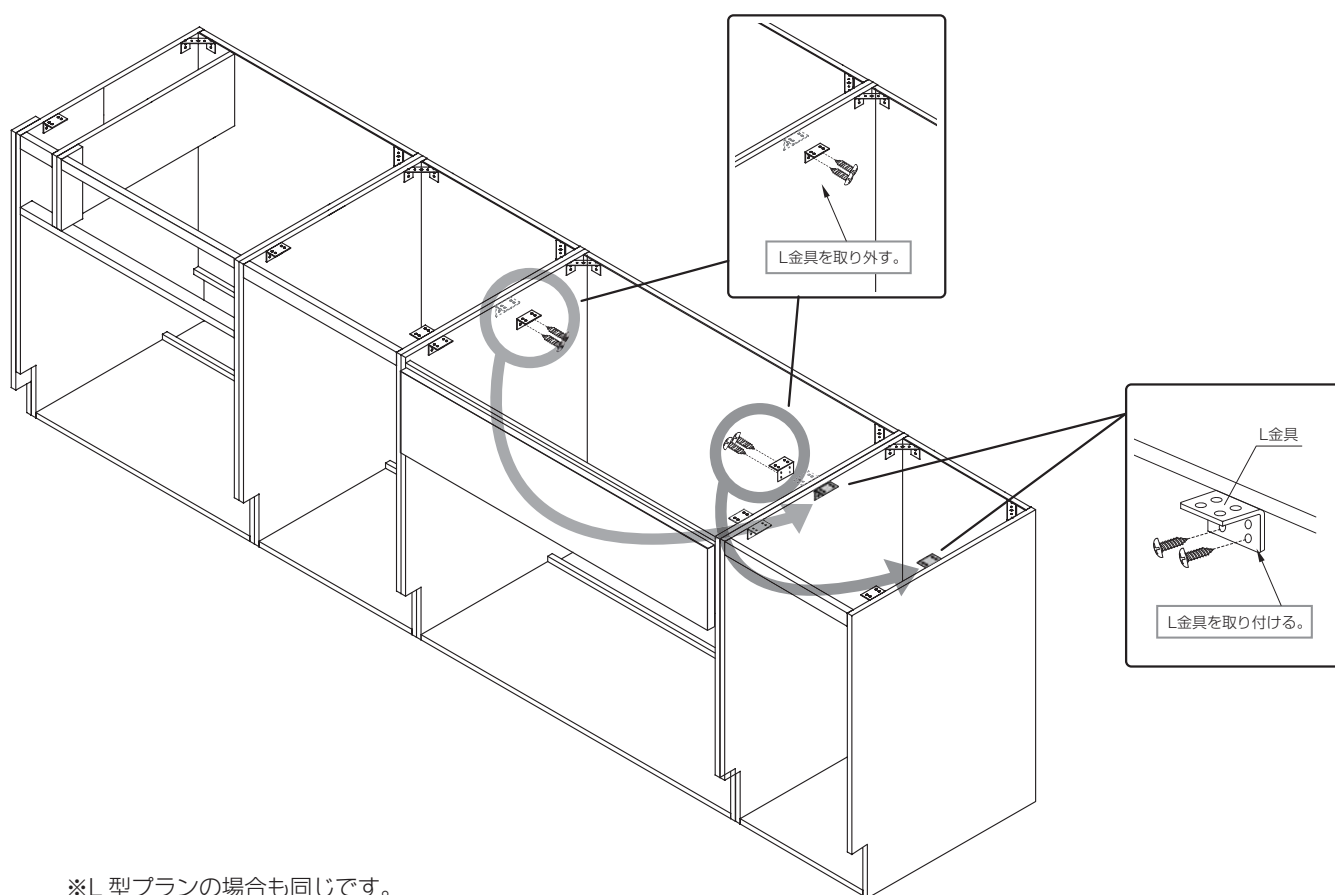
調理キャビネットが端にプランする場合(下記)は、シンクキャビネットのL金具を付け替えてください。

⚠ 注意



必ずおこなう

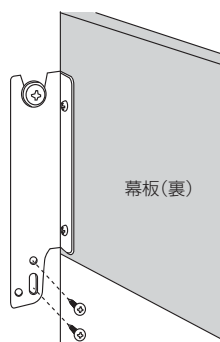
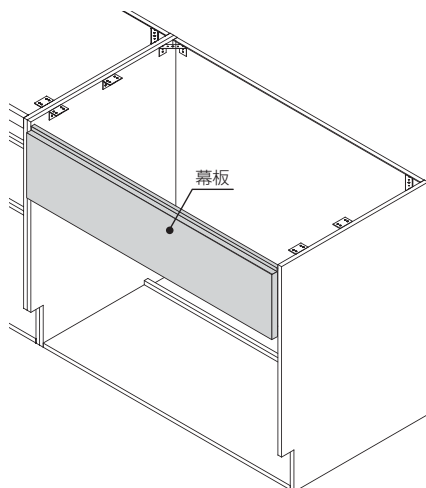
カウンターを納める際に、L金具とシンクの干渉することと、パネルの反りを防ぐためにL金具の付け替えをします。



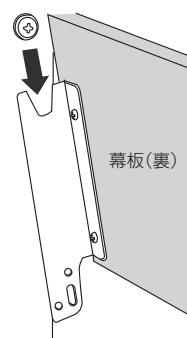
※L型プランの場合も同じです。

シンクキャビネットの幕板の取り外し

固定ビスを外して幕板を取り外してください。



固定ビスを外す



幕板を下にさげて取り外す

I型キッチン カウンター(ワークトップ)の取り付け

I型カウンター(ワークトップ)の設置

⚠ 注意



必ずおこなう

ワークトップの取り付け前に必ずキャビネットの水平が出ていることを確認する。

⚠ 注意



禁止

フィオレストーンカウンターについて

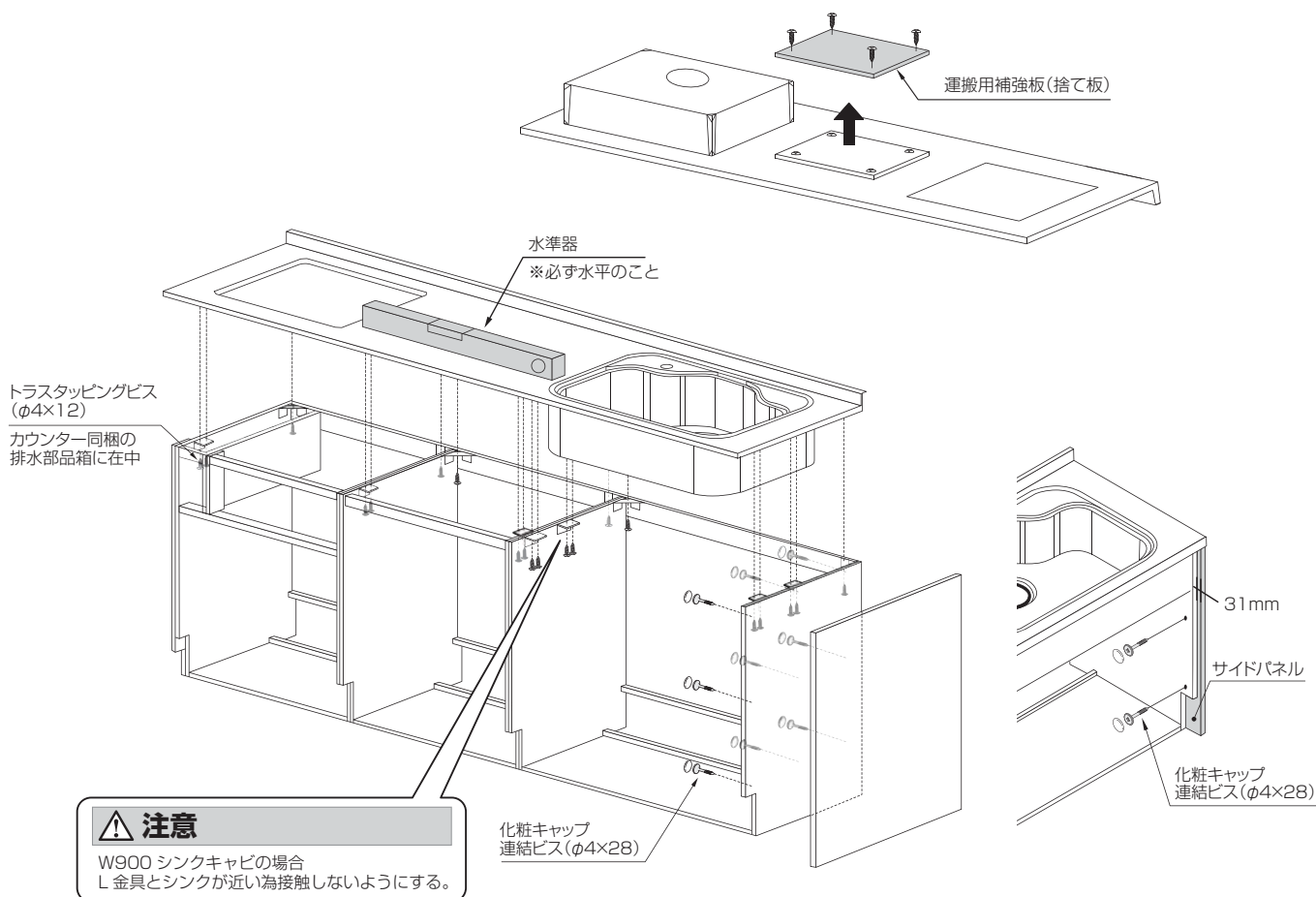
カウンターやバックガードの表面は絶対に磨かないでください。
カウンターに加工(ビス穴、水栓穴加工など)はしないでください。

- ①カウンターをベースキャビネットにのせ、取り付け位置を確認後、水平の調整確認、位置合わせしてベースキャビネットの内側からトラスタッピングビス(φ4×12 排水部品箱に同梱)で固定してください。
- ②カウンター固定は各キャビネットの両側板上端に取り付けられている金具を使用します。
- ③パネルを連結ビスで固定します。

【フィオレストーンカウンターの場合】

運搬用補強板(捨て板)の取り外し

カウンターの裏に運搬用補強板(捨て板)を取り外してください。



タイル下地カウンターについて

⚠ 注意

- ・タイル、タイル用接着剤、タイル用目地材は現場手配となります。
- ・タイル張り作業は現場手配の左官工事となります。

タイルの張りつけ

※別途左官工事・別途建築工事

- ①タイル下地に専用接着剤を塗布してから、タイルを張りつけます。
- ②タイルに目地材を充填します。
- ③タイル目地材が充分に乾いた後、Lシンクと機器の設置をします。

※Lシンク取付はP41参照

※Lシンクと機器の設置はキッチン取付業者にて取り付けます。



専用接着剤を塗布している様子

参考
タイル用接着剤
INAX イナメント A-51N
INAX イナメント E-73



タイルを張りつけている様子

参考
汚れ防止目地材
INAX スーパークリーンキッチン



タイルに目地材を充填して乾かします。

※2時間程度で目地材が硬化します。
気温により変動します

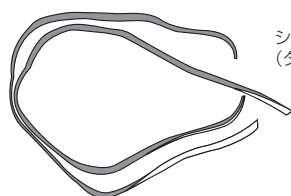
シール材の貼り付け

※キッチン取付業者

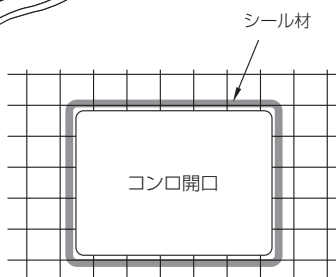
⚠ 注意

タイル目地からの漏水防止のため確実にシール材を取り付けてください。
加熱機器の故障につながります。

- ①工業用アルコールを含ませたきれいな布でタイルカウンターのコンロ開口を清掃します。
※シンナーは使用しないでください。
- ②シール材をコンロ開口から3ミリ程度離れた位置に剥離紙を剥がして貼り付けます。
※離し過ぎると加熱機器のトッププレートからシール材がはみ出ます。
タイル目地の凹か所はシール材をしっかり指で押さえつけて貼ってください。
※水が侵入しやすい場所がタイル目地になります。
- ③タイル目地の凹か所一つ一つにシリコンシーラントを充填して、ヘラでならします。
- ④加熱機器を設置してください。

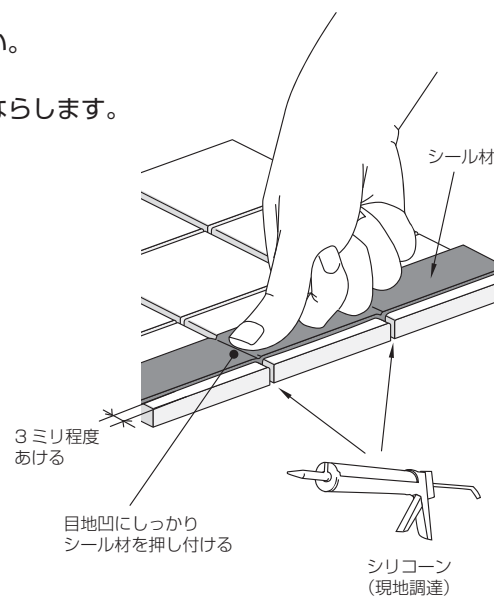


シール材 2本
(タイル下地カウンターに同梱)



シール材

コンロ開口



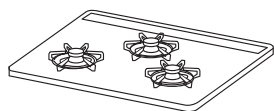
シール材

3ミリ程度
あける

目地凹にしっかり
シール材を押し付ける

シリコン
(現地調達)

⚠ 注意



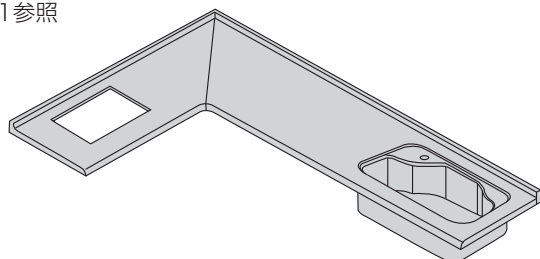
シール材が加熱機器のトップ
プレートからはみ出してい
ないか確認する。

L 型キッチン カウンター(ワークトップ)の取り付け

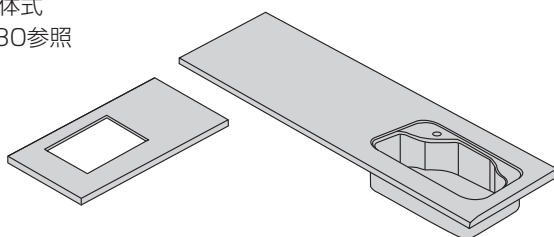
L 型カウンター 種類

【ステンレスカウンター】

溶接済みで一体型
P31 参照



別体式
P30 参照

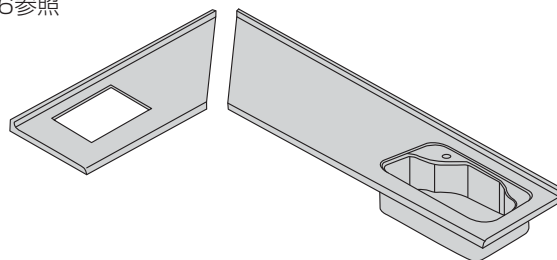


直線タイプ

【人工大理石カウンター】

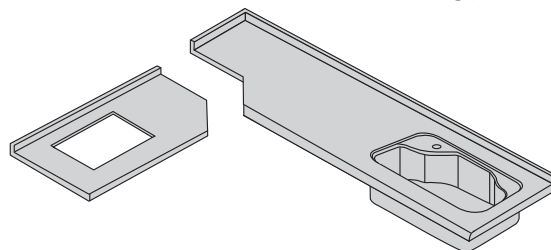
別体式
P26 参照

●グループ1



45°カットタイプ
接合剤 (同梱品) にて接着

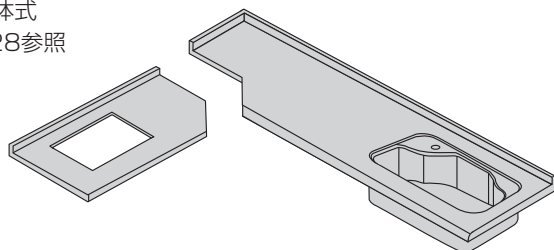
●グループ2.3



J カットタイプ 接合剤 (同梱品) にて接着

【人工クォーツカウンター】

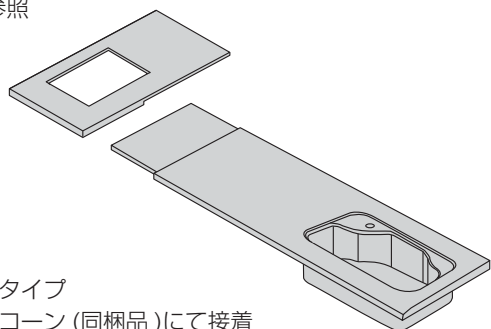
別体式
P28 参照



J カットタイプ シリコーン (同梱品) にて接着

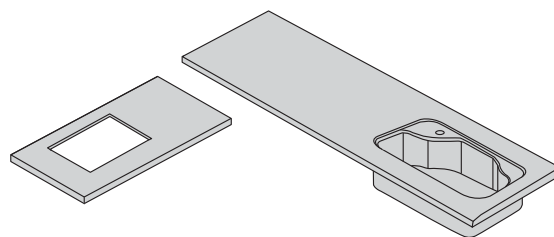
【フィオレストーンカウンター】

別体式
P29 参照



直線タイプ
シリコーン (同梱品) にて接着

●グループ4
タイル下地カウンター



直線タイプ
グループ 4 は接合剤 (同梱品) にて接着
タイル下地カウンターはシリコーンで (現地手配) で接着

L型キッチン カウンター(ワークトップ)の取り付け

人工大理石カウンターのL型の場合

⚠ 注意

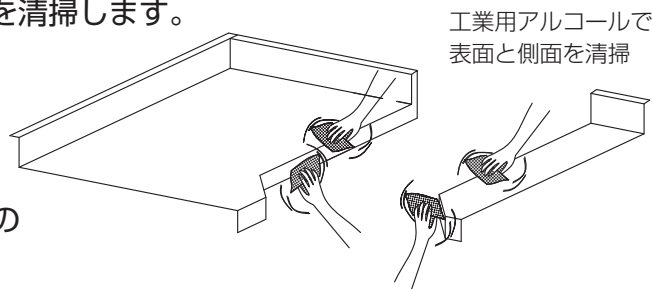
- ・各カウンターに同梱されている接合剤を使用してください。他の接合剤を使用すると接着しません。
- ・カウンターの接合面(ジョイント面)の清掃(拭き、汚れ、油分を除去)をしてください。
汚れが残っていると、接合部が変色するおそれがあります。
- ・接合剤は引火性の液体ですので、作業場所で火気の使用はしないでください。
接合剤に引火して火災の原因になります。
- ・接合作業は、十分な換気を行い、有機ガス用防毒マスク(防塵機能付)、保護めがね、保護手袋を装着して作業してください。
- ・接合剤に同梱しております説明書を必ず確認し、正しく作業してください。
- ・接合面のレベル調整が不十分(段差)があると、研磨に時間が要しますし、仕上がりにムラが発生します。
- ・接合剤を塗布後にゴミや汚れが付着しないように注意してください。ホコリが発生している場所での作業は避けてください。
- ・接合剤に添付されている説明書をお読みください。特に安全のために「注意事項」「応急処置」についてはよくお読みください。

【人工大理石カウンターの接合】

(1) 接合準備

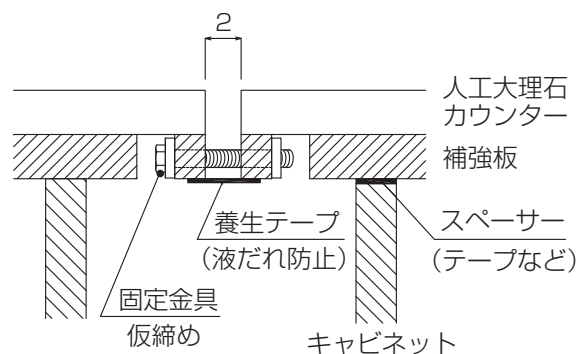
①工業用アルコールを含ませたきれいな布で接合面を清掃します。

- ※ シンナーは使用しないでください。
- ※ 清掃後に指や手袋で接合部を触らないでください。
- ※ 汚れが残っていると、接合部が変色するおそれがあります。



②カウンターをキャビネットの上に仮置きし、左右のカウンターのレベル確認や調整をします。 合わない場合はスペーサーとしてテープなど(現場調達)を使用します。

- ※ レベル調整が不完全な場合は仕上げが困難となりますので注意してください。



③カウンター裏から固定金具をセットして2ミリのすき間になるまで仮締めします。仮締め後に接合剤がこぼれ落ちないようにカウンター裏の接合部に養生テープを貼ります。

- ※ キャビネット内にも接合剤で汚さないようにシートで養生をしてください。

④カウンターの表面にマスキングテープを3枚以上重ね貼りします。

⑤再度、接合部をアルコールを含ませたきれいな布で清掃します。

- ※ シンナーは使用しないでください。
- ※ 清掃後に指や手袋で接合部を触らないでください。
- ※ 汚れが残っていると、接合部が変色するおそれがあります。

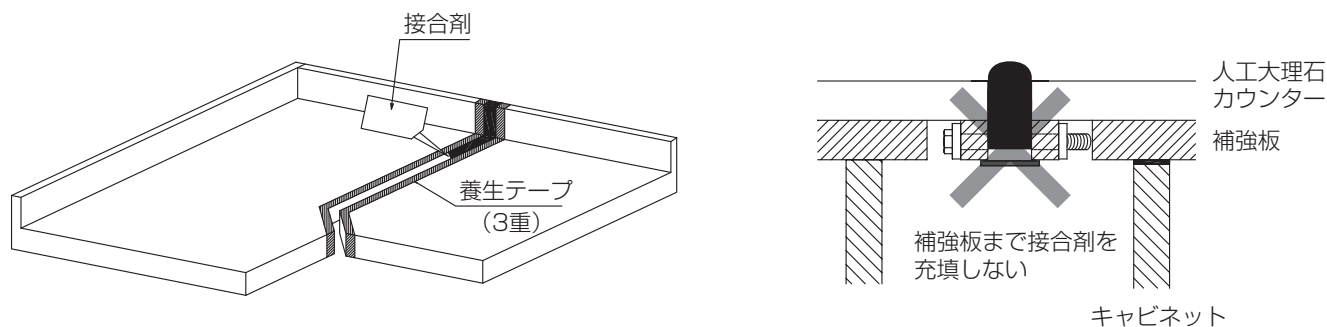
L型キッチン カウンター(ワークトップ)の取り付け

【人工大理石カウンターの接合（続き）】

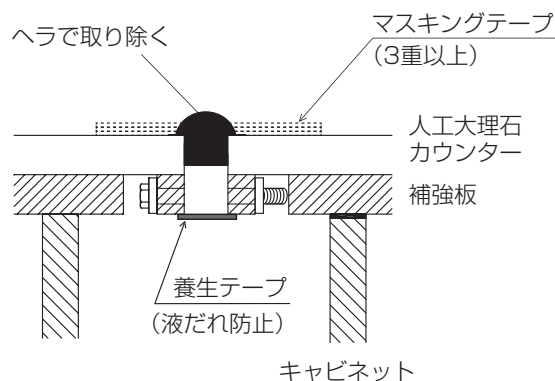
(2) 接合

- ①接合剤(カウンターに同梱)の説明書にしたがって準備します。
- ②接合部に接合剤を切れ目なく均一に充填します。
- ③接合部に隙間ができないようにヘラなどで押し付けてカウンター厚みまで充填させます。

※ 補強板部分まで接合剤を充填させないでください。補強板のあくが接合部に浮き出てくるおそれがあります。



- ④再度、接合剤を充填して2～3ミリ盛り上がるように充填します。
- ⑤硬化する前に接合部の余分な接着剤をヘラなどを使用して、マスキングテープの厚さ分を取り除きます。



- ⑥マスキングテープとカウンター裏面の養生テープを除去してください。
- ⑦カウンター裏の固定金具を増し締めして固定します。固定した際に盛り上がった接合剤は硬化とともに収縮しますので、取り去らずにそのままの状態での硬化させてください。

※ 硬化時間は接合剤の説明書を参照してください。

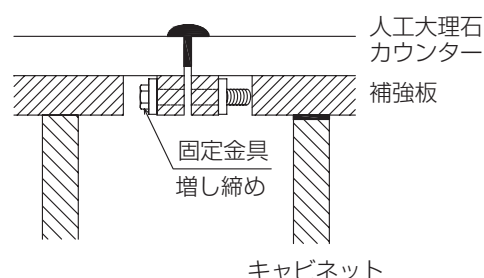
(3) 仕上げ

- ①硬化後に盛り上がった接合剤を荒削りします。
- ※ カウンターに食い込みキズをつけないように注意してください。

②サンドペーパーで仕上げします。

- グループ1（フォルテ）：『#200』→『#400』→『#600』
- グループ2（グレイン）：『#180』→『#240』→『#400』→『#600』
- グループ3（ソリッド）：『#180』→『#240』→『#400』→『#600』
- グループ4（サンド）：『#150』→『#240』→『#400』→『#600』

※ グループ1～4は最後の仕上がり具合によって『ナイロンタワシ#600』で調整してください。



L型キッチン カウンター(ワークトップ)の取り付け

人大クォーツカウンターのL型の場合

⚠ 注意

シリコンシーラントは必ず防カビ剤入りを使用してください。
人大クォーツの表面は絶対に磨かないでください。

【人大クォーツカウンターの接合】

(1) 接合準備

- ① カウンターをキャビネットの上に仮置きし、左右のカウンターのレベル確認や調整をします。
合わない場合はスペーサーとしてテープなど(現場調達)を使用します。

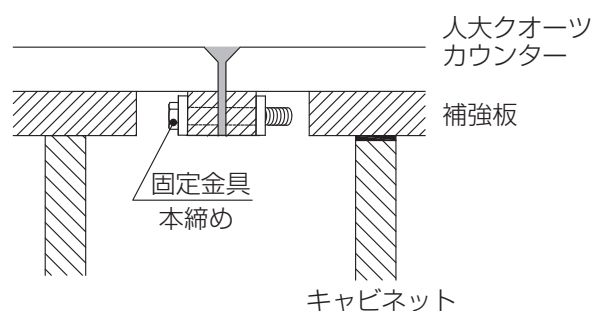
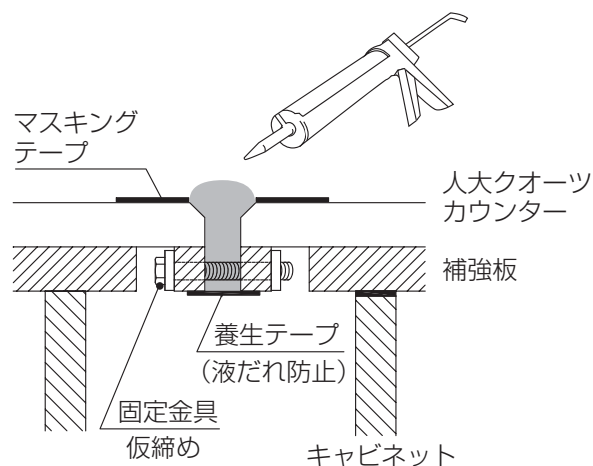
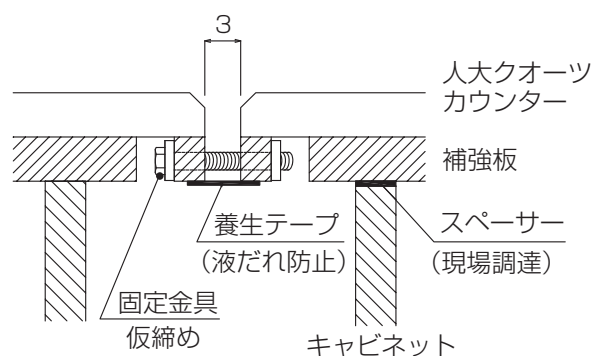
※ レベル調整が不完全な場合は仕上げが困難となりますので注意してください。

- ② カウンター裏から固定金具をセットして隙間が3ミリ程度になるように仮締めします。
シリコンシーラントがこぼれ落ちないようにカウンター裏の接合部に養生テープを貼ります。

※ キャビネット内にも接合剤で汚さないようにシートで養生をしてください。

- ③ カウンターの面取り箇所に合わせてマスキングテープを貼ったのち、シリコンシーラントを塗布します。

- ④ 固定金具を本締めします。盛り上がったシリコンシーラントはヘラなどを使って、取り除いたのちにマスキングテープはがしてください。
カウンター裏側の養生テープもはがしてください。



L型キッチン カウンター(ワークトップ)の取り付け

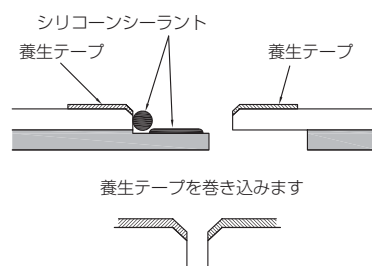
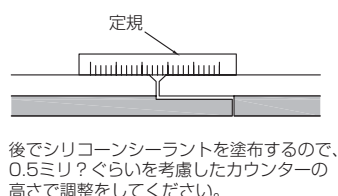
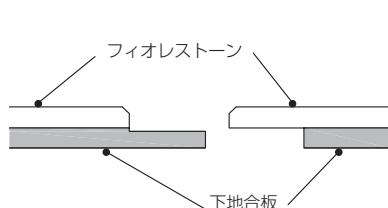
フィオレストーンカウンターのL型の場合

⚠ 注意

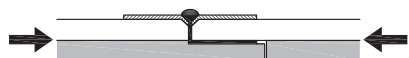
シリコンシーラントは必ず防カビ剤入りを使用してください。
フィオレストーンの表面は絶対に磨かないでください。

【フィオレストーンカウンターの接合】

- ①カウンター同士を重ね合わせてください。
- ②定規を当てて、カウンター同士の高さが合っていることを確認してください。
- ③図のように、カウンターに養生テープを貼ったのち、下地合板にシリコンシーラントを塗布してください。



- ④カウンター同士を突き合わせて接着してください。シリコンシーラントが盛り上がってきます。



- ⑤盛り上がったシリコンシーラントはヘラなどを使って、取り除いたのちに養生テープをはがしてください。



タイル下地カウンターのL型の場合

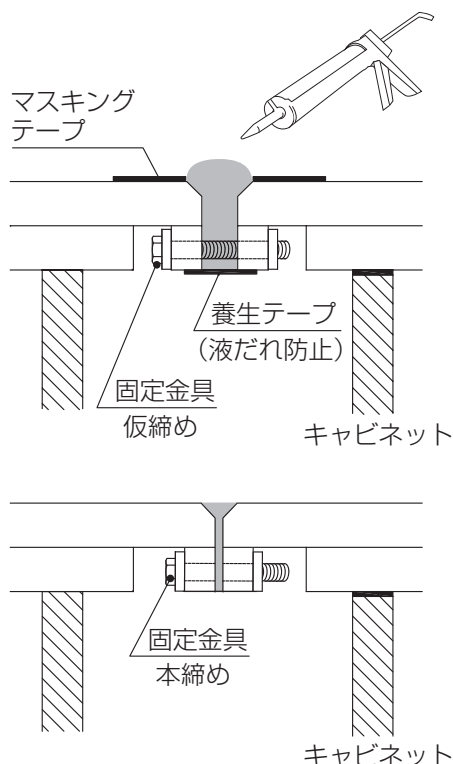
- ①カウンターをキャビネットの上に仮置きし、左右のカウンターのレベル確認や調整をします。合わない場合はスペーサーとしてテープなど(現場調達)を使用します。

※ レベル調整が不完全な場合は仕上げが困難となりますので注意してください。

- ②カウンター裏から固定金具をセットして隙間が3ミリ程度になるように仮締めします。シリコンシーラントがこぼれ落ちないようにカウンター裏の接合部に養生テープを貼ります。

※ キャビネット内にも接合剤で汚さないようにシートで養生してください。

- ③シリコンシーラントを塗布してから固定金具を本締めします。盛り上がったシリコンシーラントはヘラなどを使って、取り除いたのちにマスキングテープをはがしてください。カウンター裏側の養生テープもはがしてください。



L型キッチン カウンター(ワークトップ)の取り付け

ステンレスカウンターのL型の場合

⚠ 注意

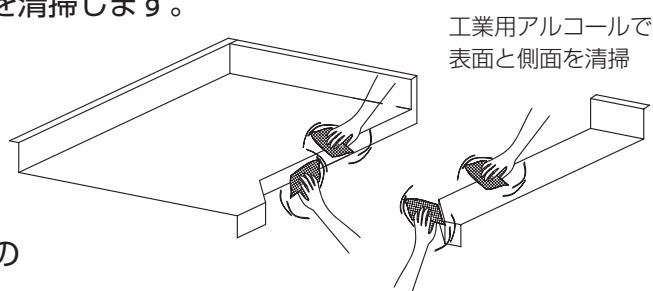
- ・カウンターの接合面(ジョイント面)の清掃(拭き、汚れ、油分を除去)をしてください。
汚れが残っていると、接合部が変色するおそれがあります。

【ステンレスカウンターの接合】

(1) 接合準備

①工業用アルコールを含ませたきれいな布で接合面を清掃します。

※ シンナーは使用しないでください。

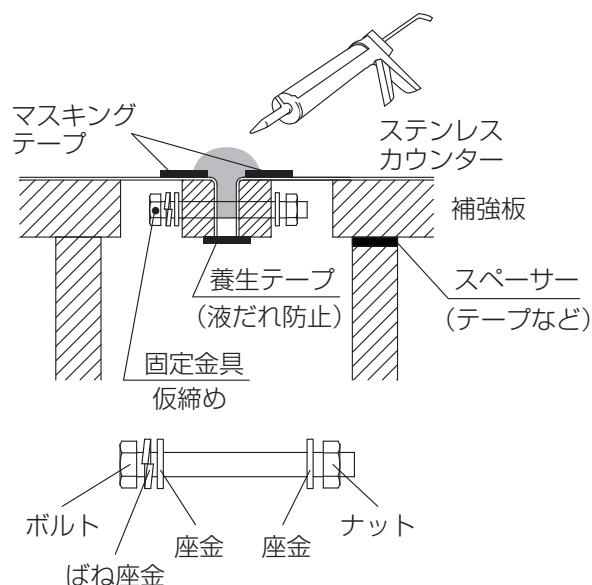


②カウンターをキャビネットの上に仮置きし、左右のカウンターのレベル確認や調整をします。

合わない場合はスペーサーとしてテープなど(現場調達)を使用します。

③カウンター裏から固定金具をセットして2ミリのすき間になるまで仮締めします。仮締め後にシリコンシーラントがこぼれ落ちないようにカウンター裏の接合部に養生テープを貼ります。

※ キャビネット内にもシリコンシーラントで汚さないようにシートで養生をしてください。



④カウンターの表面にマスキングテープを貼ります。

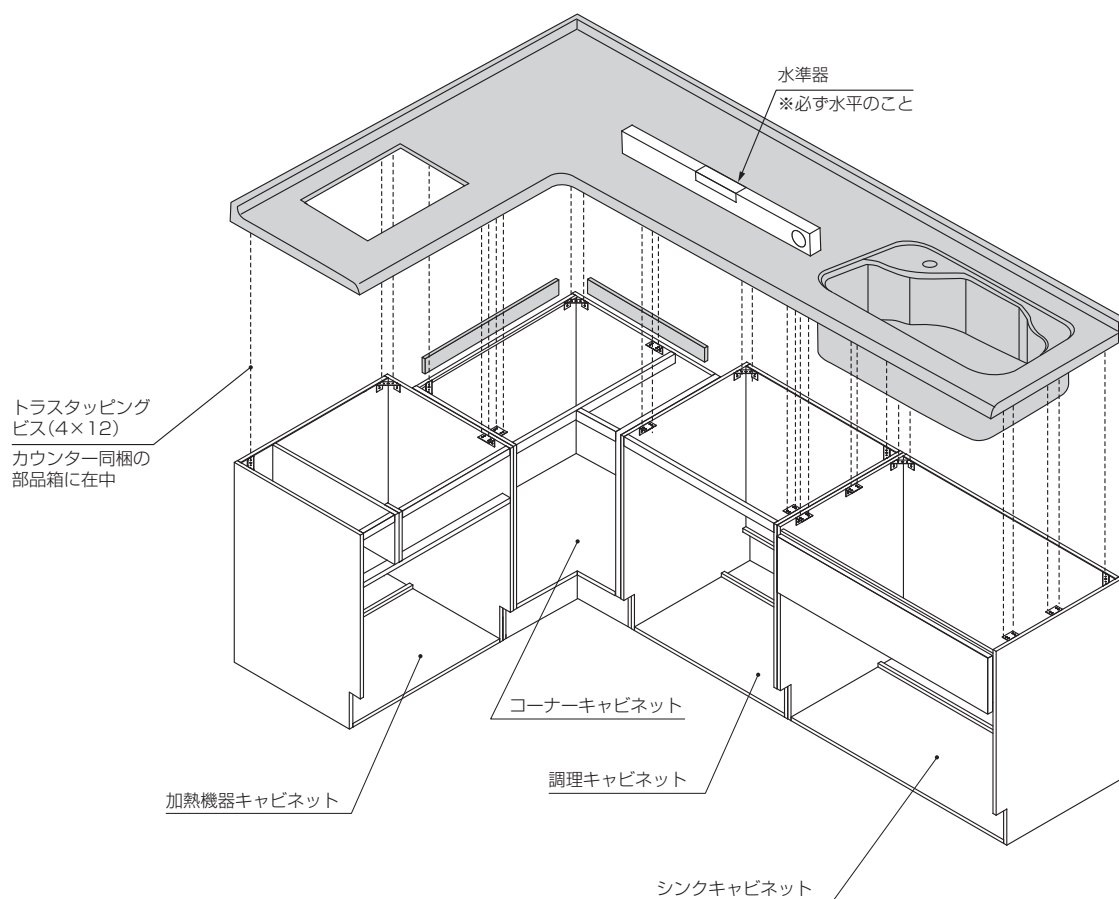
⑤シリコンシーラントを塗布してから固定金具を本締めします。

盛り上がったシリコンシーラントはヘラなどを使って、取り除いたのちにマスキングテープをはがしてください。カウンター裏側の養生テープもはがしてください。

L型キッチン カウンター(ワークトップ)の取り付け

L型カウンター(ワークトップ)の設置

- ①カウンターをベースキャビネットにのせ、L型の接合後に取り付け位置の確認後、水平の調整確認、位置合わせしてベースキャビネットの内側からトラスタッピングビス($\phi 4 \times 12$ 排水部品箱に同梱)で固定してください。
- ②カウンター固定は各キャビネットの両側板上端に取り付けられている金具を使用します。



バックガードの取り付け

⚠ 注意

シリコンシーラントは必ず防カビ剤入りを使用してください。
カウンターやバックガードの表面は絶対に磨かないでください。
(人大クォーツ、フィオレストーンの場合)

バックガードの取り付け

- ①バックガードを仮置きし、不陸の調整、位置の確認をしてください。
カウンター勝ちのバックガードはキッチンオープン側から3mm逃がして取り付けます。(図-1)
- ②カウンターと壁面の間にコーキングをしてください。(図-2)
- ③カウンターのバックガード取付部に接着剤(同梱品)を点付けします。
バックガード裏側にシリコンシーラントを塗布します。その際、はみ出しを防ぐため裏側への塗布は上端よりやや下側に行ってください。(図-3)
- ④バックガードを強く押さえて固定したのち、はみ出したシリコンシーラントをキレイに拭き取ってください。
- ⑤バックガードとカウンター取付面にコーキングしてください。
壁面とバックガード上部にコーキングしてください。(図-4)

■カウンター勝ち

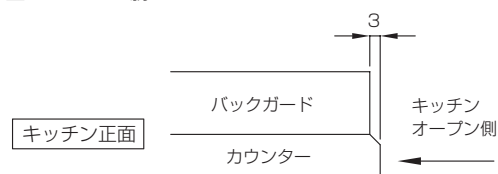


図-1

※コーキングする際は養生テープを使用してください。
コーキング後、忘れず養生テープをはがしてください。

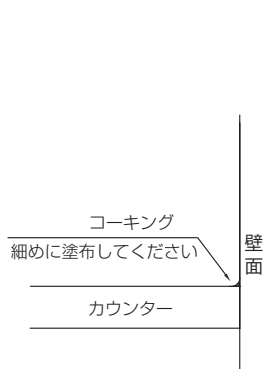


図-2

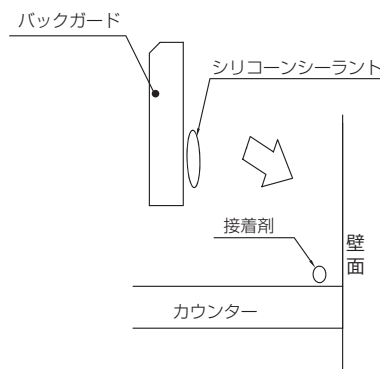


図-3

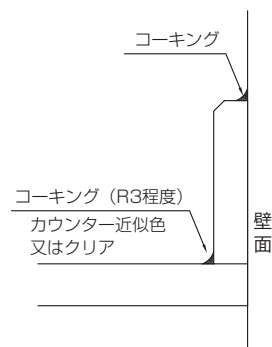
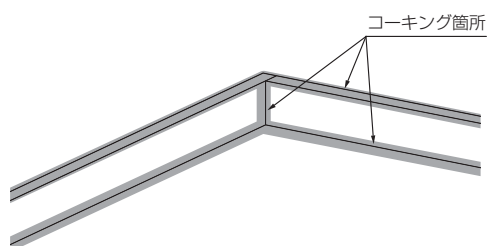


図-4

●L型キッチンのコーナー部



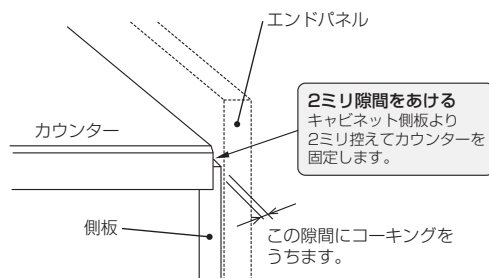
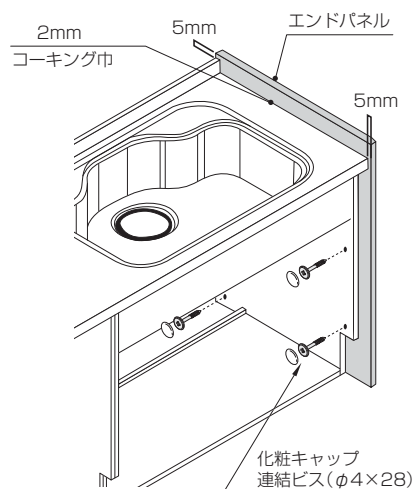
I型・L型キッチン パネルの取り付け

⚠ 注意 カウンターとエンドパネルのコーキング代について

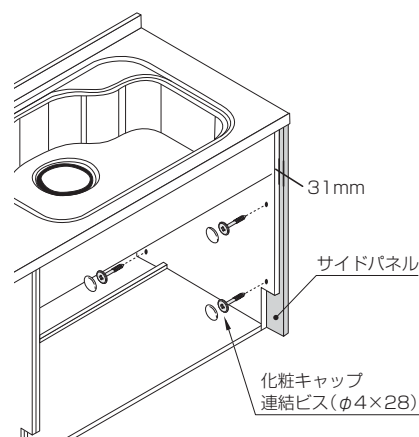
無垢の木は室内環境の影響で反ったり戻ったりを繰り返し、毎日わずかに動き続けます。
カウンターとエンドパネルのコーキングの接着力が不足すると、コーキングが切れやすくなります。
下図のようにカウンターとエンドパネルのコーキング巾を2ミリ確保し、充分コーキングを充填するよう、お願いします。

- ①下図取り合いに合わせ、パネルの位置を合わせてください。
- ②取り付けはキャビネット内側より連結ビスで止めてください。
- ③パネルとカウンターや壁面とのすき間をシリコンシーラ剤でコーキングしてください。
（「コーキング処理」参照）

【パネル勝ちの場合】



【カウンター勝ちの場合】



●ビス固定位置

パネルに同梱しています。説明書にてご確認ください。

P型キッチン P型キッチンの取り付け

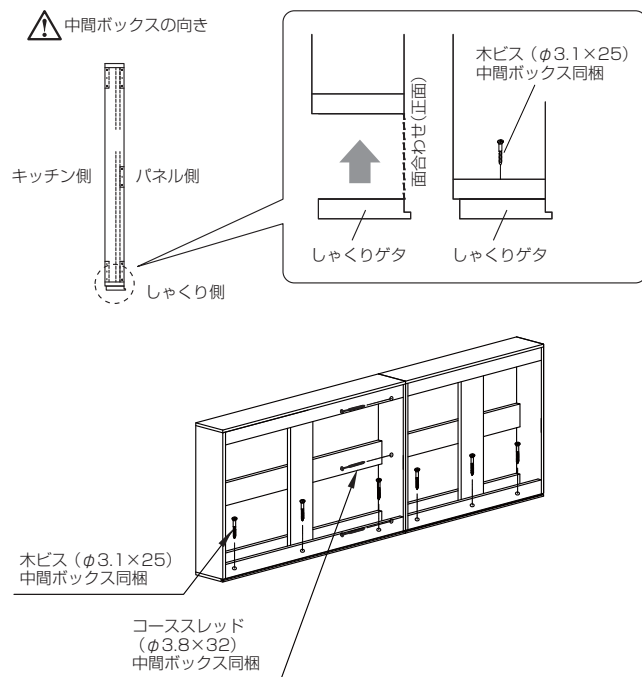
中間ボックスの取り付け

●しゃくりゲタありのタイプ

①中間ボックスとしゃくりゲタを木ビスで固定してください。

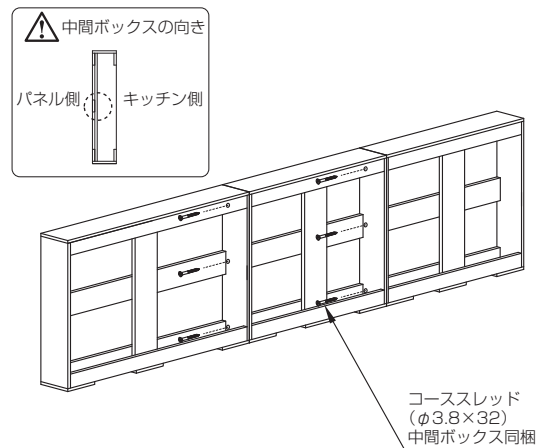
※しゃくりゲタの向きに注意してください。

②中間ボックス同士をコーススレッドで連結してください。

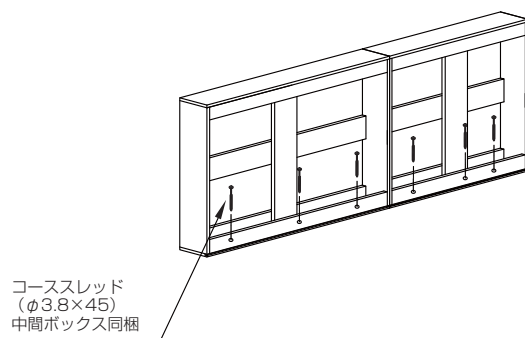


●しゃくりゲタなしのタイプ

①中間ボックスを連結してください。



③中間ボックスを床面に固定してください。

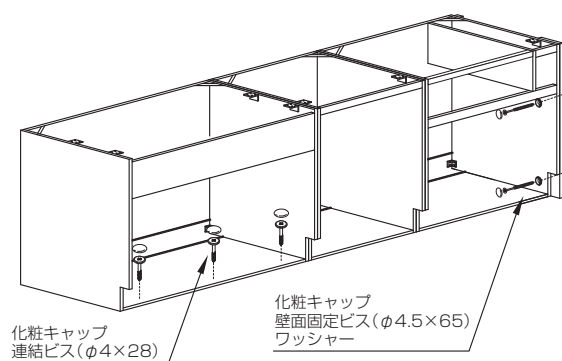


P型キッチン P型キッチンの取り付け

ベースキャビネットの取り付け

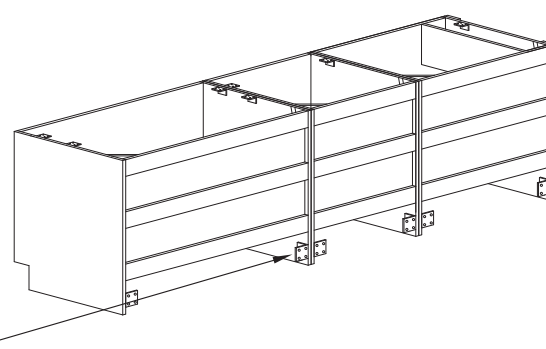
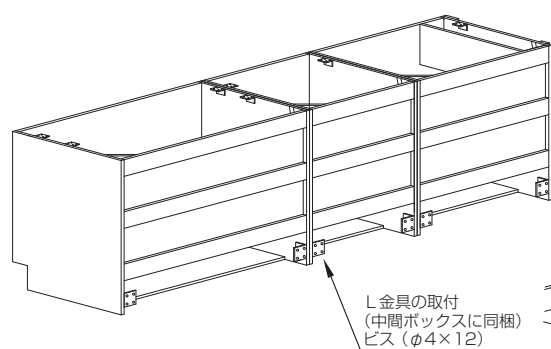
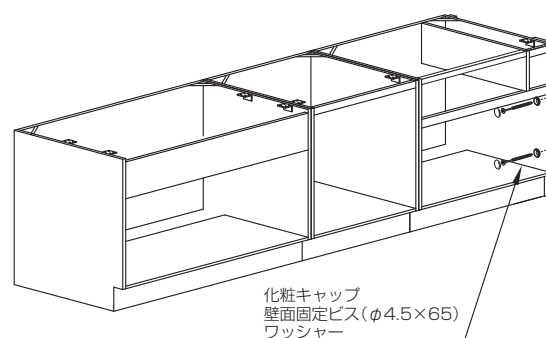
- ①ベースキャビネットを連結してください（参照 P20～P22 ベースキャビネットの連結）
- ②ベースキャビネットを床と横壁に固定してください。
- ③ベースキャビネットの点検口にL金具を取り付けてください。

●オールスライド (アンダーストッカータイプ)



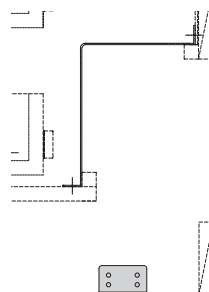
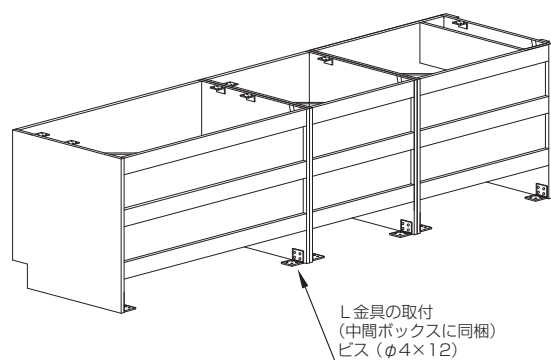
●台輪(ケコミ 扉色)タイプ

※点検口板の仕様



●台輪(ケコミ グレー色)タイプ

※樹脂点検口板の仕様



L金具の向きを注意してください

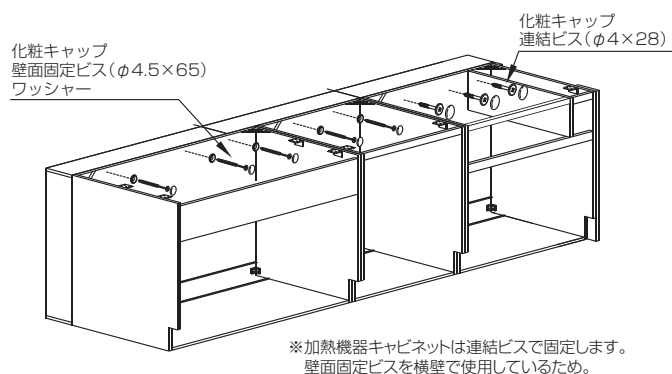
P型キッチン P型キッチンの取り付け

ベースキャビネットと中間ボックスの取り付け

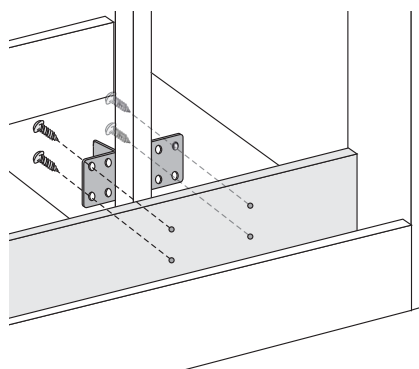
●アンダーストッカータイプ 台輪(ケコミ 扉色)タイプ

※樹脂点検口板の仕様

①中間ボックスとキャビネットを固定してください。



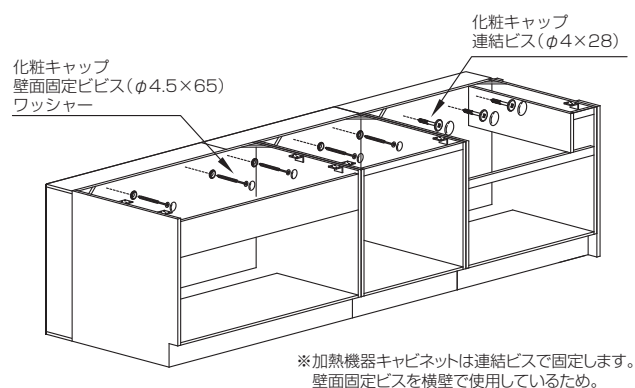
②点検口に取り付けたL金具と中間ボックスを
固定してください。
(ビスφ4×12)



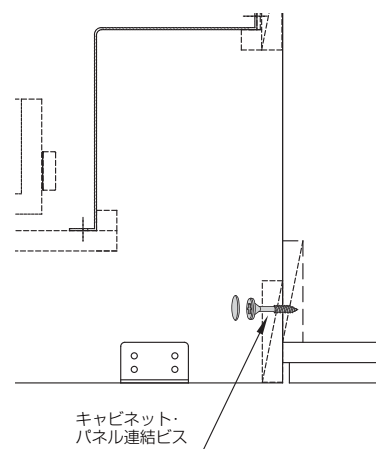
●台輪(ケコミ グレー色)タイプ

※樹脂点検口板の仕様

①中間ボックスとキャビネットを固定してください。



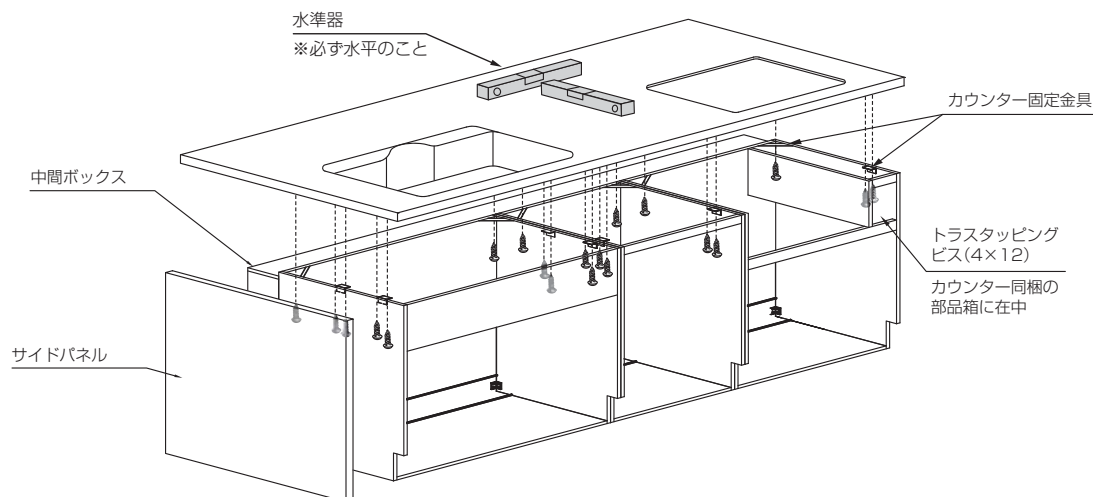
②キャビネット背板の補強板(最下段)と中間ボックスを
固定してください。(連結ビス)



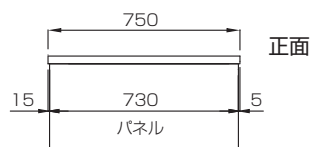
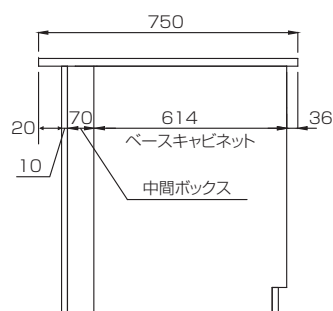
P型キッチン P型キッチンの取り付け

ワークトップ(カウンター)とサイドパネルの取り付け

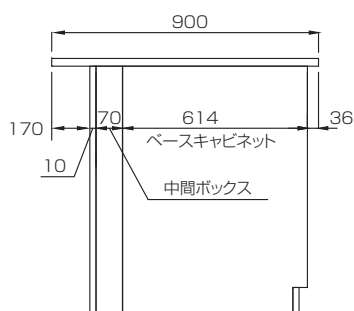
- ①カウンターをベースキャビネットにのせ、取り付け位置を確認後、水平の調整確認、位置合わせしてベースキャビネットの内側からトラスタッピングビス（ $\phi 4 \times 12$ 排水部品箱に同梱）で固定してください。
- ②カウンター固定は各キャビネットの両側板上端に取り付けられている金具を使用します。
- ③パネルを連結ビスで固定します。



【D750 納まり】

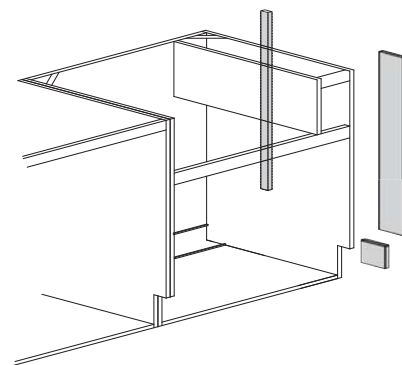


【D900 納まり】

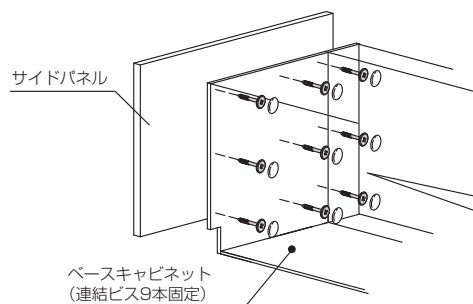


アイランドキッチンの場合は加熱機器キャビネットのフィラーを3つ取り外してパネルを付けてください。

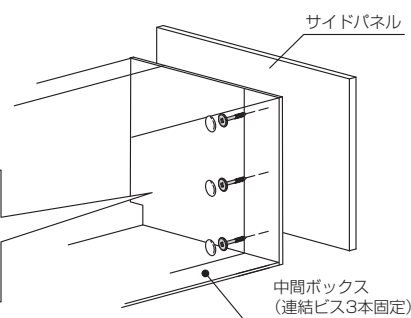
※フィラーはネイラーで固定されています。



【ベースキャビネット側】



【中間ボックス側】



P型キッチン P型キッチンの取り付け

無垢材フロントパネルの取り付け

①フロントパネルの向きに注意して、端から順番に仮置きして全長を確認します。

⚠ 注意

フロントパネルは濃淡や木目方向がバラバラ(連続にならない)になるように配置替えをして調整してください。

②中間ボックスに両面テープを貼ってください。

③接着剤をまんべんなく塗布してください。

④2枚目からフロントパネルの間に5mm厚のスペーサー(同梱の2.5mm厚のMDF2枚を貼り合せて使用)をはさみ、フロントパネルを固定してください。

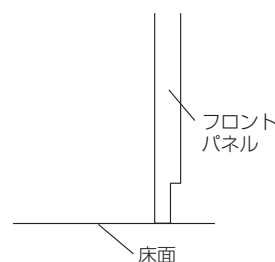
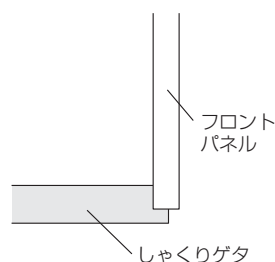
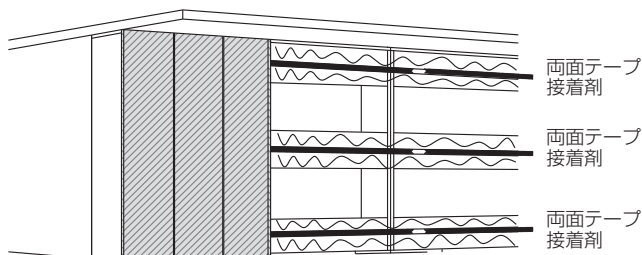
仮止め用の両面テープを貼った後に、接着剤をまんべんなく塗布してください。

【しゃくりゲタ】のタイプ

しゃくりにフロントパネルが
乗り掛かります。

フロントパネルに 【切り欠き】があるタイプ

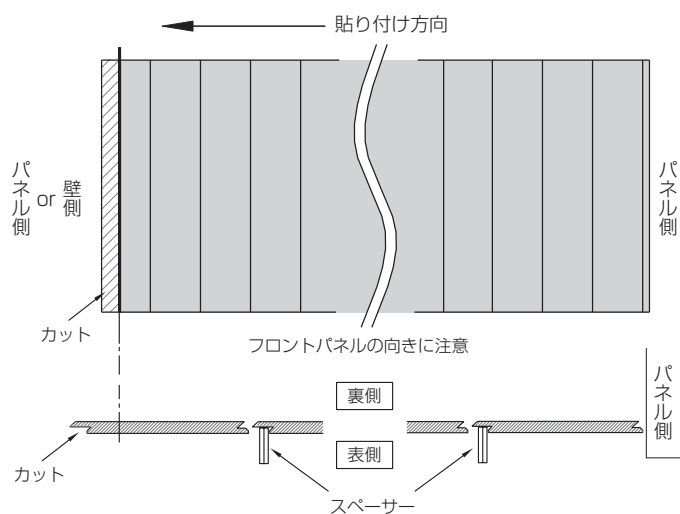
フロントパネルが床面に
接します。



⚠ 注意

伸びを逃すためフロントパネルの間にスペーサーを用いてクリアランスを設けてください。

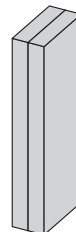
⑤最後のフロントパネルはカットして取り付けてください。



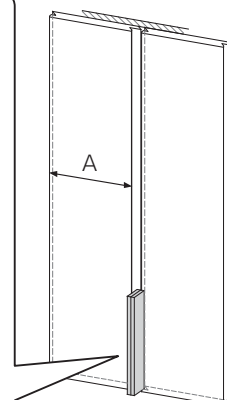
スペーサー (フロントパネル同梱)

●A寸法: 50
1枚で使用

●A寸法: 150
2枚重ねて使用



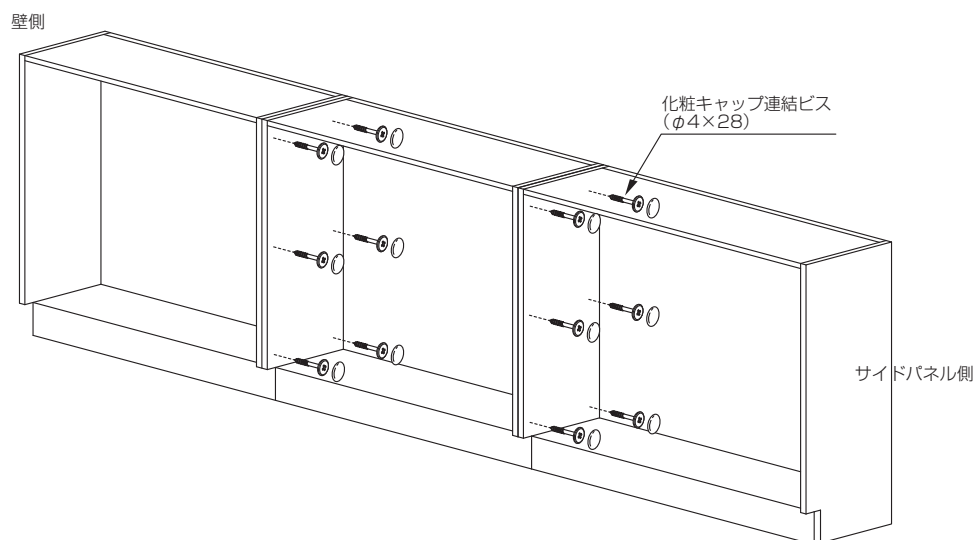
※フロントパネルサイズ(A寸法)によって
スペーサーの使い方が異なります。
・A寸法50mmの場合は2.5mm厚のMDF1枚
・A寸法150mmの場合は2.5mm厚のMDFを2枚重ね



P型キッチン P型キッチンの取り付け

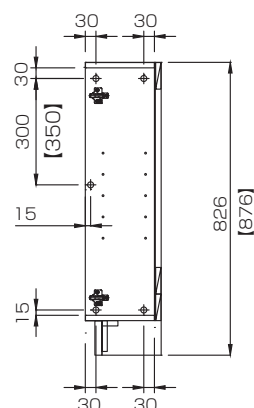
リビング収納の連結

●リビング収納プラン



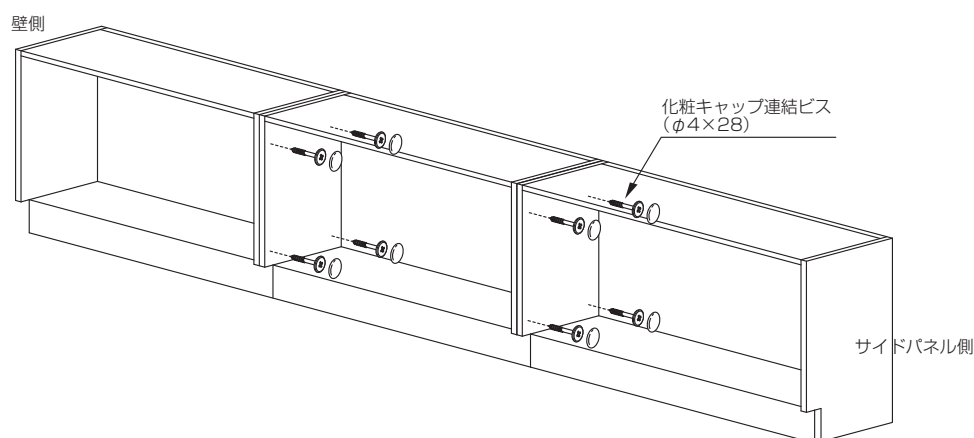
【連結ビス位置】

(側板前面より) (天板内面より) (裏板内面より)



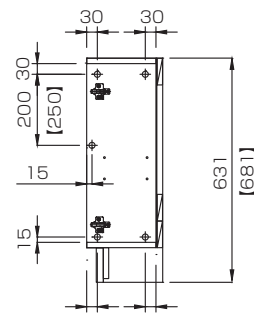
※【】内数値はキッチン高さ H900を示す。

●リビング収納+オーブンプラン



【連結ビス位置】

(側板前面より) (天板内面より) (裏板内面より)



※【】内数値はキッチン高さ H900を示す。

P型キッチン

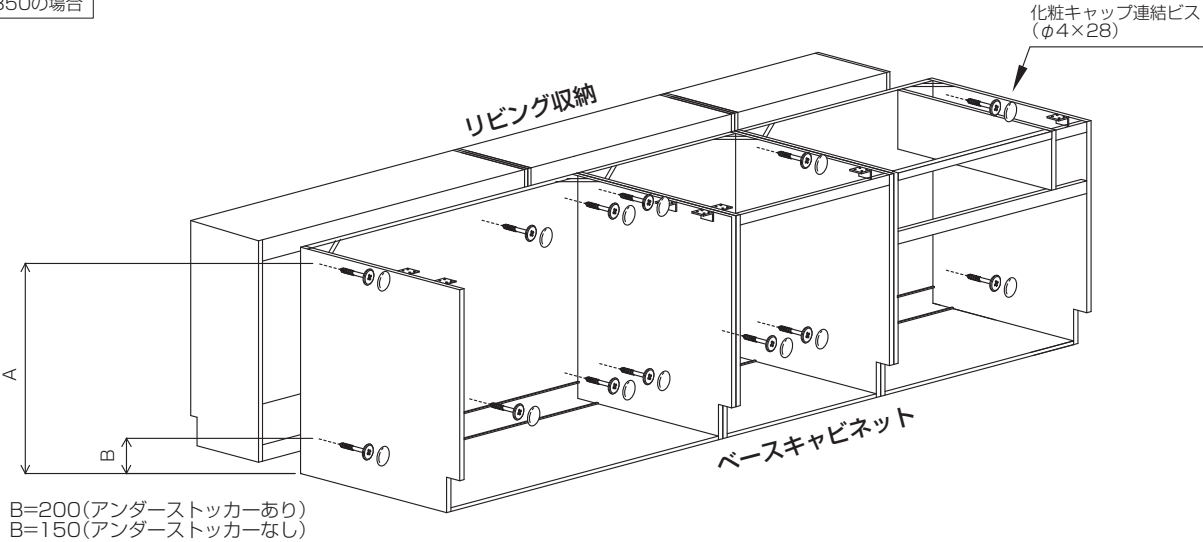
P型キッチンの取り付け

ベースキャビネットとリビング収納の連結

●リビング収納プラン

連結ビス取り付け高さ

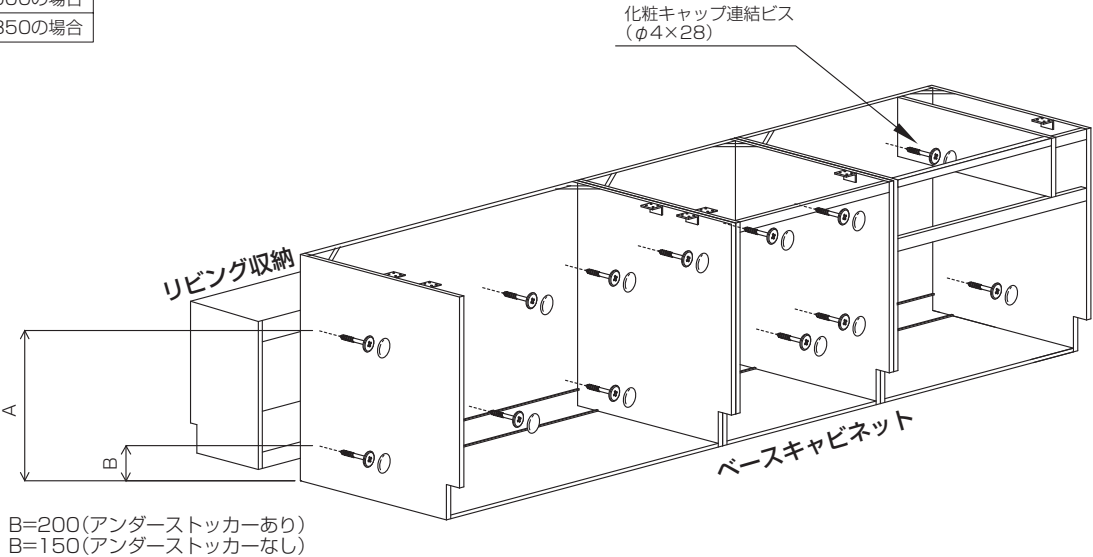
A	キッチン高さ
850	H:900の場合
800	H:850の場合



●リビング収納＋オープンプラン

連結ビス取り付け高さ

A	キッチン高さ
585	H:900の場合
535	H:850の場合



P型キッチン P型キッチンの取り付け

背板・オープン棚・仕切り板の取り付け

●リビング収納+オープンプラン

⚠ 注意



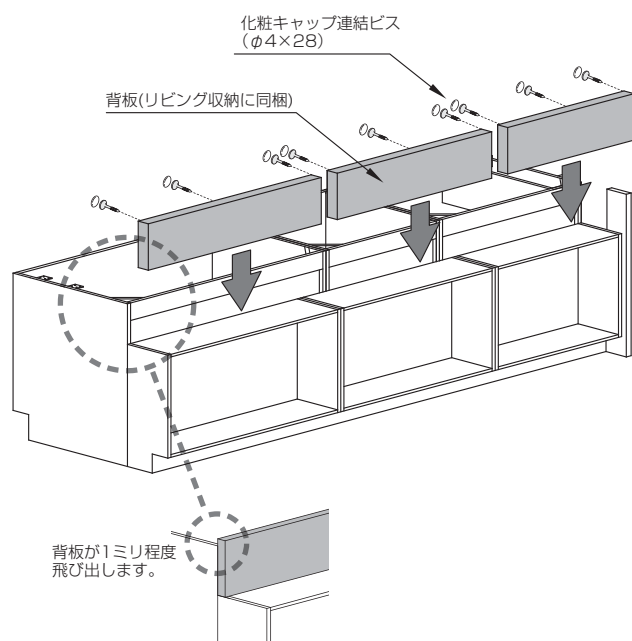
必ずおこなう 背板はホワイトとダークグレーになっています。
指定された色を表にしてください。

⚠ 注意

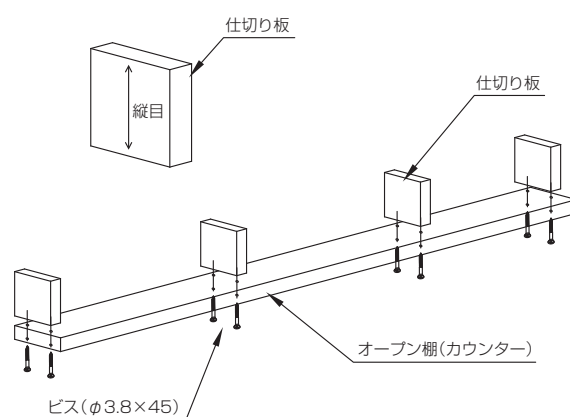


必ずおこなう 仕切り板の木目方向を確認してください。

①背板を固定



②オープン棚と仕切り板を固定

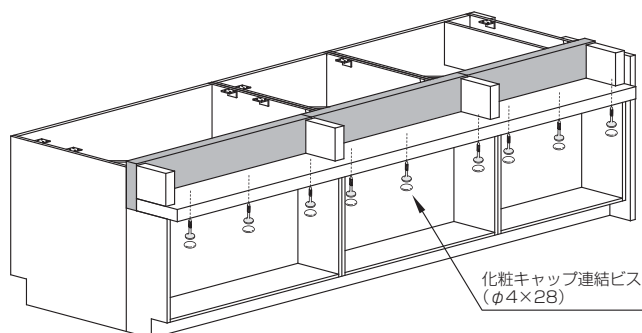


⚠ 注意



必ずおこなう ビス固定する際は必ず下穴をあけてください。
仕切り板が割れるおそれがあります。

③オープン棚をリビング収納と固定

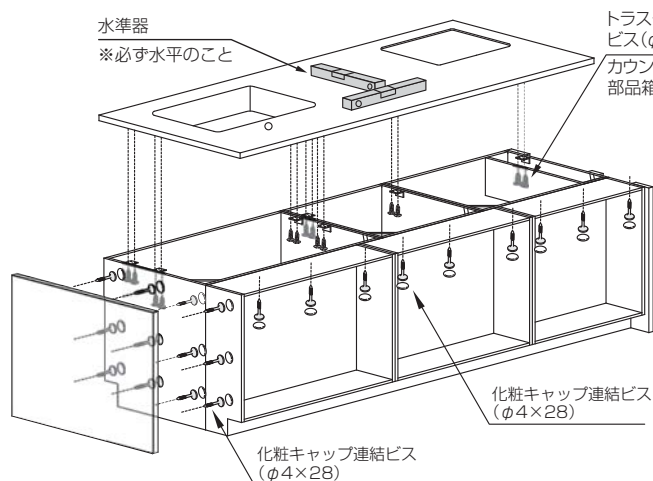


P型キッチン P型キッチンの取り付け

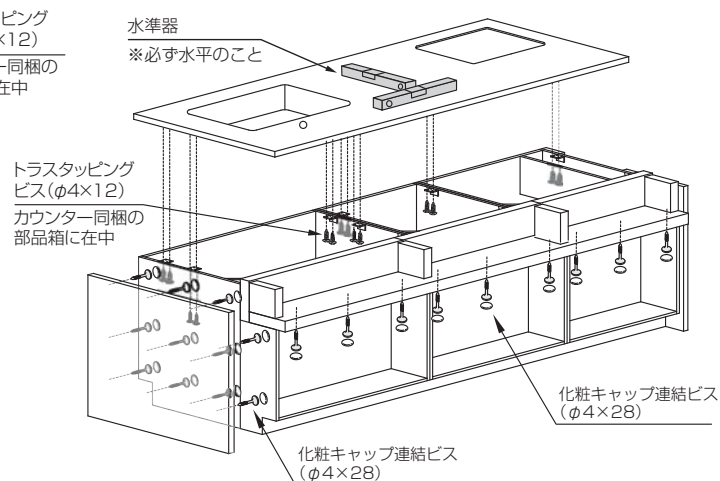
カウンター（ワークトップ）とサイドパネルの取り付け

- ①カウンターをベースキャビネットにのせ、取り付け位置を確認後、水平の調整確認、位置合わせしてベースキャビネットの内側からトラスタッピングビス（ $\phi 4 \times 12$ 排水部品箱に同梱）で固定してください。
- ②カウンター固定は各キャビネットの両側板上端に取り付けられている金具を使用します。
- ③リビング収納プランはリビング収納とカウンターを連結ビスで固定します。
オープンプランはリビング収納とオープン棚を連結ビスで固定します。
- ④パネルを連結ビスで固定します。

●リビング収納プラン



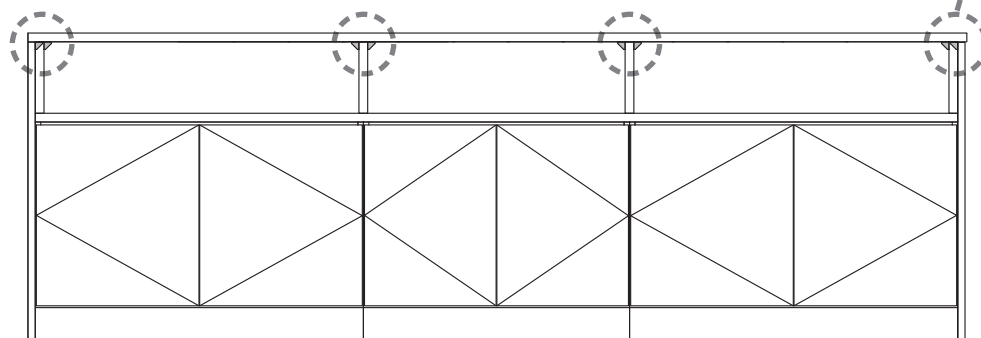
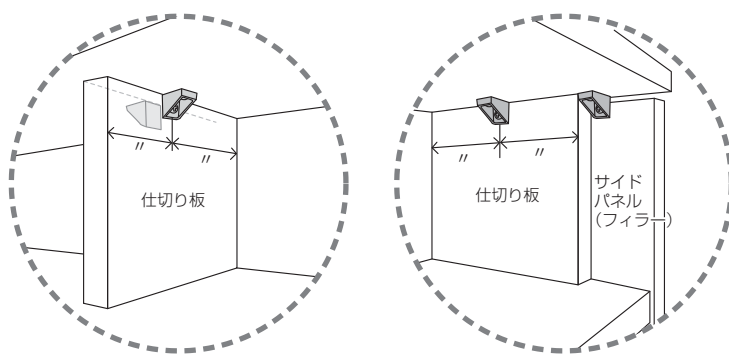
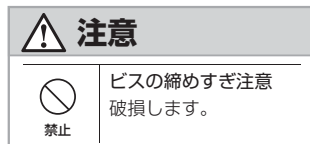
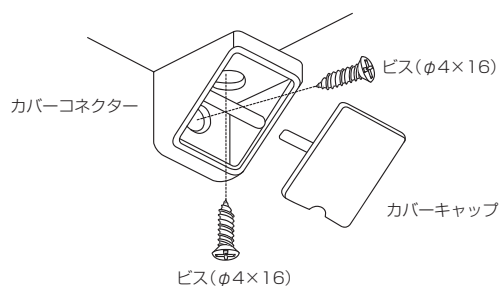
●リビング収納+オープンプラン



コーナーコネクターの取り付け

●リビング収納+オープンプラン

下記の場所にコーナーコネクターを取り付けてください。



Lシンクの取り付け

Lシンクの設置

⚠ 注意

- タイルキッチンカウンターの場合はタイル施工が完了後にシンク、加熱機器の設置をします。
- タイル目地材が十分に乾いているかを確認してから設置してください。
- シーリング材は必ず防カビ剤入りを使用してください。

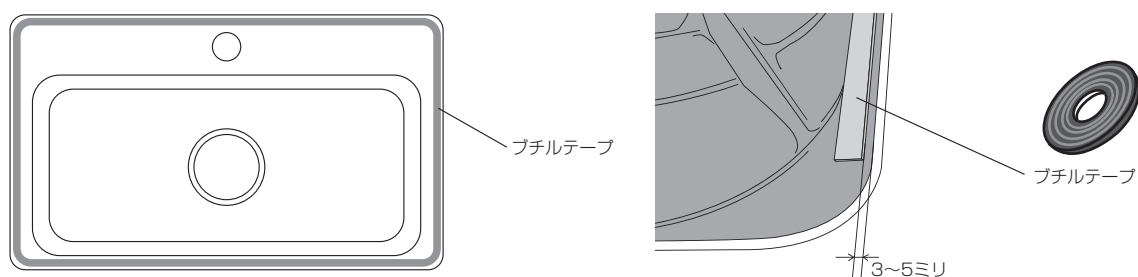
工業用アルコールを含ませたきれいな布でシンク設置面を清掃します。

※シンナーは使用しないでください。

(1) Lシンク裏面の縁にブチルテープを全周貼り付けします。

ブチルテープを貼ることで防水効果や、数ミリの隙間ができるためシリコン材が十分に充填できるようになります。

※ブチルテープの剥離紙はシンク配置後にはがした方がシンクの位置決めがしやすいです。



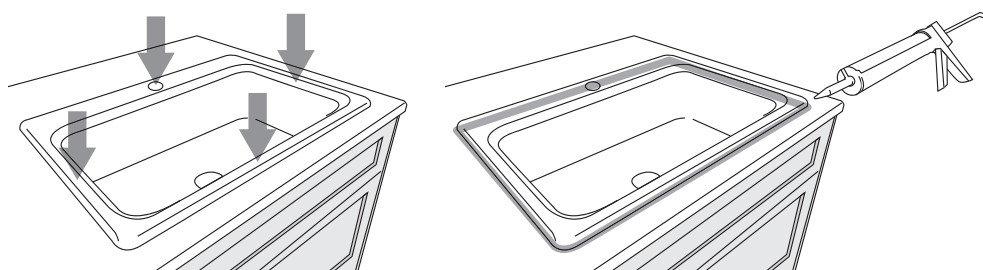
(2) カウンターにLシンクを設置します。

①シンク開口に上からシンクを落とし込みます。シンク位置決めをしてからブチルテープの剥離紙をはがします。

②シンクを密着させるために、シンクを均等に手で押し付けます。

※ブチルテープを潰して密着させるため、ある程度潰しておかないと、設置後のシリコン材がはみ出てくる可能性があります。

③コーキング処理のためにシリコン材を充填します。

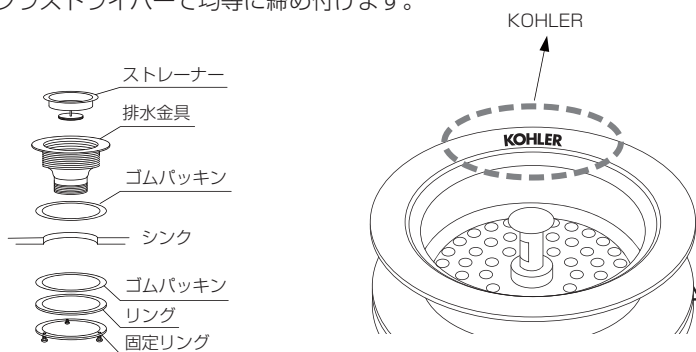


排水部品の取り付け

Lシンクの排水トラップセットの取り付け

(3) Lシンクに専用排水金具を取り付けます。

- ①排水金具を順番に取り付けします。
※『KOHLER』の文字が正面にしてください。
- ②固定リングを手で回して締め付けます。
ねじをプラスドライバーで均等に締め付けます。

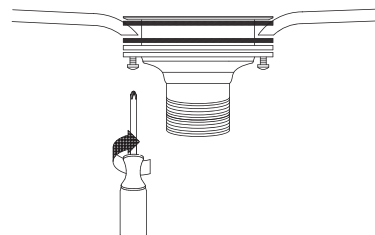


⚠ 注意



必ずおこなう

手締めプラスドライバーで均等に締め付ける。
均等に締め付けないと固定リングが曲がります。



③排水トラップセットを取り付けます。

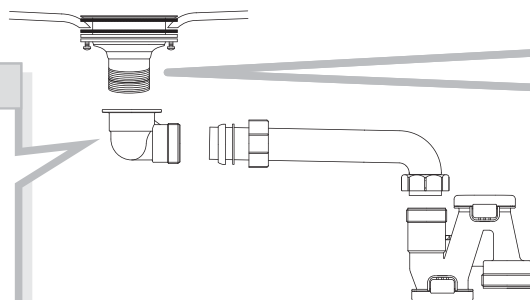
⚠ 注意



禁止

無理にねじ込まない。
排水部材のネジ部が変形して、水漏れの原因になります。

※当たりがあるところから締め上げてください。

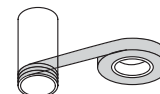


注意



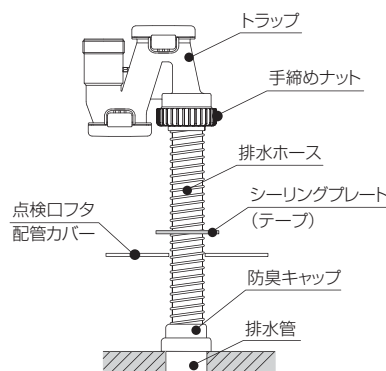
必ずおこなう

シールテープを右回りに5~7周程度巻く。
(現地調達)



これより以下は【管工事】になります。

- (4) トラップのホース接続部に排水ホースを差し込み、ナットを手締めで固定する。
- (5) 排水ホースをシーリングプレートと点検口フタまたは配管カバーに通す。
(シーリングプレートはテープ保護紙を取り点検口フタまたは配管カバー上部に貼り付ける)
- (6) ホースがたるまない位置まで防臭キャップを排水ホースに差し込み、排水管に確実に取り付ける。
※ホースが長い場合は適切な長さに切断してください。
- (7) 点検口フタまたは配管カバーを取り付けビスで固定する。

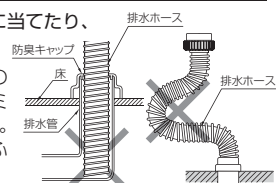


⚠ 注意



禁止

排水ホースは排水管の底に当てたり、たるませて取り付けない。
排水能力が低下して、水の流れが悪くなったり、ゴミが詰まりやすくなります。
また、シンクから水があふれるおそれもあります。

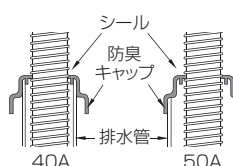


⚠ 注意



必ずおこなう

防臭キャップや排水管の接続は接着剤またはシール材で必ずシールする。
シールが不完全な場合、臭気の発生したり、湯気が上がりキャビネットや床が腐るおそれがあります。



取付設置後の確認 シンクに水を満水にして、各接続部に水もれがないことを確認する。

排水部品の取り付け

排水トラップセットの取り付け

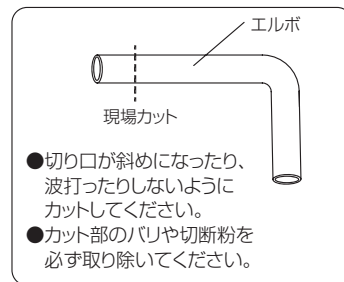
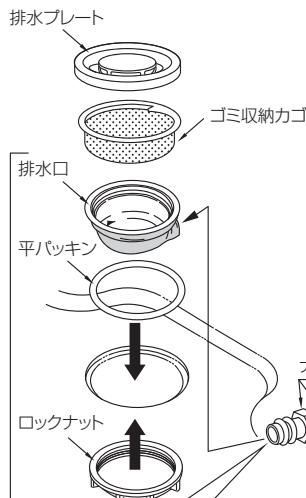
- (1) 排水口・平パッキンをシンクの上から差し込み、ロックナットを手で仮締めする。
- (2) ①現場立ち上げの配管位置にあわせてエルボをカットする。
(カットの必要がなければそのまま使用する。)
- ②排水口の出口にエルボを奥にあたるまでしっかりと差し込み、ナットを手締めで固定する。
- ③エルボにトラップを差し込み、手締めで固定する。

注意

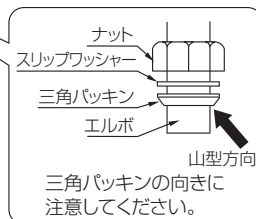
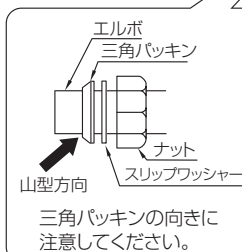
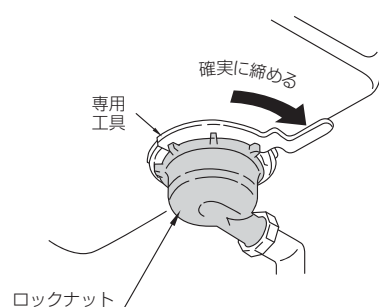


必ずおこなう

ナットの固定は手締めする。
工具を使用すると樹脂部分が破損して
水漏れするおそれがあります。



- (3) ロックナットを専用工具で固く締め付け、固定する。
※エルボがぐらつかないことを確認してください。



注意

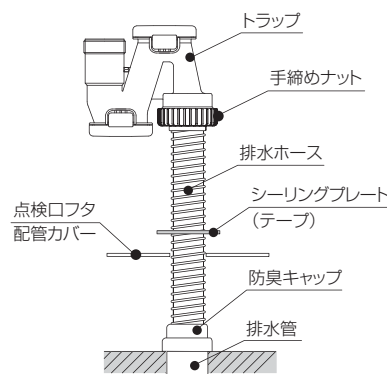


必ずおこなう

ロックナットの固定は専用工具を使用する。
他の工具を使用すると均一に締まらなかったり、破損するおそれがあります。
※ 専用工具は別途ご用意ください。

これより以下は【管工事】になります。

- (4) トラップのホース接続部に排水ホースを差し込み、ナットを手締めで固定する。
- (5) 排水ホースをシーリングプレートと点検口フタまたは配管カバーに通す。
(シーリングプレートはテープ保護紙を取り点検口フタまたは配管カバー上部に貼り付ける)
- (6) ホースがたるまない位置まで防臭キャップを排水ホースに差し込み、排水管に確実に取り付ける。
※ホースが長い場合は適切な長さに切断してください。
- (7) 点検口フタまたは配管カバーを取り付けビスで固定する。

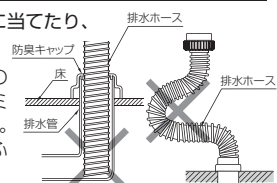


注意



禁止

排水ホースは排水管の底に当てたり、たるませて取り付けない。
排水能力が低下して、水の流れが悪くなったり、ゴミが詰まりやすくなります。
また、シンクから水があふれるおそれもあります。

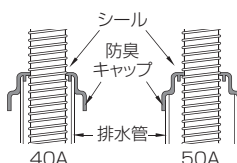


注意



必ずおこなう

防臭キャップや排水管の接続は接着剤またはシール材で必ずシールする。
シールが不完全な場合、臭気の発生したり、湯気が上がりキャビネットや床が腐るおそれがあります。



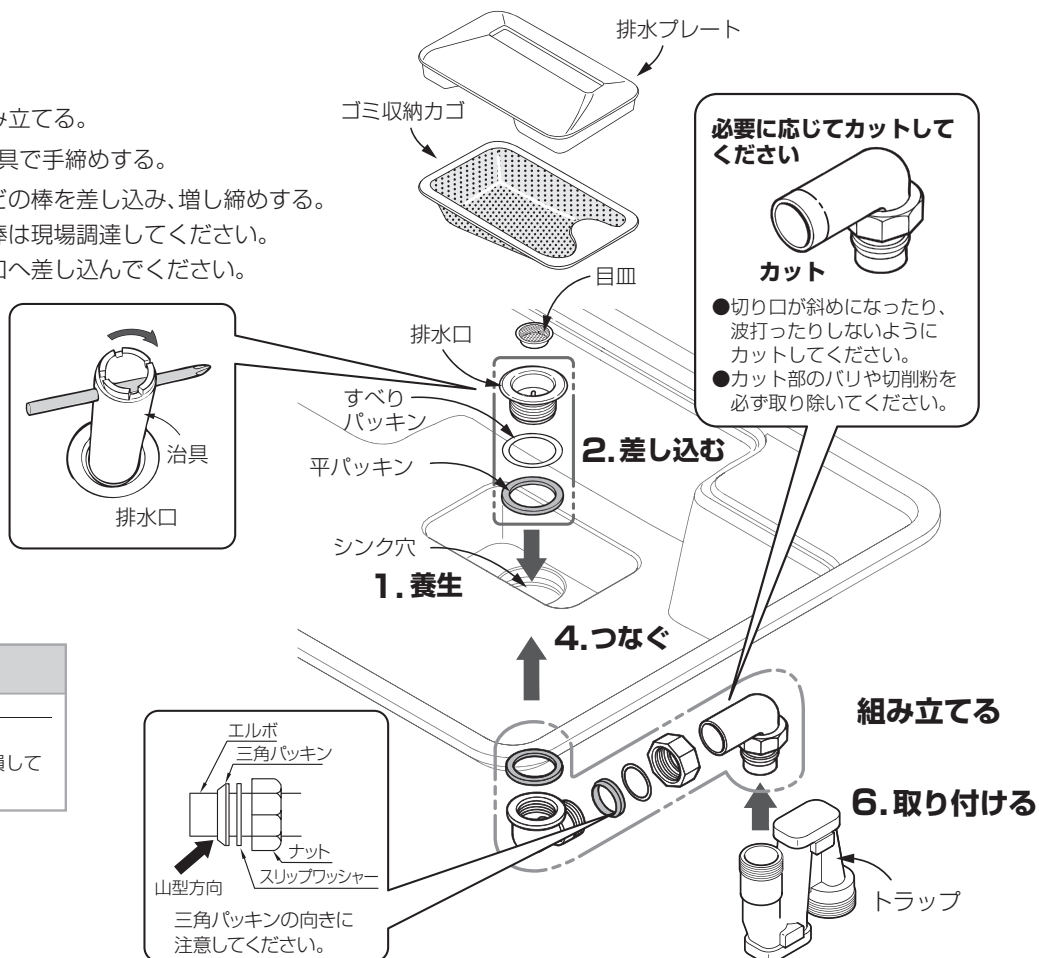
取付設置後の確認 シンクに水を満水にして、各接続部に水もれがないことを確認する。

排水部品の取り付け

排水トラップセット(排水ロー一体式)の取り付け

- (1) シンク穴を養生する。
- (2) シンク穴に排水口を差し込む。
- (3) トラップ以外の排水セットを組み立てる。
- (4) 排水口と排水セットをつなぎ、治具で手締めする。
- (5) 治具の穴にドライバービットなどの棒を差し込み、増し締めする。
※ドライバービットなどの棒は現場調達してください。
※目皿を外して治具を排水口へ差し込んでください。

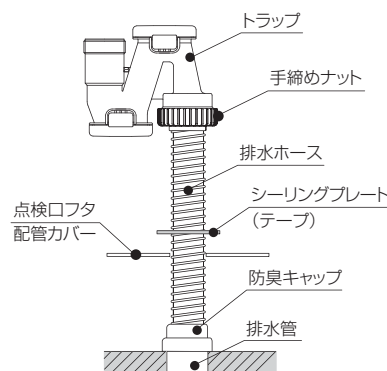
お願い
シンクを傷つけないように
注意してください。



- (6) トラップを取り付ける。

注意
ナットの固定は手締めする。
工具を使用すると樹脂部分が破損して
水漏れするおそれがあります。

- (4) トラップのホース接続部に排水ホースを差し込み、ナットを手締めで固定する。
- (5) 排水ホースをシーリングプレートと点検口フタまたは配管カバーに通す。
(シーリングプレートはテープ保護紙を取り点検口フタまたは配管カバー上部に貼り付ける)
- (6) ホースがたるまない位置まで防臭キャップを排水ホースに差し込み、排水管に確実に取り付ける。
※ホースが長い場合は適切な長さに切断してください。
- (7) 点検口フタまたは配管カバーを取り付けビスで固定する。



注意
排水ホースは排水管の底に当てたり、たるませて取り付けない。
排水能力が低下して、水の流れが悪くなったり、ゴミが詰まりやすくなります。
また、シンクから水があふれるおそれもあります。

注意
防臭キャップや排水管の接続は接着剤またはシール材で必ずシールする。
シールが不完全な場合、臭気の発生したり、湯気が上がりキャビネットや床が腐るおそれがあります。

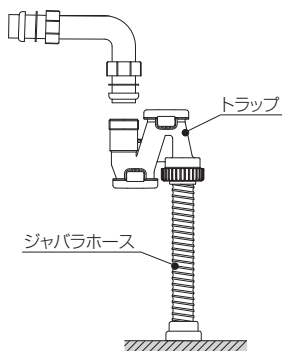
取付設置後の確認 シンクに水を満水にして、各接続部に水もれがないことを確認する。

排水部品の取り付け

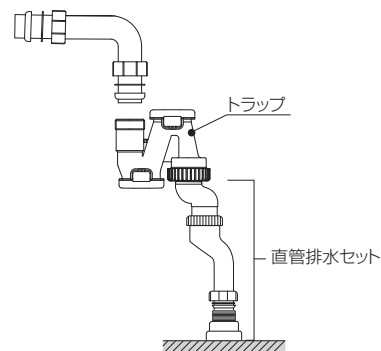
直管排水の場合

- 長期優良住宅の場合は、「維持管理への配慮・等級3」の仕様となり、直管排水セットが必要です。最寄の当社営業所へお問い合わせください。

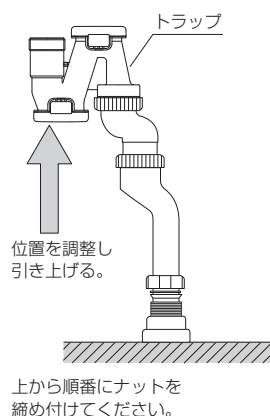
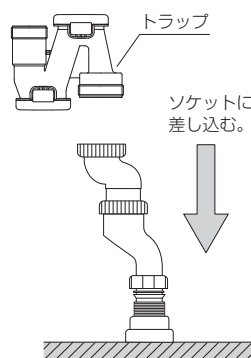
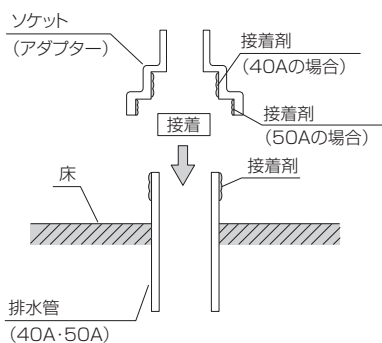
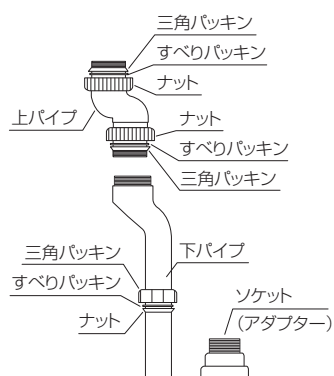
〈標準仕様（ジャバラホース）〉



〈長期優良住宅（直管仕様）〉



直管排水セットの取り付け 管工事



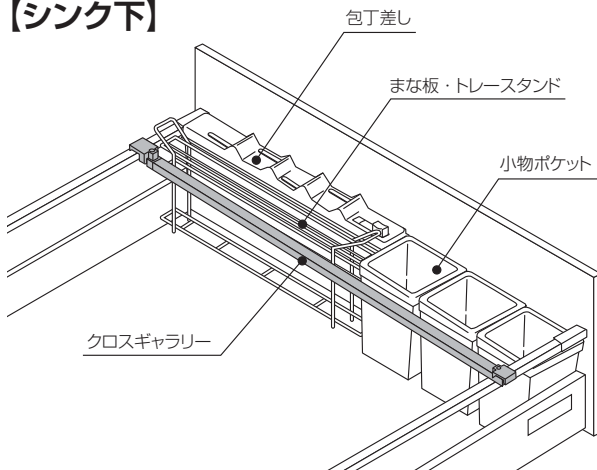
シンク下収納パーツの取り付けと取り外し

下記の収納パーツを引出しに設置してください。

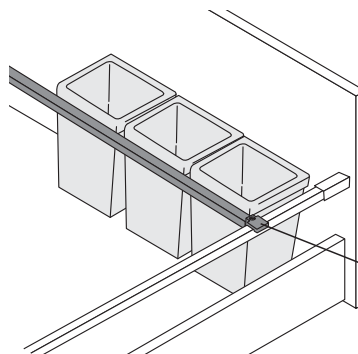
シンク下収納パーツ

※商品品番によって数量や仕様が異なります。

【シンク下】

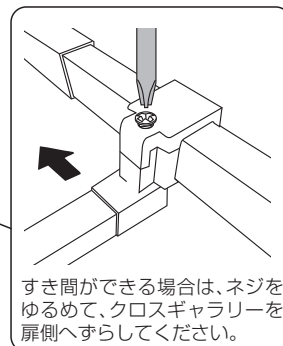


小物ポケットはクロスギャラリーで押さえてください。



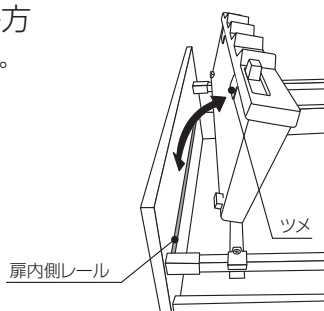
⚠ 注意

押さえが弱いと小物ポケットが転倒するおそれがあります。



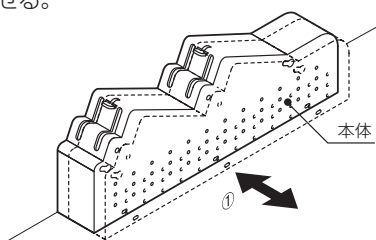
●包丁差しの取り付け方と取り外し方

包丁差し本体を上引き上げて取り外せます。取り付けの際は、包丁差し本体のツメをレールに引っ掛けて取り付けます。

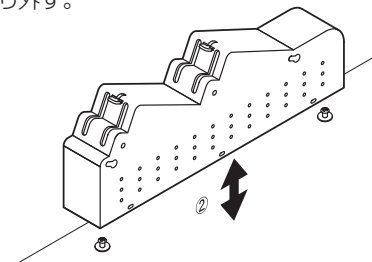


●包丁差しの取り付け方と取り外し方

①本体を奥側にスライドさせる。



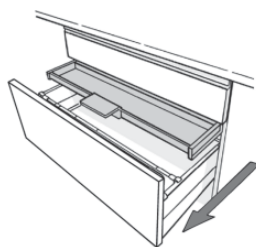
②上に持ち上げ取り外す。



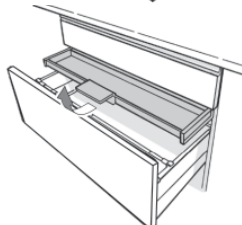
インナー引出しの取り外しと取り付け

●取り外し方

①引出しとインナー引出しをいっばいに引出す。

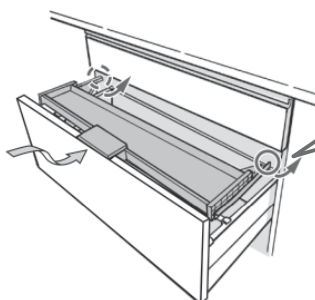


②インナー引出しを持ち上げながら引き抜く。



●取り付け方

引出しを持ち上げながらレールにはめる。



内引出しのローラーをレールにすべりこませる
ローラー
レール

開き扉の取り外しと取り付け・調整方法

警告



必ずおこなう

取り付けたら、傾き・ガタつき・ゆるみがないことを必ず確認してください。
使用中に落下してけがをするおそれがあります。

注意

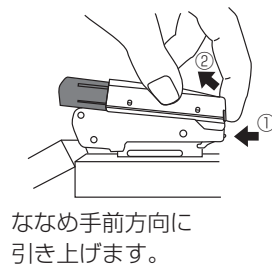


必ずおこなう

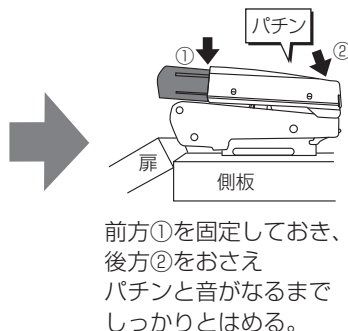
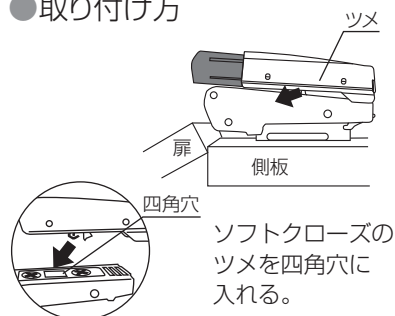
調整はハンドドライバーを使用してください。
電動工具を使用すると破損するおそれがあります。

ソフトクローズの取り付けと取り外し

●取り外し方



●取り付け方



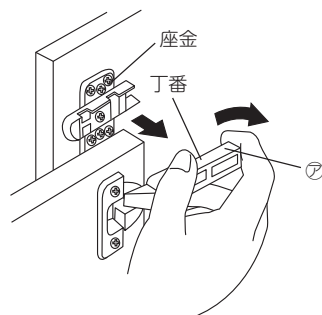
注意

無理な脱着は、部品破損原因になります。

開き扉の取り外しと取り付け

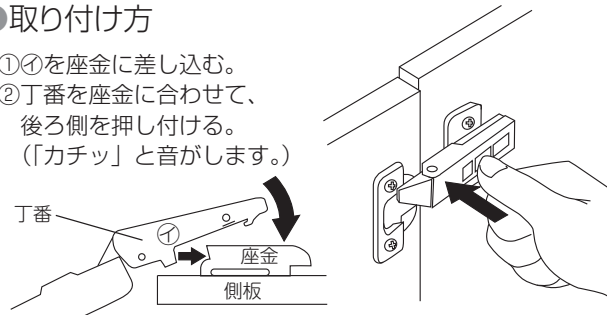
●取り外し方

扉をしっかり持ち、丁番の後方のレバー⑦をつまんで外す。



●取り付け方

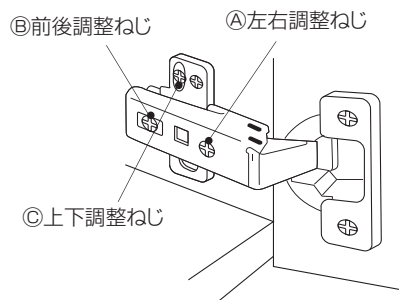
- ①④を座金に差し込む。
- ②丁番を座金に合わせて、後ろ側を押し付ける。
(「カチッ」と音がします。)



開き扉(丁番)の調整

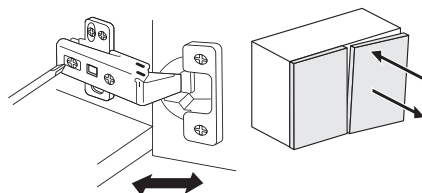
扉が傾いたり、がたついているときは、丁番で調整してください。

※イラストは右扉の場合です。左扉の場合は丁番が上下逆さになります。



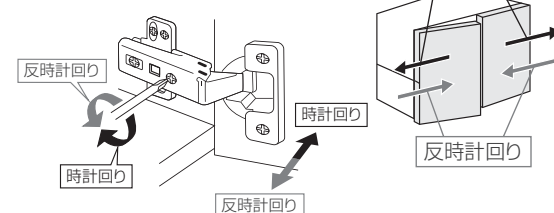
扉の前後調整

扉を取り付けた後②をゆるめて前後調整し、締めなおします。



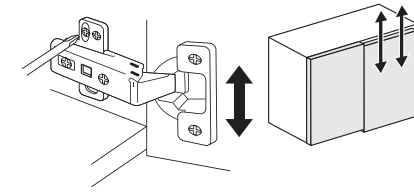
扉の左右調整

②の固定ねじを締めたまま①をまわして、左右調整をします。



扉の上下調整

③をゆるめて扉ごと上下調整をしたあと、締めなおします。



引出しの取り外しと取り付け

⚠ 安全上のご注意（必ずお守りください）

必ず両手で引き出しを持って取り外すこと。ギャラリーパイプは持たないこと。

落下してけがをするおそれがあります。

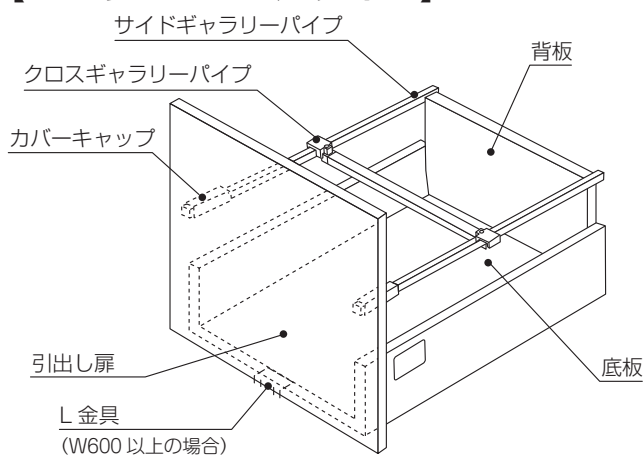
確実に引き出しが固定されているかを確認すること。

レールから外れて落下するおそれがありますので、必ず開閉を数回（一番手前まで引き出し、最後まで押し込む）実施して、確実に固定されていることを確認してください。

引出しの取り付けと取り外し

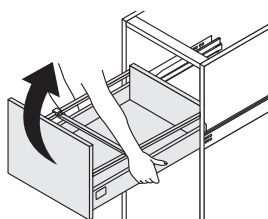
〈部品名称〉 注) 引出しのレールには2つのタイプがありますので、お使いのレールを確認の上ご覧ください。

【ベアリングレールタイプ】



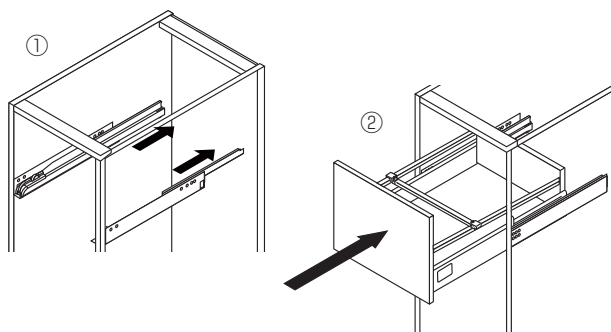
●取り外し方

- ① 引出しを手前に出します
- ② 引出しを上を持ち上げて引き抜きます。

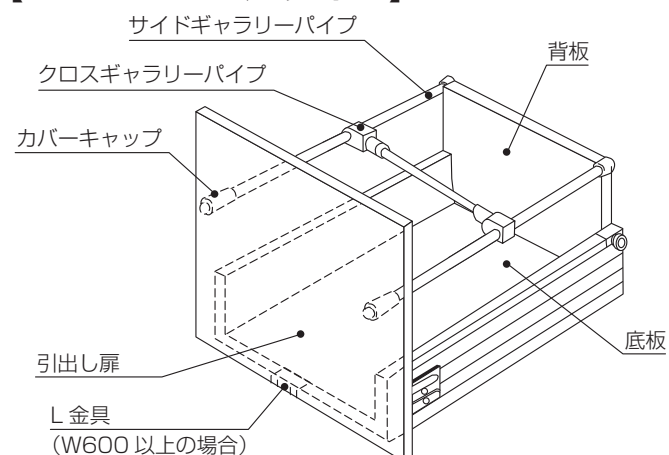


●取り付け方

- ① 左右のレールをキャビネット内におさめます。
- ② 引出しをレールの上に乗せて押し込みます。
「カチャ」と音がしたことを確認します。

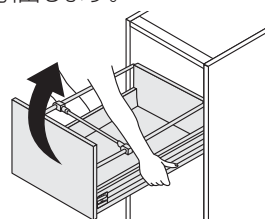


【ローラーレールタイプ】



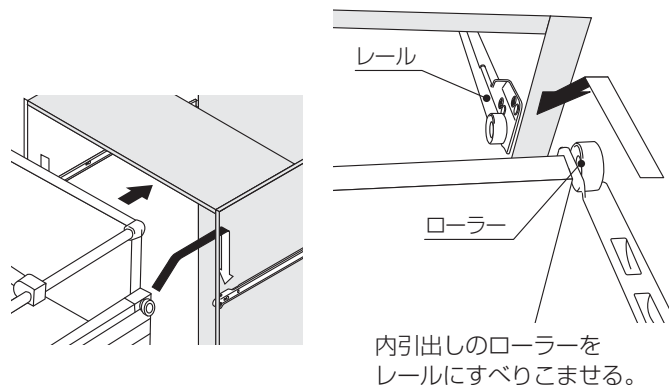
●取り外し方

- ① 引出しをいっぱいまで手前に出します。
- ② ストッパーが動いているので手前を持ち上げながらさらに引出します。



●取り付け方

- ① 引出しのレールを側板のレールにのせます。
- ② ストッパーに注意しながらはめ込みます。



引出し扉の脱着【ベアリングレールタイプ】

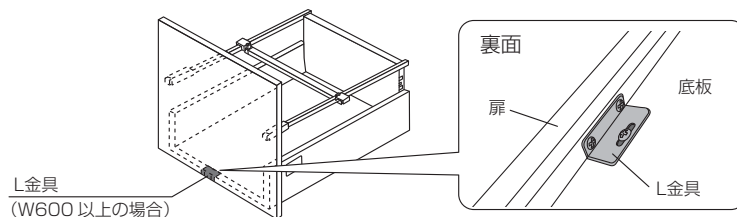
⚠ 調整時のご注意

【キャビネット間口600mm以上の場合】

引出し底板の裏にL金具がついていますので、固定ビスをはずしてから行ってください。

L金具：扉の反り防止用

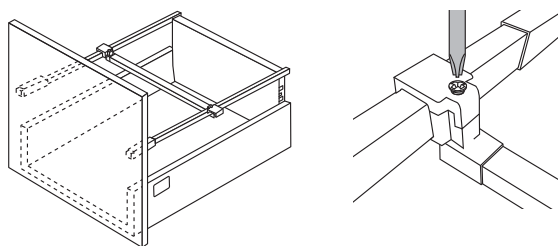
重要：取り付け後（調整後）は必ずビスを取り付けてください。



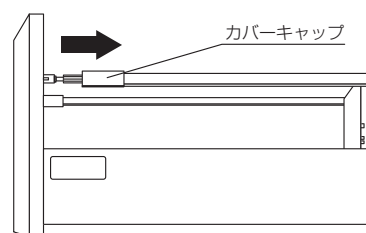
引出しの取り付けと取り外し

● ギャラリーパイプの外し方 ※付いてる場合

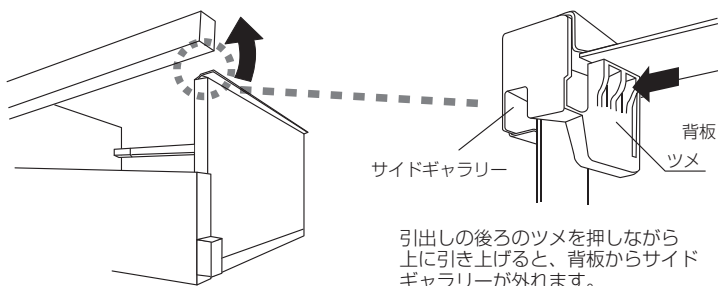
①クロスギャラリーパイプを外します。



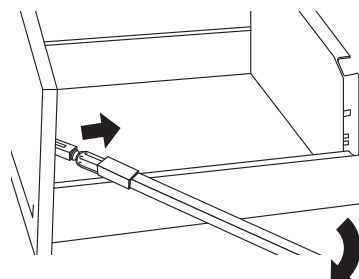
②カバーキャップを奥方向にスライドさせてください。



③サイドギャラリーを背板から取り外します。

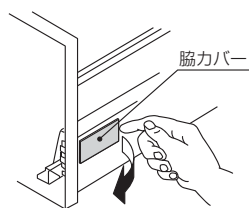


③ギャラリーパイプを倒して扉からダボを抜きます。

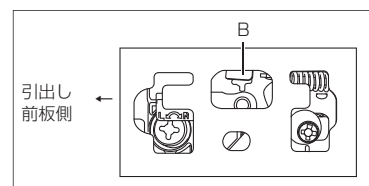
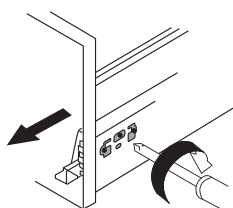


● 引出し扉の外し方

①引出し左右の脇カバーを取り外します。



②B部に+ドライバーを差し込み、引出し後ろ側に止まるまでまわすと、引出し扉が外れます。

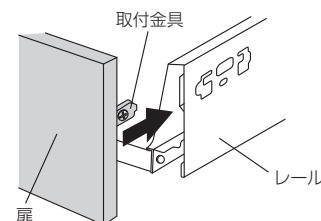


● 引出し扉の取り付け方

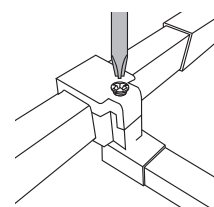
①扉の取付金具をレールに差し込みます。

「カチッ」と音がします。

※取り付け金具が差し込めないときはB部の状態を確認してください。B部全体が見えていないときは、⓪ドライバーで引出し後ろ側に止まるまでまわしてください。



④クロスギャラリーを取り付けます。

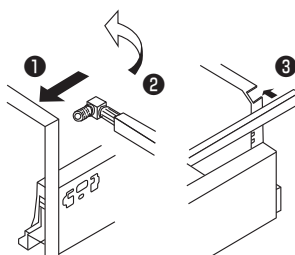


● ギャラリーパイプ取り付け方

①ギャラリーパイプ先端ダボを前板下穴に入れます。

②パイプを引出し前板に対し、垂直に起こします。

③ギャラリーパイプ後端部を背板に押し付けて入れます。



引出し扉の脱着【ローラーレールタイプ】

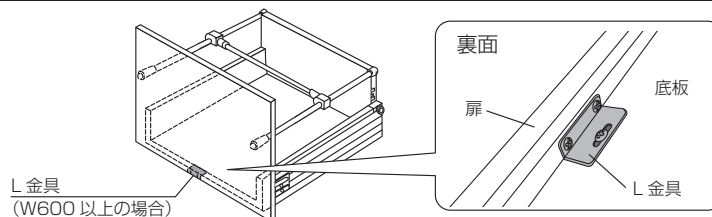
⚠ 調整時のご注意

【キャビネット間口600mm以上の場合】

引出し底板の裏にL金具がついていますので、固定ビスをはずしてから行ってください。

L金具：扉の反り防止用

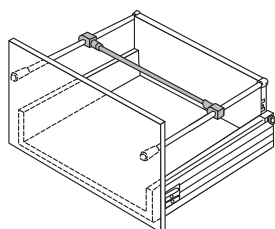
重要：取り付け後（調整後）は必ずビスを取り付けてください。



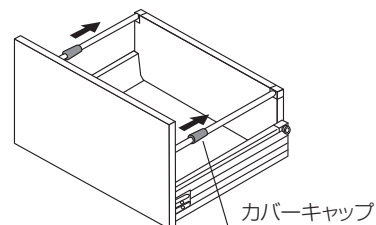
引出しの取り付けと取り外し

● ギャラリーパイプの外し方 ※付いてる場合

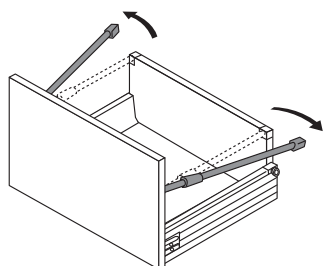
①クロスギャラリーパイプを外します。



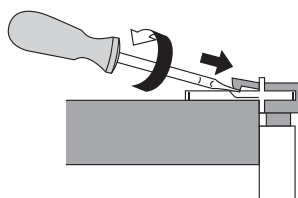
②カバーキャップを奥方向にスライドさせてください。



③サイドギャラリーを背板から取り外します。

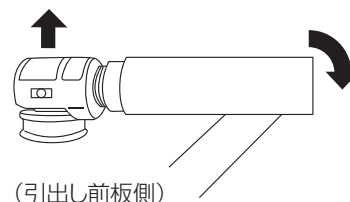


【ローラーレールタイプ】



⊖ドライバーを差し込んで外します。

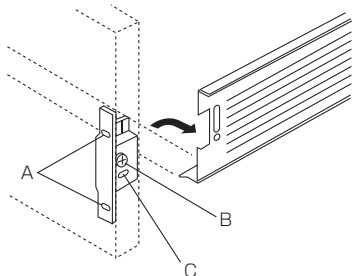
③ギャラリーパイプを倒して扉からダボを抜きます。



(引出し前板側)

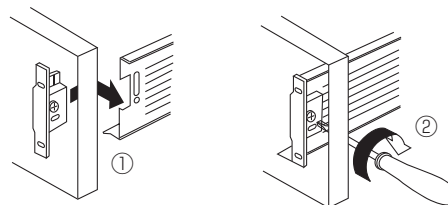
● 引出し扉の外し方

ビスBを⊕ドライバーでゆるめて引き上げるようにして前板を外します。



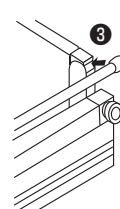
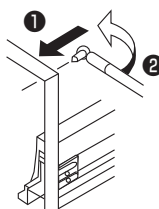
● 引出し扉の取り付け方

取り外しの逆の手順で取り付けます。取り付け後はビスBを+ドライバーでしっかり締めます。

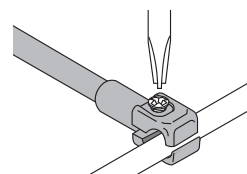


● ギャラリーパイプ取り付け方

- ①ギャラリーパイプ先端ダボを前板下穴に入れます。
- ②パイプを引出し前板に対し、垂直に起こします。
- ③ギャラリーパイプ後端部を背板に押し付けて入れます。



④クロスギャラリーを取り付けます。



引出し扉の調整

警告



必ずおこなう

取り付けたら、傾き・ガタつき・ゆるみがないことを必ず確認してください。

使用中に落下してけがをするおそれがあります。

注意



必ずおこなう

調整はハンドドライバーを使用してください。
電動工具を使用すると破損するおそれがあります。

調整時のご注意

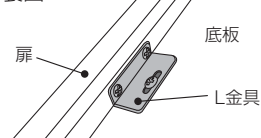
【キャビネット間口600mm以上の場合】

引出し底板の裏にL金具がついていますので、固定ビスをはずしてから行ってください。

L金具：扉の反り防止用

重要：取り付け後（調整後）は必ずビスを取り付けてください。

引出し裏面

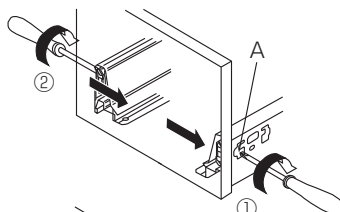


扉の調整【ベアリングレールタイプ】

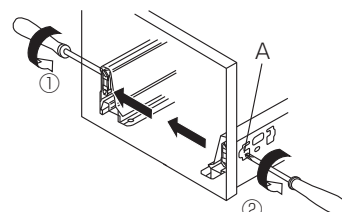
●左右の調整方法

ビスAを⊕ドライバーで調整します。
(左右調整 ±1mm)

右へ1mm (調整範囲)



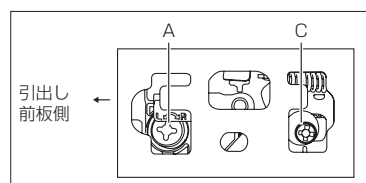
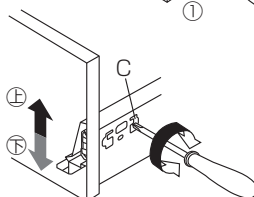
左へ1mm (調整範囲)



●上下の調整方法

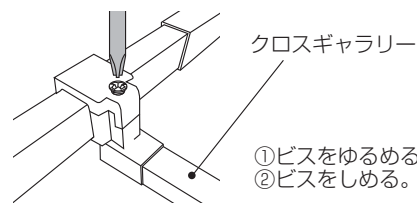
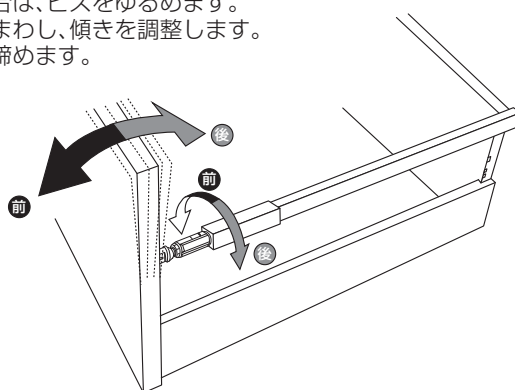
ビスCを⊕ドライバーで調整します。
(上下調整 ±2mm)

上下調整
±2mm



●引出し扉角度調整方法

- ①クロスギャラリー付きの場合は、ビスをゆるめます。
- ②サイドギャラリーパイプをまわし、傾きを調整します。
- ③クロスギャラリーのビスを締めます。



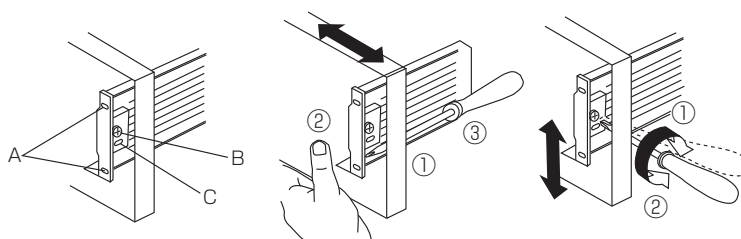
扉の調整【ローラーレールタイプ】

●左右の調整方法

ビスAとビスBを⊕ドライバーでゆるめ、前板の左右の位置を調整し、再びビスAとビスBを締めます。

●上下の調整方法

ビスBを⊕ドライバーでゆるめカムCをまわして上下の位置を調整し、再びビスBを締めます。



小引出しの脱着・調整

警告



必ずおこなう

取り付けたら、傾き・ガタつき・ゆるみがないことを必ず確認してください。

使用中に落下してけがをするおそれがあります。

注意



必ずおこなう

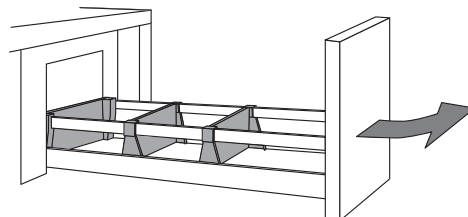
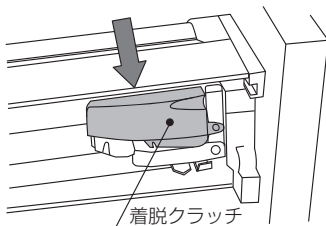
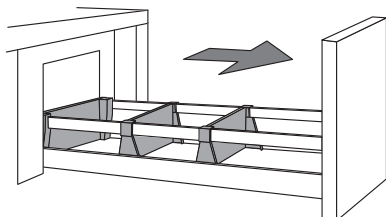
調整はハンドドライバーを使用してください。
電動工具を使用すると破損するおそれがあります。

小引出し（ソフトクローズ付き）

●取り外し方

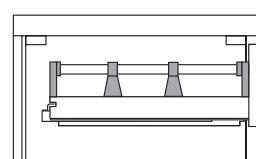
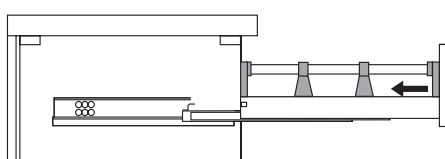
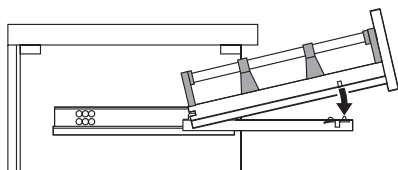
・引出しを手前に引出します。

・引出し裏の手前についている『着脱クラッチ（オレンジ色）』を同時に押しながら、引出しを引っ張り出します。



●取り付け方

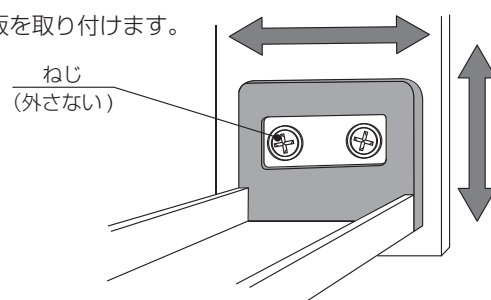
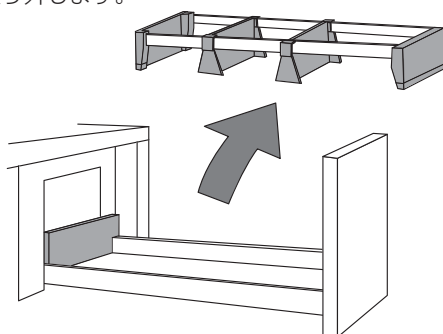
・レールの上に引出しを乗せてから、引出しを閉めるとレールに固定されます。
レールに引出しが傾きなく納まっていることを確認します。



●扉の調整

・仕切りを取り外します。

・調整後に仕切り板を取り付けます。



扉裏のねじ2箇所をゆるめます。(外さない) 他の扉との取り合いを見ながら調整します。(上下3ミリ・左右2ミリ調整できます。)

小引出し（ローラーレール）

●取り外し方

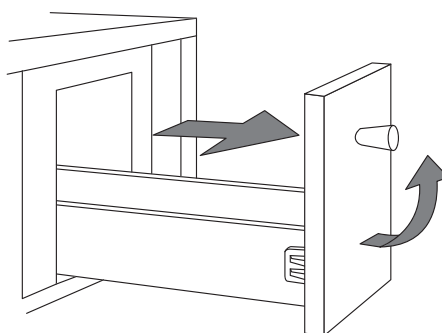
- ①引出しをいっぱいまで手前に出します。
- ②ストッパーが働いているので手前を持ち上げながらさらに引出します。

●取り付け方

- ①引出しのレールを側板のレールにのせます。
- ②ストッパーに注意しながらはめ込みます。

●扉の調整

・P52を参照



オープンロック機構について

⚠ 注意



禁止

不安定な積みかたをしたり、転がりやすいものを入れたりしないでください。

- × 不安定な積み重ね
- × 缶詰の横置きなど

収納物が転がり落ちたり、地震発生時にオープンロック機構が働かず、けがの原因となります。

扉が完全に閉まらない状態で放置しないでください。

- × 収納物が扉に当たっている
- × 物が扉に挟まっている

地震発生時にオープンロック機構が働かず、けがの原因となります。



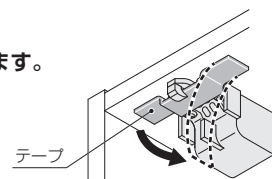
必ずおこなう

万一の地震に備えて、扉の位置を正しく保ってください。

扉にずれがあると、オープンロック機構が正常に働かず、けがの原因となります。

※扉にずれがある場合は、調整してください。

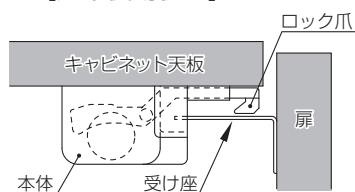
搬送中の破損防止対策として、
ロック爪をテープで固定しています。
組立・設置完了後、テープを
はがしてください。



■特徴

地震などの揺れを感知すると、内部のボールの動きによりロック爪が下がった状態を維持しているため、扉が開かないようにロック状態となります。揺れがおさまると、ロック爪が上がりロックが解除されます。

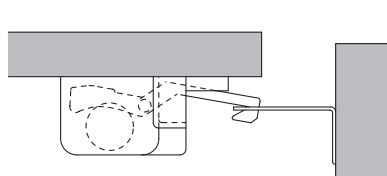
【通常使用状態】



揺れ感知



【ロック状態】



⚠ 注意

※ご使用のオープンロック機構は、使用環境、または状況(建物の構造・階数、吊り戸棚の収納状態、振動の大きさ・性質など)により、性能を十分発揮できない場合があります。

※収納物の破損(損害)等やオープンロック機構の動作については、賠償の対象にはなりませんのでご了承ください。

オープンロック機構が働いた場合の解除時の注意点と解除方法

● 注意点

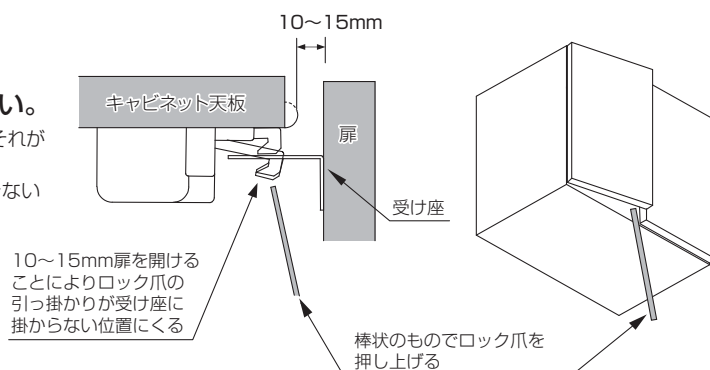
1. 扉に物が挟まっていないか確認してください。
2. 収納物が崩れ落ちないように注意して開けてください。

- 地震が発生した場合、キャビネット内の収納物が不安定になっているおそれがありますので、ご注意ください。
- 地震で躯体(壁や床など)にゆがみが生じている場合は、正常に解除できないおそれがあります。

● 解除方法 (右図参照)

オープンロック機構が自動で解除しない場合、次のような原因が考えられます。

- キャビネットの傾きによりオープンロック機構のロック爪が受け座に引っかかり扉が開きません。

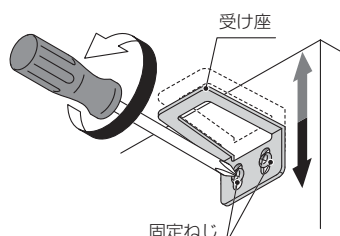
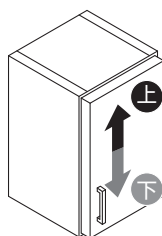


調整方法

〈扉を上下に調整した場合〉

オープンロック機構の受け座の位置を調整してください。

- ① 固定ねじをゆるめる
- ② 受け座を上下にスライドさせて調整する
受け座本体調整代(上:3.5mm 下:3.5mm)
- ③ 固定ねじを締める



扉を下に調整した場合
受け座を上スライド

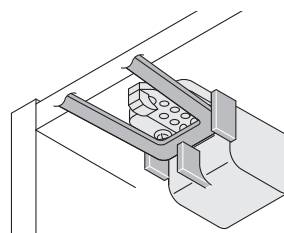
扉を上調整した場合
受け座を下にスライド

〈調整後の確認〉

重要

扉が完全に閉まるか必ず確認してください。

- オープンロック機構の調整完了後、扉が完全に閉まるか確認してください。扉が完全に閉まれば調整は完了です。
- 扉が閉まらない場合や異音がある場合は再度、扉および受け座を調整して扉が完全に閉まるようにしてください。



コーキング処理

⚠ 注意



必ずおこなう

指定した箇所をシリコンシーリング剤でシールする。

ただし、コーキングの部位やコーキングのタイミングは現地の状況に合わせてください。

シールが不完全な場合、水こぼれによりキッチン部材・床・壁の損傷や劣化の原因になります。

取り付け・仕上げに使われる、溶剤・接着剤・洗剤・その他薬品類については、容器などに記載の注意表示に従って、正しく使う。

誤った使い方をすると、人体に影響が出たり、キッチン部材・床・壁の損傷や劣化の原因になります。

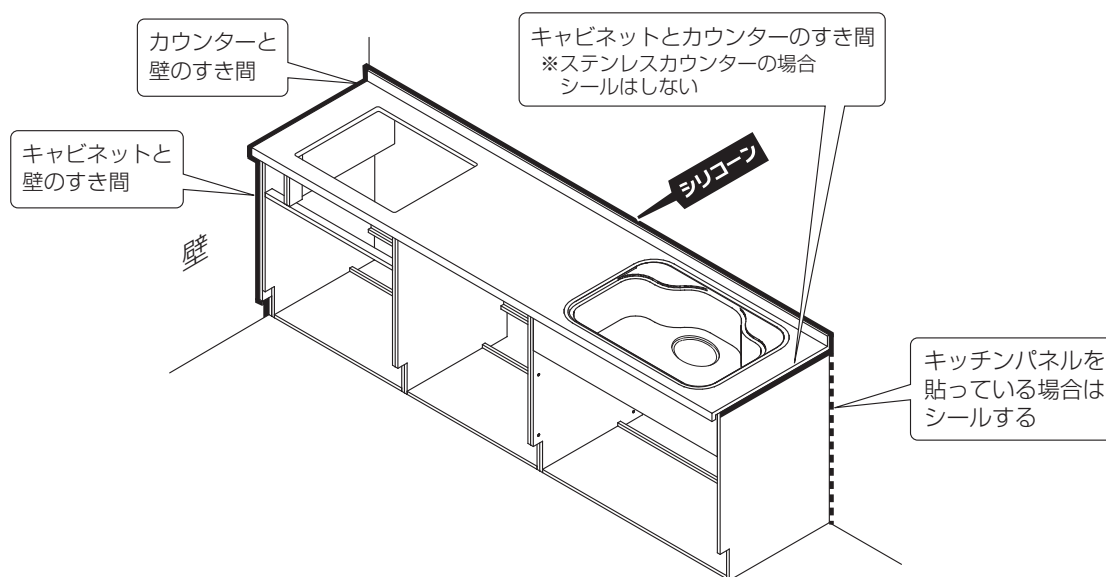
コーキング部位

カウンターおよびキャビネットなどとキッチンパネル、壁面、エンドパネル、床面などのすき間をシリコンシーリング剤でシールしてください。

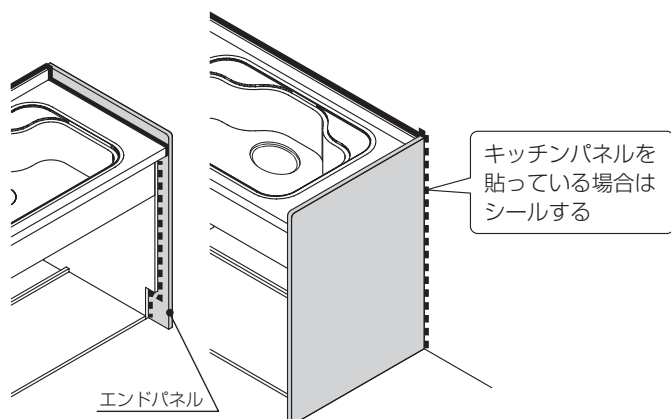
※壁面がキッチン取り付け後仕上げの場合は、材工建築工事となります。

————— はシールする。 は現場の状況(打合せ)により判断。

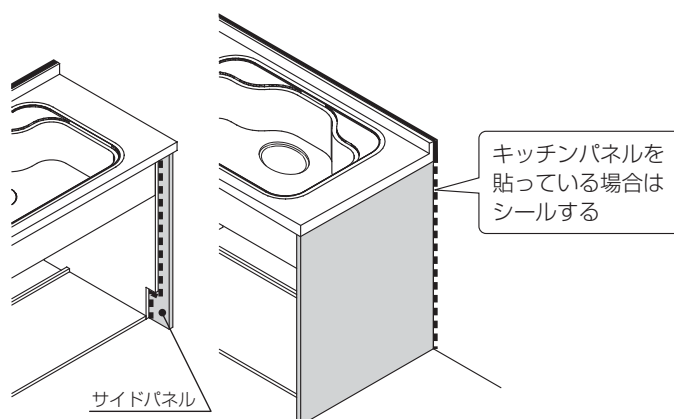
【パネルなしの場合】



【エンドパネル付の場合】



【サイドパネル付の場合】

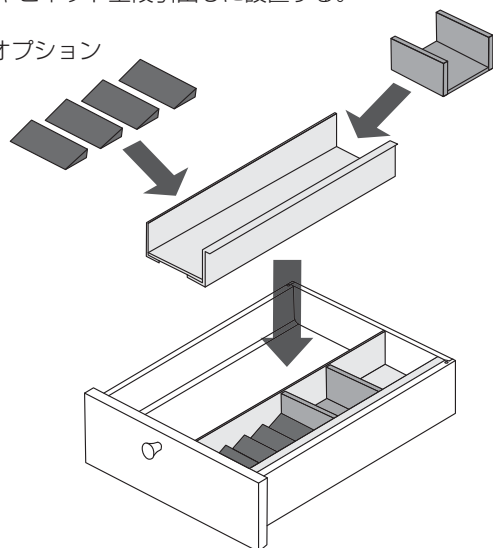


扉の調整・清掃・検査

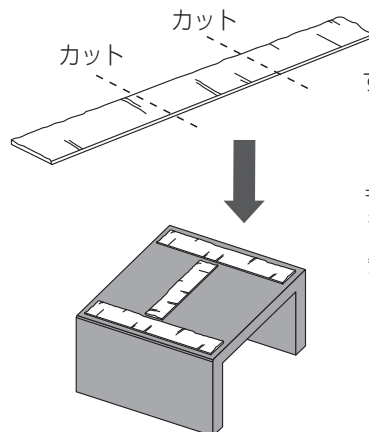
引出しトレイの設置

・調理キャビネット上段引出しに設置する。

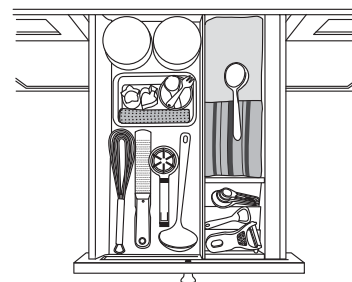
例) オプション



・コの字の仕切り部材の裏に『すべり止めテープ』を貼ってください。



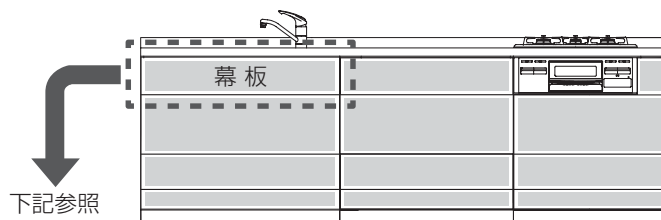
すべり止めテープは
トレイに同梱。



【扉の調整】

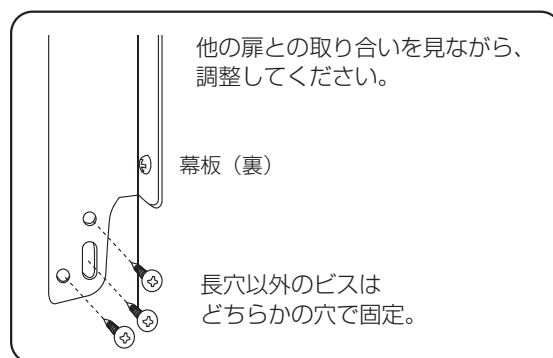
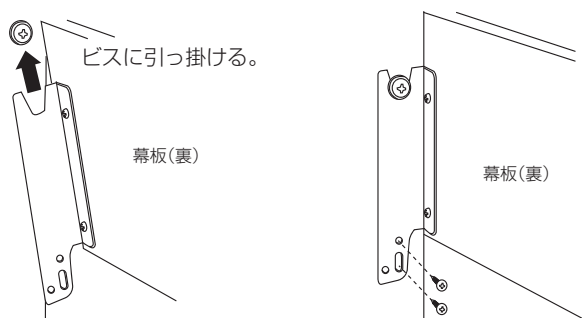
各扉のすき間が均等になるように調整してください。

●調整方法は前ページで確認してください。



【シンクキャビネットの幕板の取り付けと調整方法】

上のビスに引っ掛けてから、下のビスで固定してください。



【清掃】

キッチン取り付け完了後、清掃を行ってください。

●表面のほこり、汚れを拭き取りながら傷などの損傷を調べてください。

●梱包材、木くずをかたづけてください。

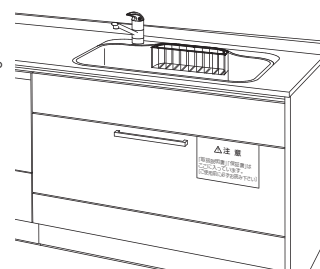
【検査】

必ず検査を実施してください。

●取り付け設置後の検査のチェックリストに基づいて、外観・機能・傷などの検査を行ってください。

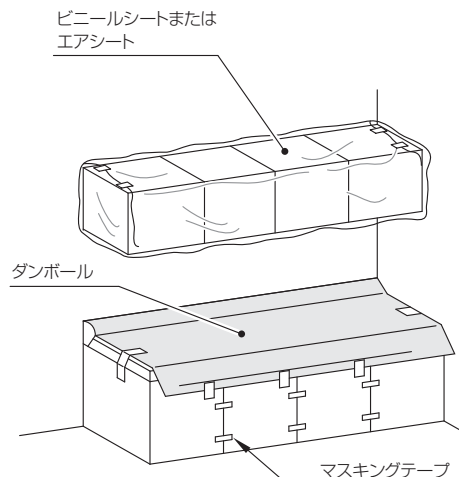
●チェックリストに取付設置店・取付設置日・取付設置責任者を記入してください。

●取扱説明書（保証書付）の保証書に必要事項を記入し、引出しに必ず入れ、別紙の印刷紙を引出しにはさんでおいてください。フード、コンロ等機器用取扱説明書、保証書も必ず入れてください。



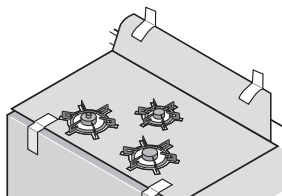
【養生(下記養生ポイント参照)】

- キッチン取付後の設備、建築工事などで汚れたり・傷ついたりしないように厳重に養生しておいてください。
- カウンター・シンク面の養生は特に厳重に行ってください。
- 養生材は、梱包に使ったダンボールを使うか、現場手配のエアシートなどを使うなどして保護してください。

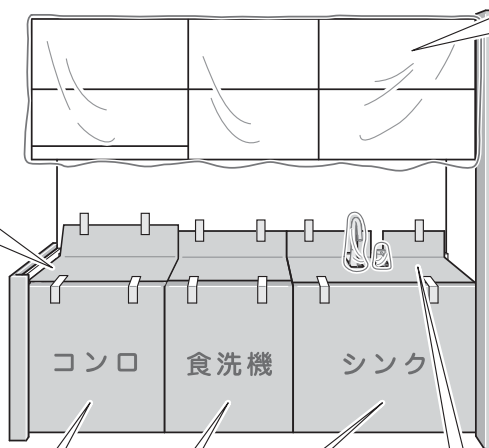
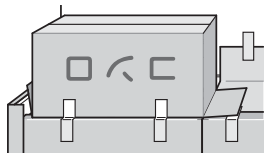


養生ポイント キッチン取付完了後はクリーニングをしたあと、下記要領にて養生をしてください。

梱包内に養生専用ダンボールがある場合は使用する。

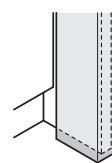


養生専用ダンボールがない調理機器は、包装ダンボールを逆さに使用する。



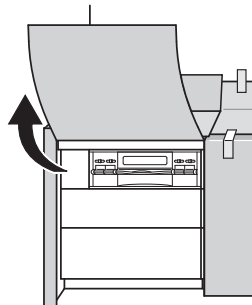
ウォールキャビネットおよびフードはビニールまたはエアシートで養生する。

エンドパネルは木口面周辺をダンボールで養生する。



フロアキャビネットは、ダンボールで養生する。

※後工程工事作業時にめくりやすいように**キャビネットサイズ毎に分割**してください。



ポイント!

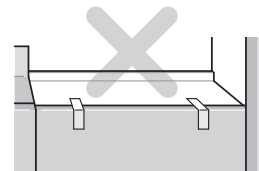
工事内容を書いておくと後工程業者様がわかりやすくなります。

カウンター上面はダンボールで養生する。

【注意】

カウンター上面や扉に直接養生テープを貼らないでください。

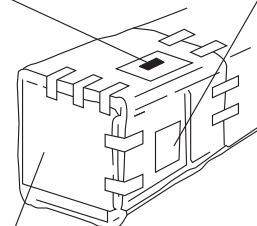
※糊残りや汚れの原因となります。



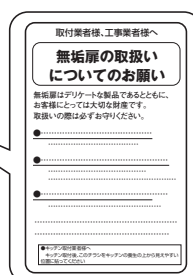
シンクの部分、機器のある部分に「△ 注意」用紙を貼ってください。



キッチン正面部分に「無垢扉の取扱いについてお願い」用紙を貼ってください。



側面も養生してください



MEMO

Handwriting practice lines consisting of 20 sets of three horizontal lines (top, middle dashed, bottom) for letter formation.

取付設置後の検査

取付設置後の検査

取付設置が終わったら、チェックリストに基づいて必ず検査をおこなってください。

項 目		チェックリスト	検査結果
ベースキャビネット ウォールキャビネット	1	キャビネットは壁にしっかり固定したか、ガタツキは無いか	良 ・ 否 ・ 未
	2	キャビネット同士の連結はしっかりされているか	良 ・ 否 ・ 未
	3	キャビネットの上下・前後は揃っているか	良 ・ 否 ・ 未
	4	引出しの動きはスムーズか	良 ・ 否 ・ 未
	5	ウォールキャビネットの取付時に下地にビスを打ちつけたか	良 ・ 否 ・ 未
	6	吊り戸に荷重をかけてみてガタツキはなかったか	良 ・ 否 ・ 未
扉	7	扉の上下・左右・前後のバランスは良いか	良 ・ 否 ・ 未
	8	開閉時の調子は良いか、丁番・レールの緩みはないか	良 ・ 否 ・ 未
トップ	9	トップは水平に固定したか	良 ・ 否 ・ 未
	10	バックガードと壁との取り合いは適切か	良 ・ 否 ・ 未
レンジフード	11	しっかり壁に固定したか	良 ・ 否 ・ 未
	12	ウォールキャビネットとの取り合いは良いか	良 ・ 否 ・ 未
	13	コンセントにしっかり接続したか	良 ・ 否 ・ 未
水 栓	14	カウンターにしっかり固定したか	良 ・ 否 ・ 未
	15	レバーの動きはスムーズか	良 ・ 否 ・ 未
シンク	16	排水トラップはしっかり固定したか	良 ・ 否 ・ 未
	17	水を流してみても水漏れはなかったか	良 ・ 否 ・ 未
	18	セキュリティシールは貼ったか	良 ・ 否 ・ 未
コンロ	19	ゴトク・プレートなどにガタつきは無いか	良 ・ 否 ・ 未
	20	グリル扉やスイッチ部の開閉はスムーズか	良 ・ 否 ・ 未
	21	点火火花は正常か	良 ・ 否 ・ 未
全 体 その他	22	指示通り取り付けしたか（オプション類含む）	良 ・ 否 ・ 未
	23	各部品・部材にキズ・汚れは無いか	良 ・ 否 ・ 未
	24	各部品・部材にガタつき・キシミは無いか	良 ・ 否 ・ 未
	25	取付後きれいに清掃したか（キャビネット・扉・抽斗内・カウンター）	良 ・ 否 ・ 未
	26	キッチンパネル表面がコーキングなどで汚れていないか	良 ・ 否 ・ 未
	27	保証書は1ヶ所に保管したか（シンクキャビの抽斗の内）	良 ・ 否 ・ 未
	28	養生はしたか（特にトップ）	良 ・ 否 ・ 未
	29	食洗機などのビルトイン機器はキッチンと取付けられたか	良 ・ 否 ・ 未
	30	付属品などは不足なくそろっているか	良 ・ 否 ・ 未

・ 取付設置店	・ 取付設置日	・ 取付設置責任者
---------	---------	-----------

〈取付・設置業者様へ〉

各種取扱説明書は必ずキャビネット内にまとめてお引き渡しください。